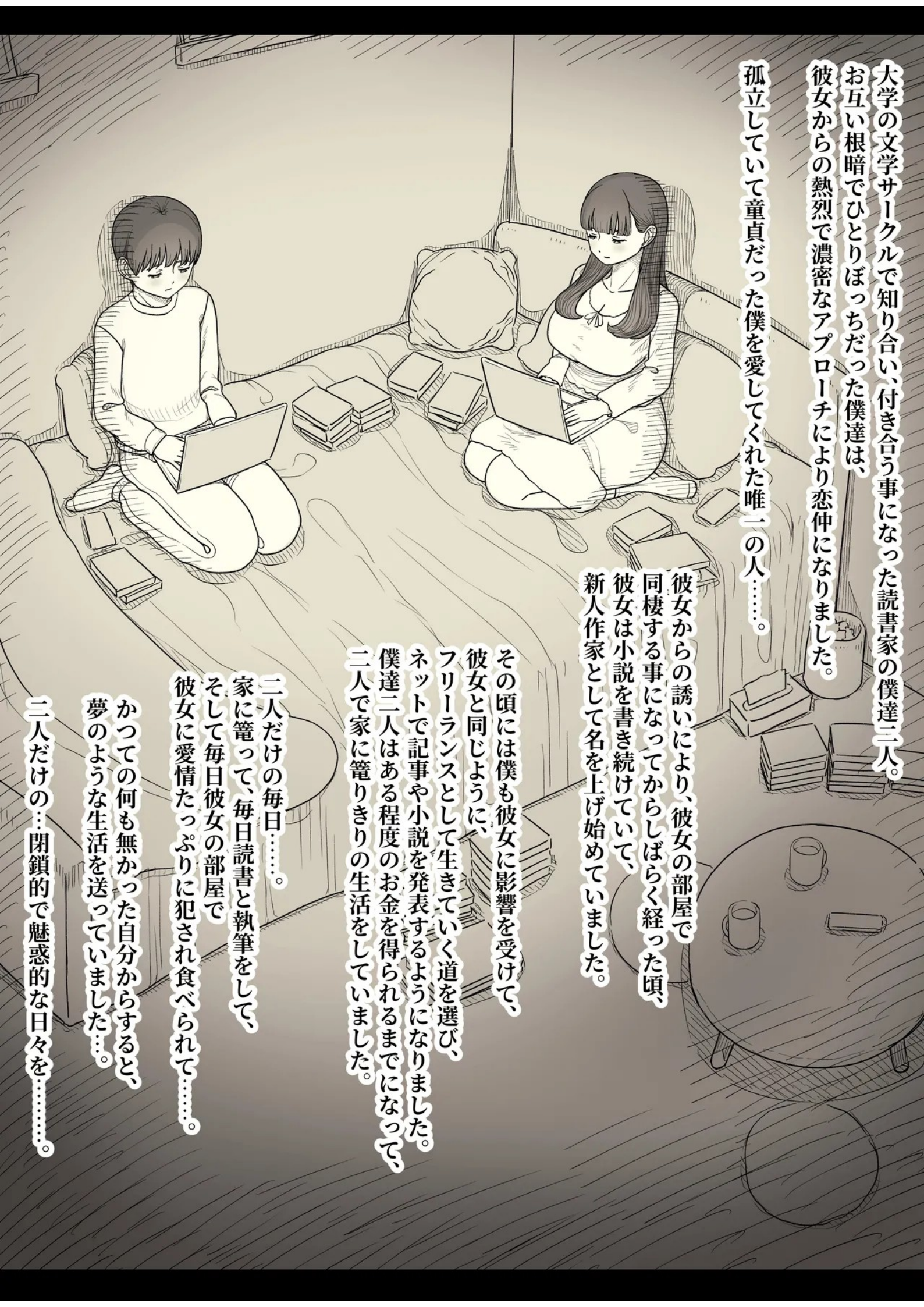
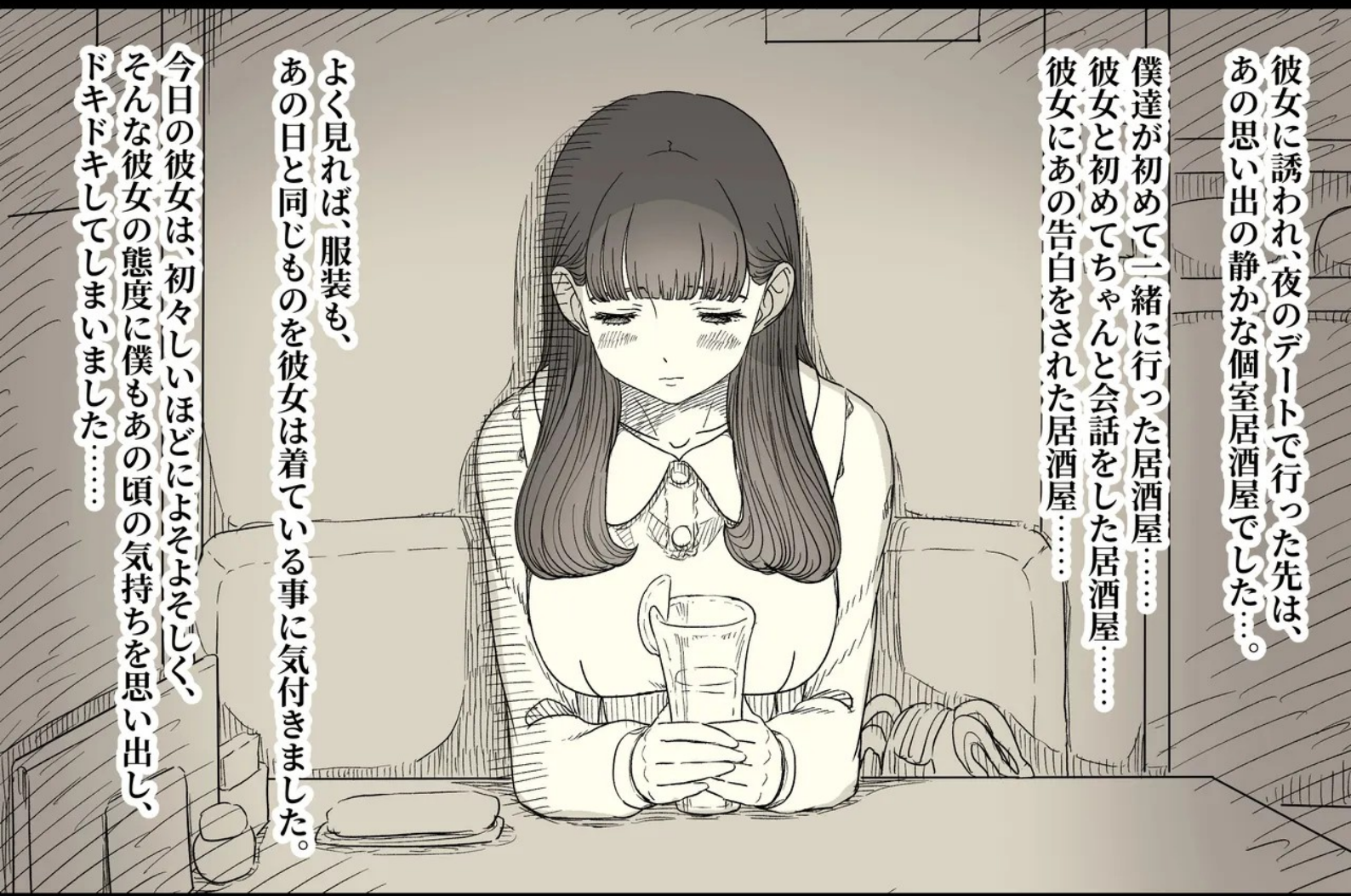

109ページ
文学女子に食べられる6
女性優位
徹底責められ
最終話!
サークルひまわりのたね 種乃なかみ

文学女子に食べられる 6


大学の文学サークルで知り合い、付き合う事になった読書家の僕達二人。
お互い根暗でひとりぼっちだった僕達は、
彼女からの熱烈で濃密なアプローチにより恋仲になりました。
孤立していて童貞だった僕を愛してくれた唯一の人……。
彼女からの誘いにより、彼女の部屋で
同棲する事になってからしばらく経った頃、
彼女は小説を書き続けていて、
新人作家として名を上げ始めていました。
その頃には僕も彼女に影響を受けて、
彼女と同じように、
フリーランスとして生きていく道を選び、
ネットで記事や小説を発表するようになりました。
僕達二人はある程度のお金を得られるまでになって、
二人で家に篭りきりの生活をしていました。
二人だけの毎日……。
家に篭って、毎日読書と執筆をして、
そして毎日彼女の部屋で
彼女に愛情たっぷりに犯され食べられて……。
かつての何も無かった自分からすると、
夢のような生活を送っていました…。
二人だけの…閉鎖的で魅惑的な日々を……。

そんな生活を続けていたある日、
彼女は突然かしこまって、
僕を夜のデートに誘ってきました…。

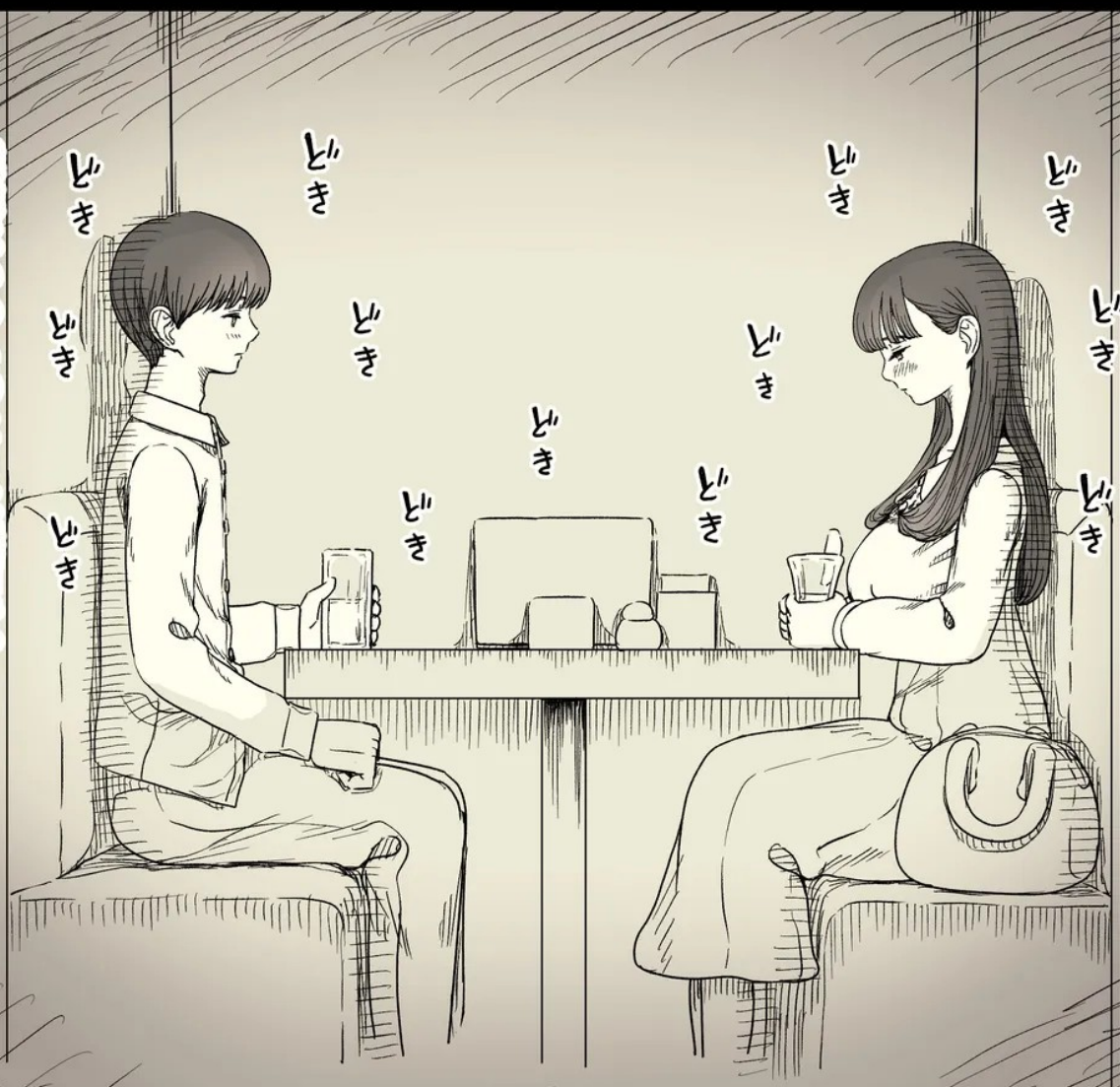
いつも、部屋に二人で篭りっきりで、
読書と文筆と
そして体を通して愛を確かめ合う事に
没頭する毎日をおくっていて、
どこかに出かけるなんて、
全然無い毎日だったのに……。



彼女に誘われ、夜のデートで行った先は、
あの思い出の静かな個室居酒屋でした…。
僕達が初めて一緒に行った居酒屋……
彼女と初めてちゃんと会話をした居酒屋……
彼女にあの告白をされた居酒屋……

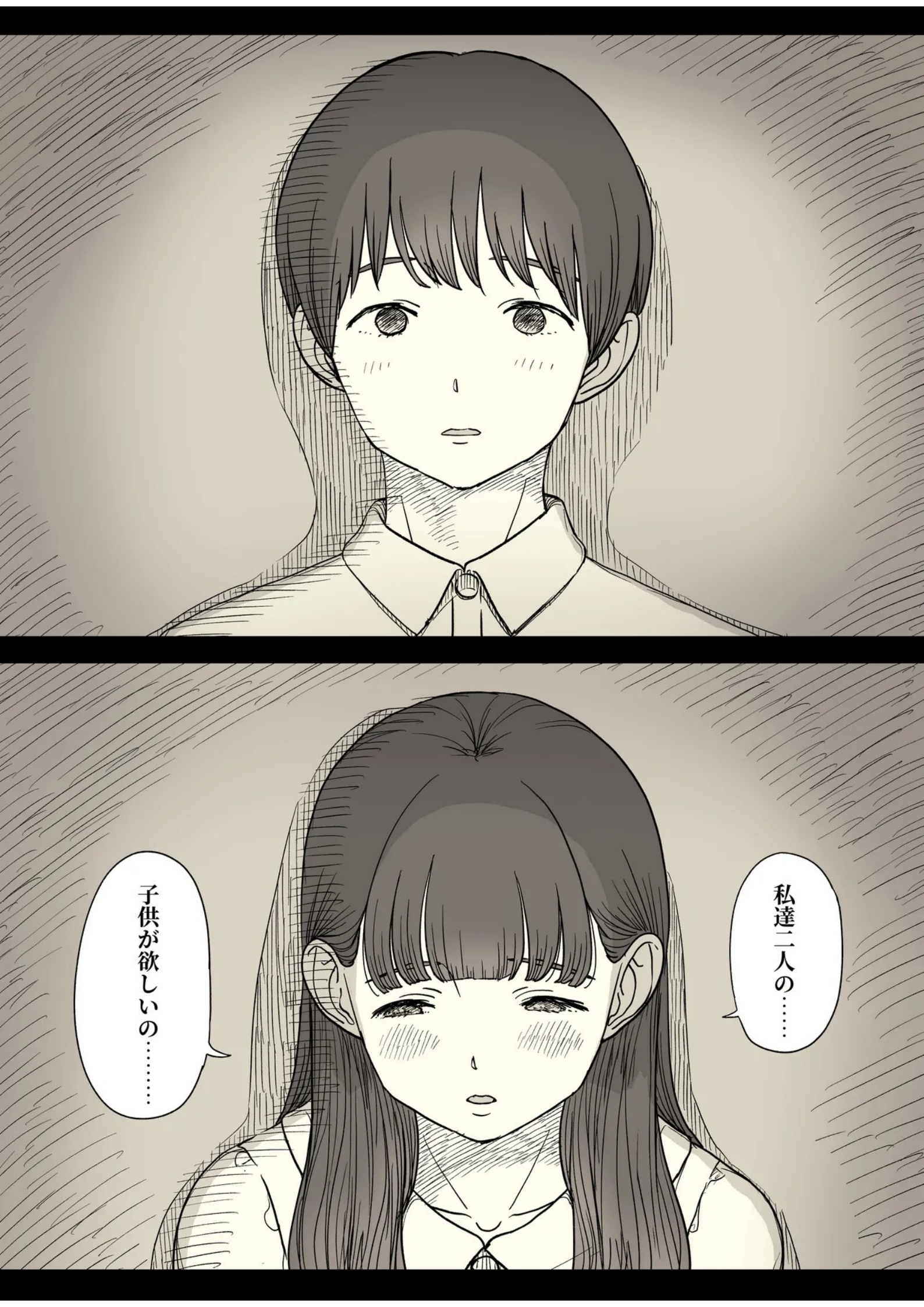
よく見れば、服装も、
あの日と同じものを彼女は着ている事に気付きました。
今日の彼女は、初々しいほどによそよそしく、
そんな彼女の態度に僕もあの頃の気持ちを思い出し、
ドキドキしてしまいました……

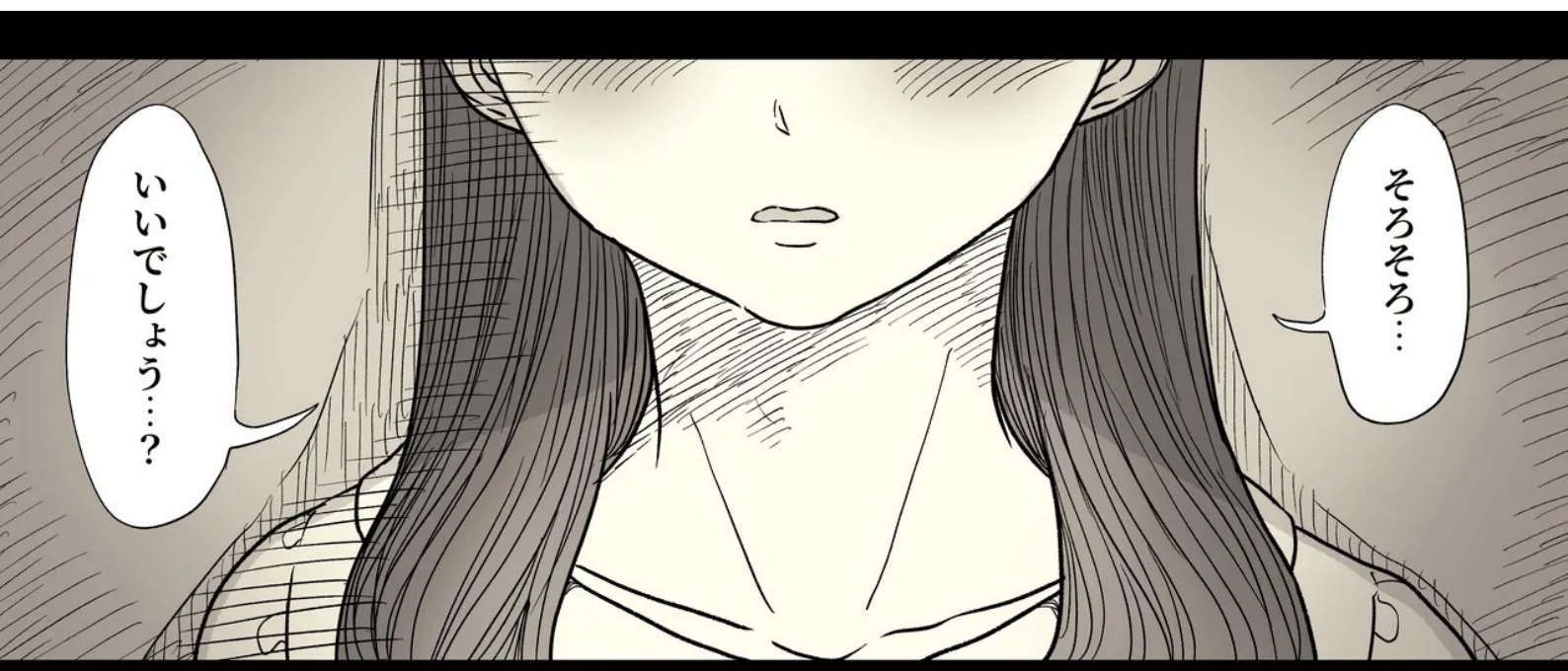
今日は何の記念日でも特別な日でもないのに……
彼女は一体、どういうつもりで……



僕達はいつものように無口で、
ゆっくりとお酒を飲みながら、そんな事を思っていると、
彼女はついに口を開きました……

「子供が…欲しいの……」


私達二人の……
子供が欲しいの……



まだ若く結婚もしていない僕達。
子供を作る事なんて。
僕は恥ずかしながら、今この言葉を聞くまで
意識していませんでした。

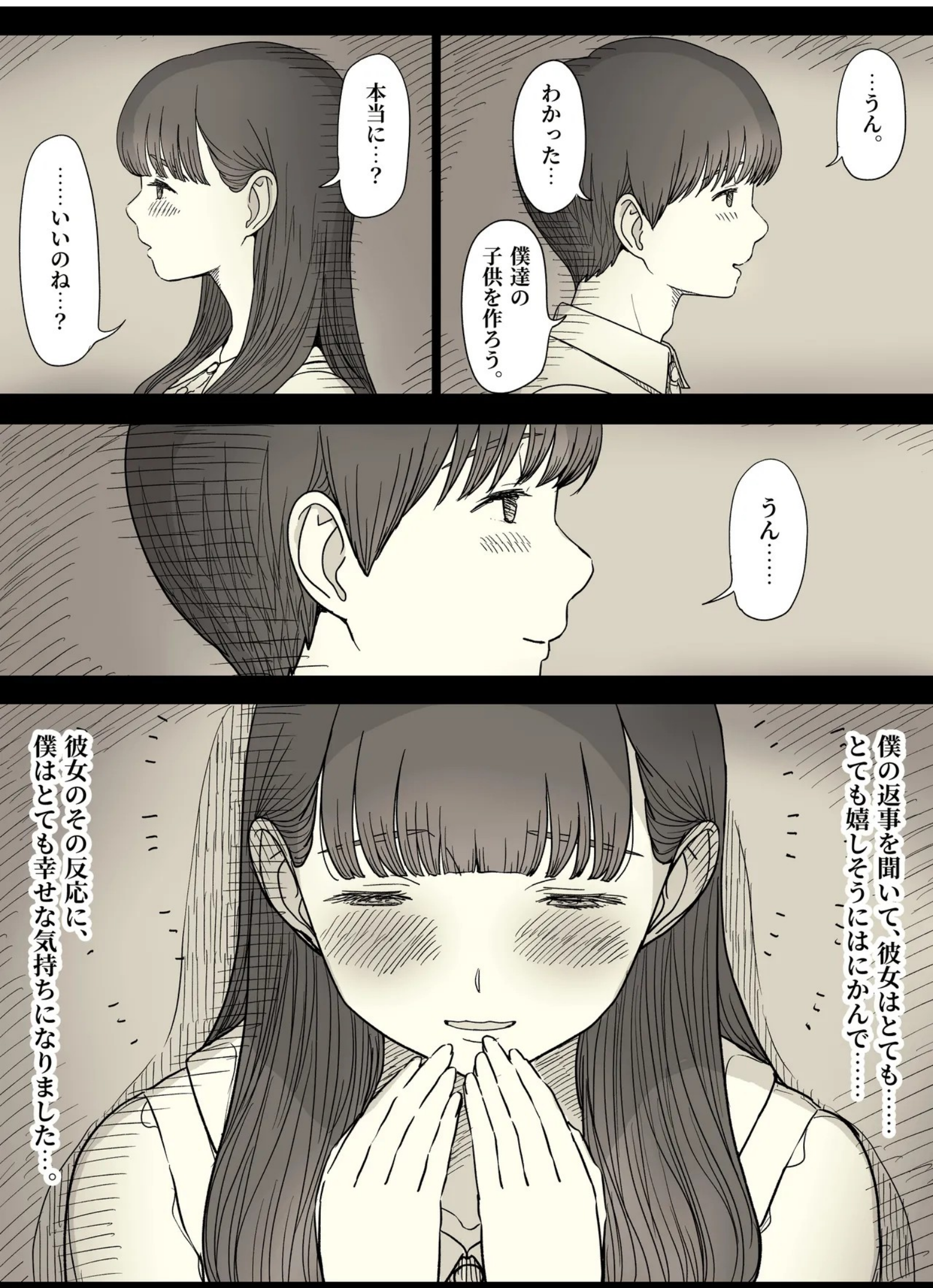
僕達の関係は、今までもずっと、
彼女が全て主導してきました。

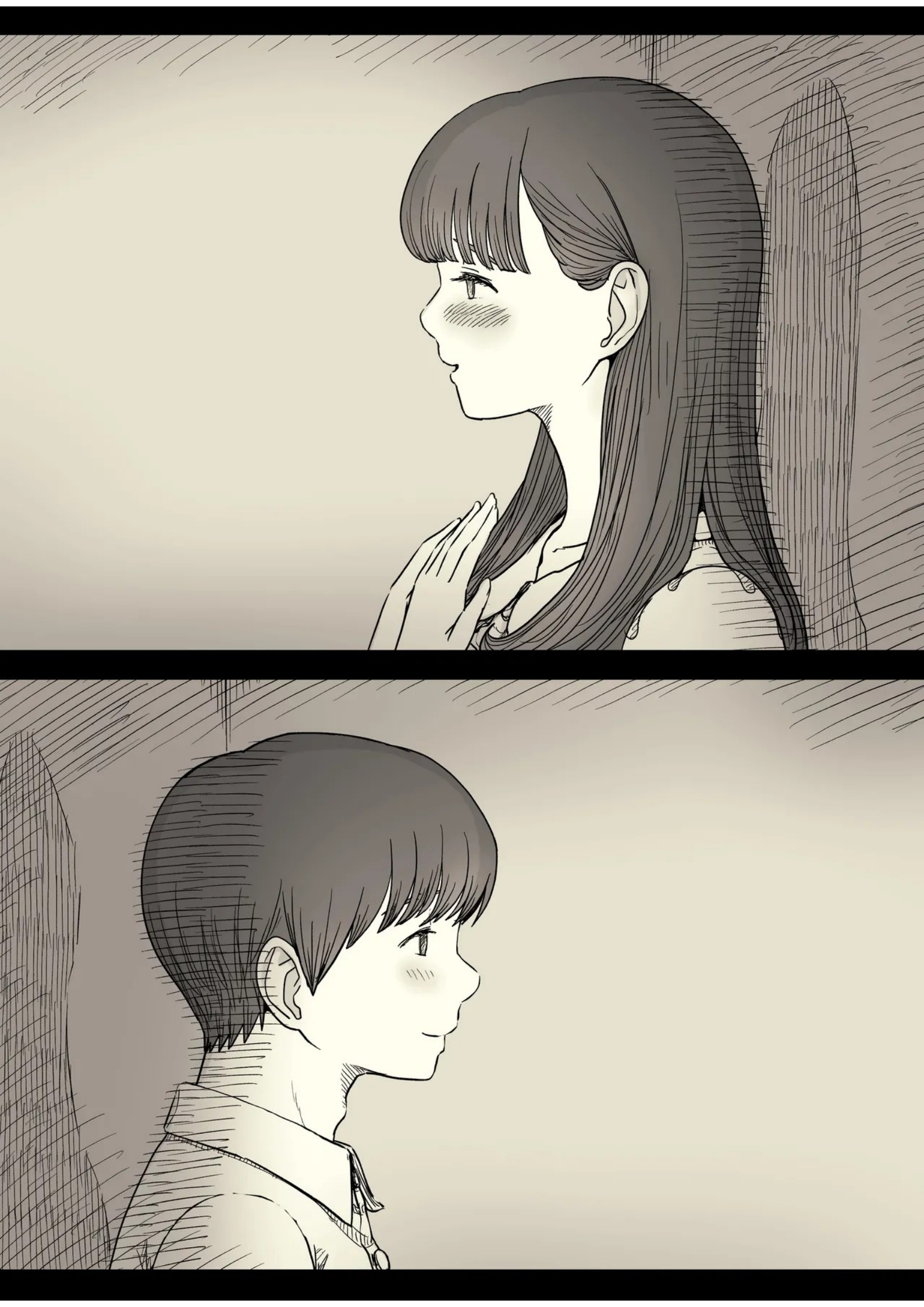
こんな何の取り柄もない僕を、
こんなにも愛してくれ続けている彼女…。

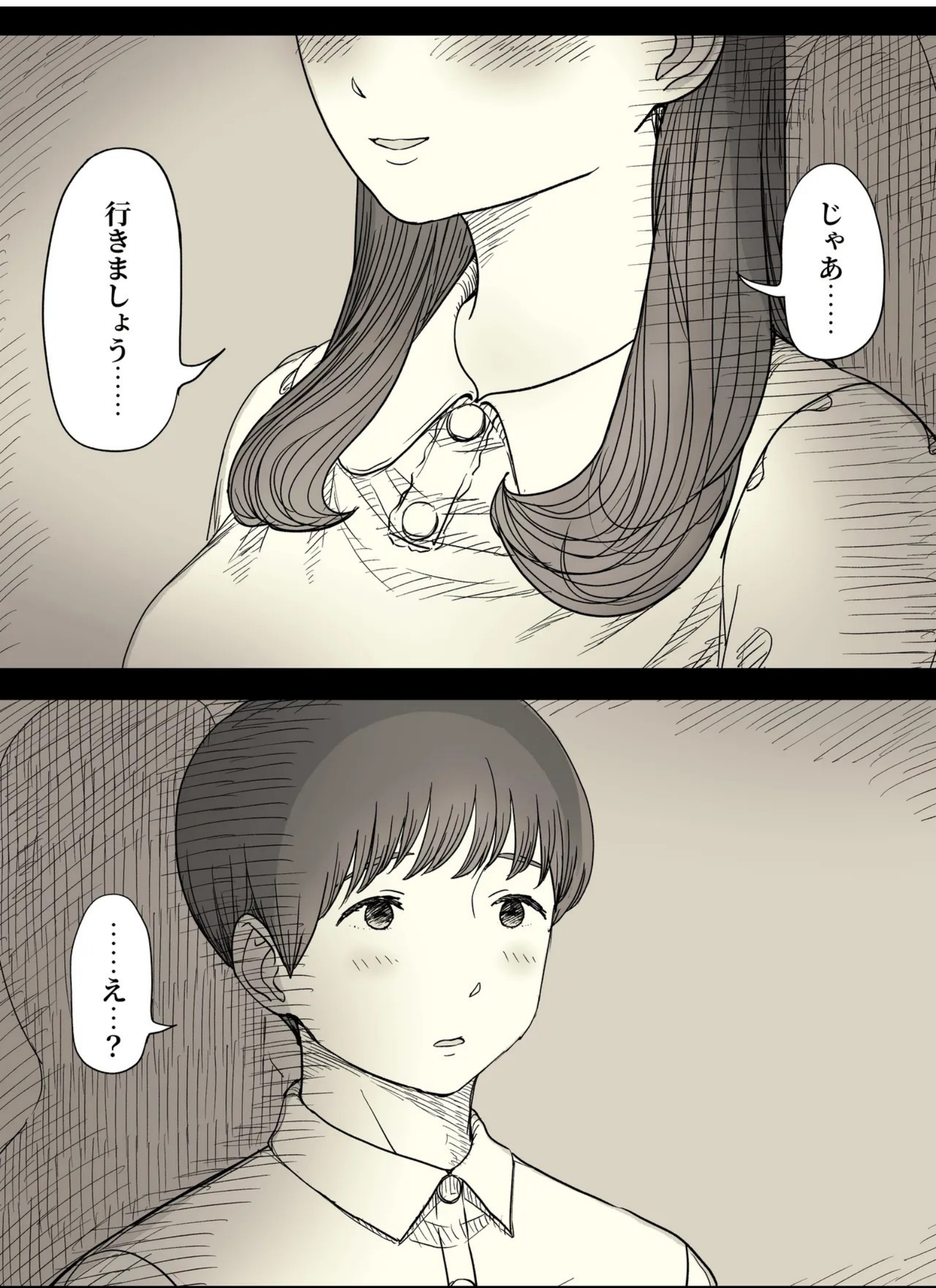
今まで彼女と関わってきて、
彼女はとても愛情深い人だとわかっていたので、
本当の意味での一つに……
子供まで作って、二人の人生を一つにしたい…
その気持ちが伝わってきました……。

自信は何も無いままの僕だけど、
彼女と一緒なら…
僕も彼女を本当の意味で幸せにしたい…
そう心の底から彼女を愛していました……

そうして、
僕も覚悟を決めました…。


…うん。
わかった…
僕達の
子供を作ろう。
本当に…？
……いいのね…？
うん……
僕の返事を聞いて、彼女はとても……
とても嬉しそうにはにかんで……
彼女のその反応に、
僕はとても幸せな気持ちになりました…。



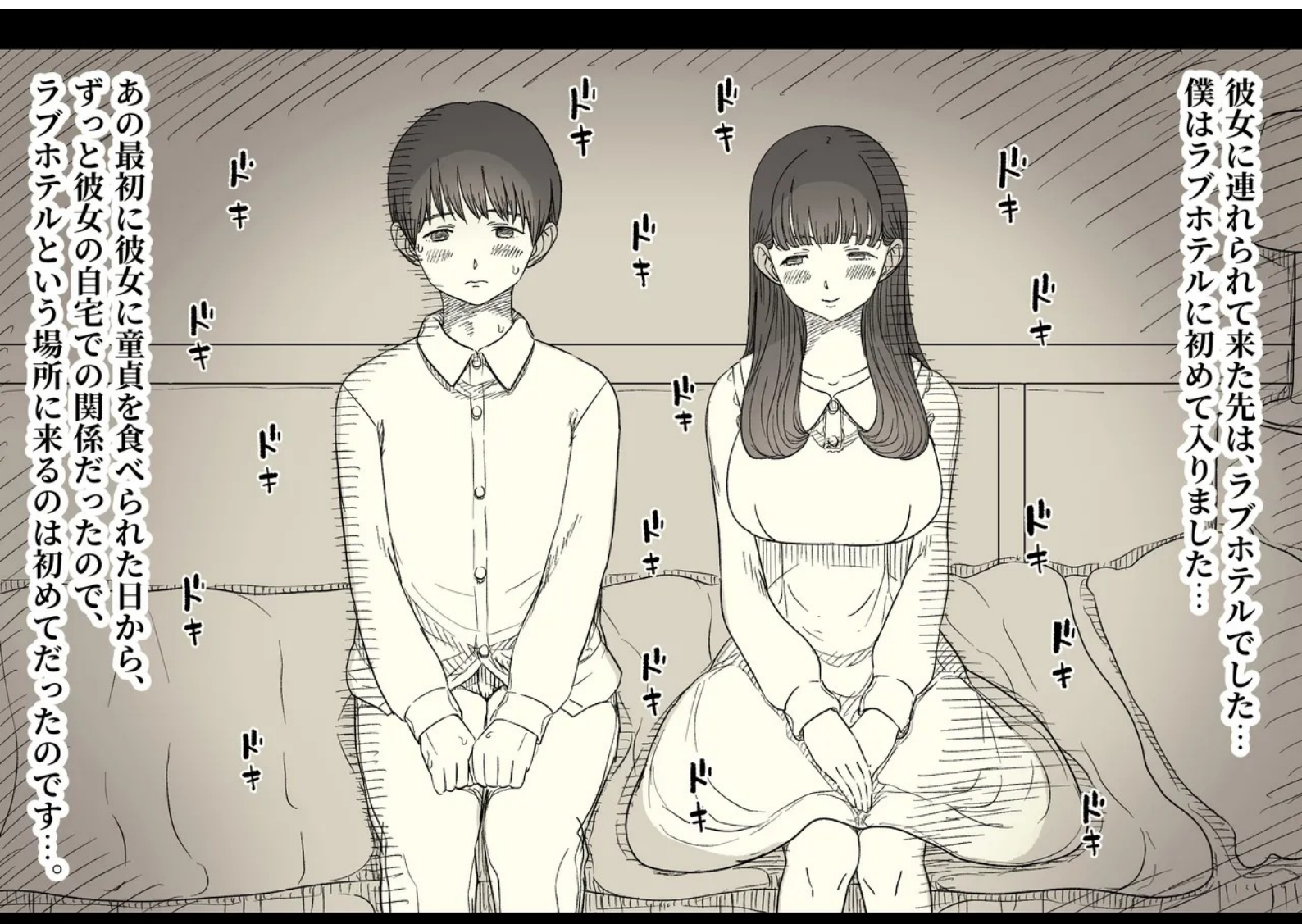

じゃあ……
行きましょう……
……え…？

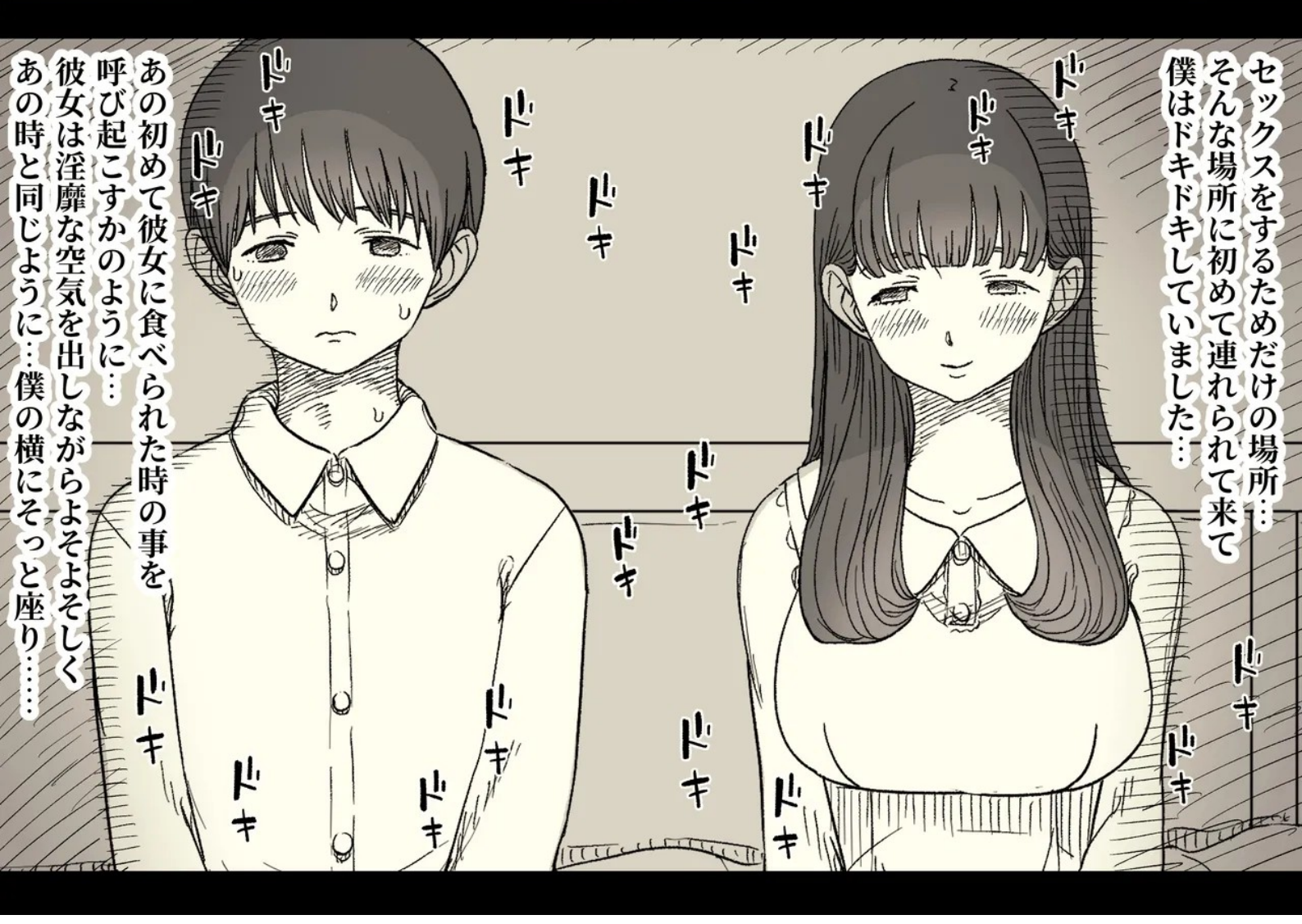


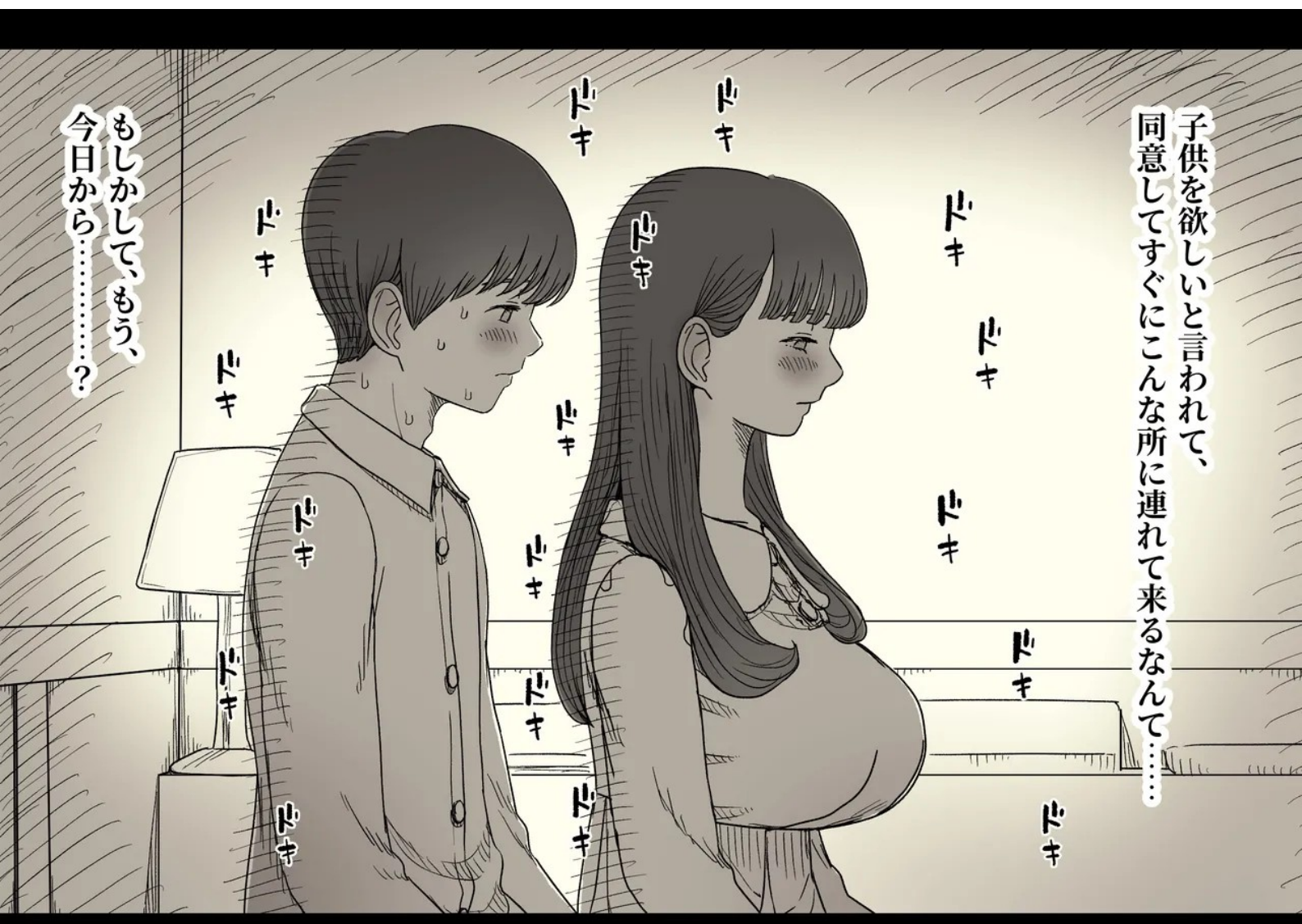
そんな事を思いながら……

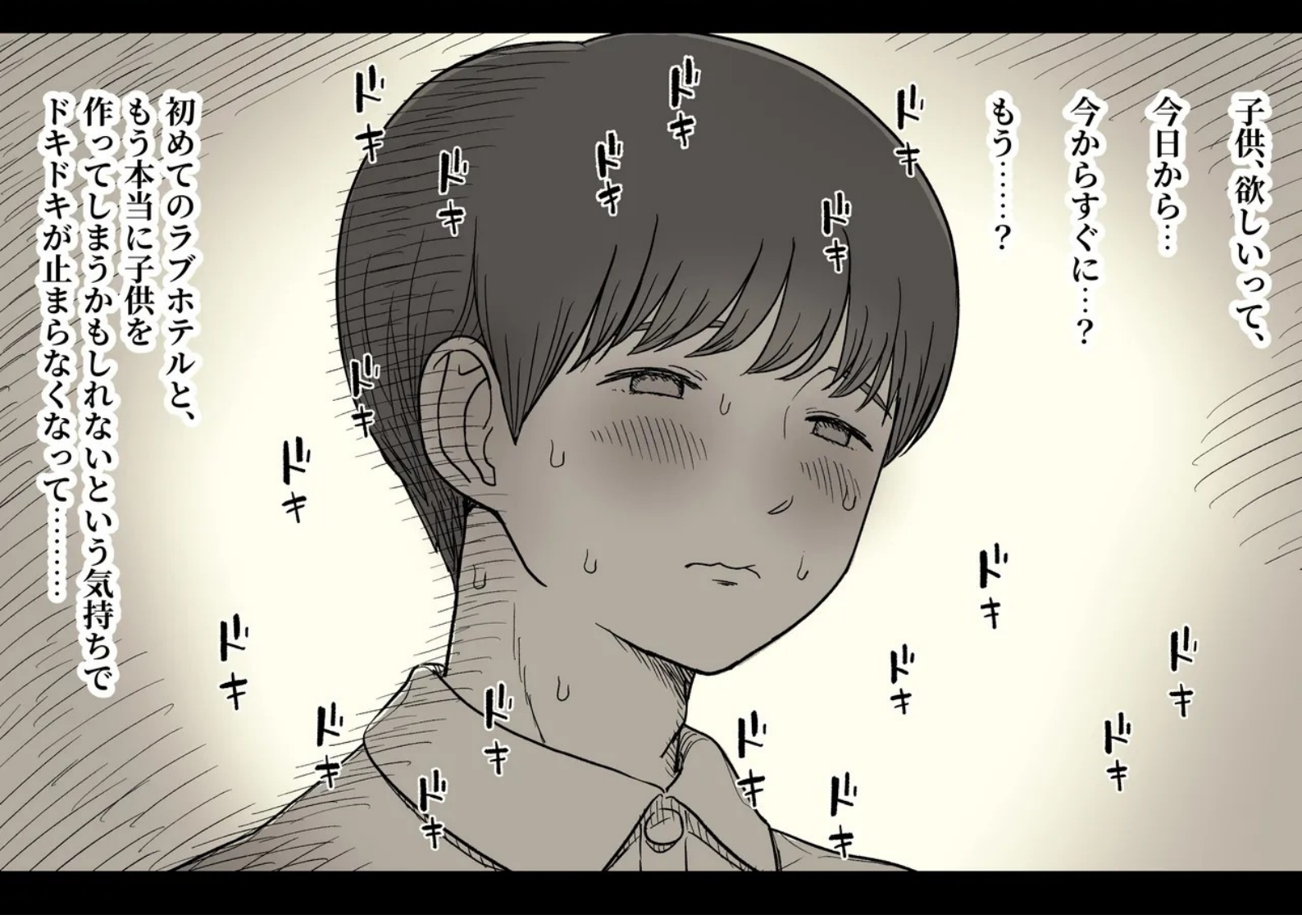
僕は彼女に手を引かれ……

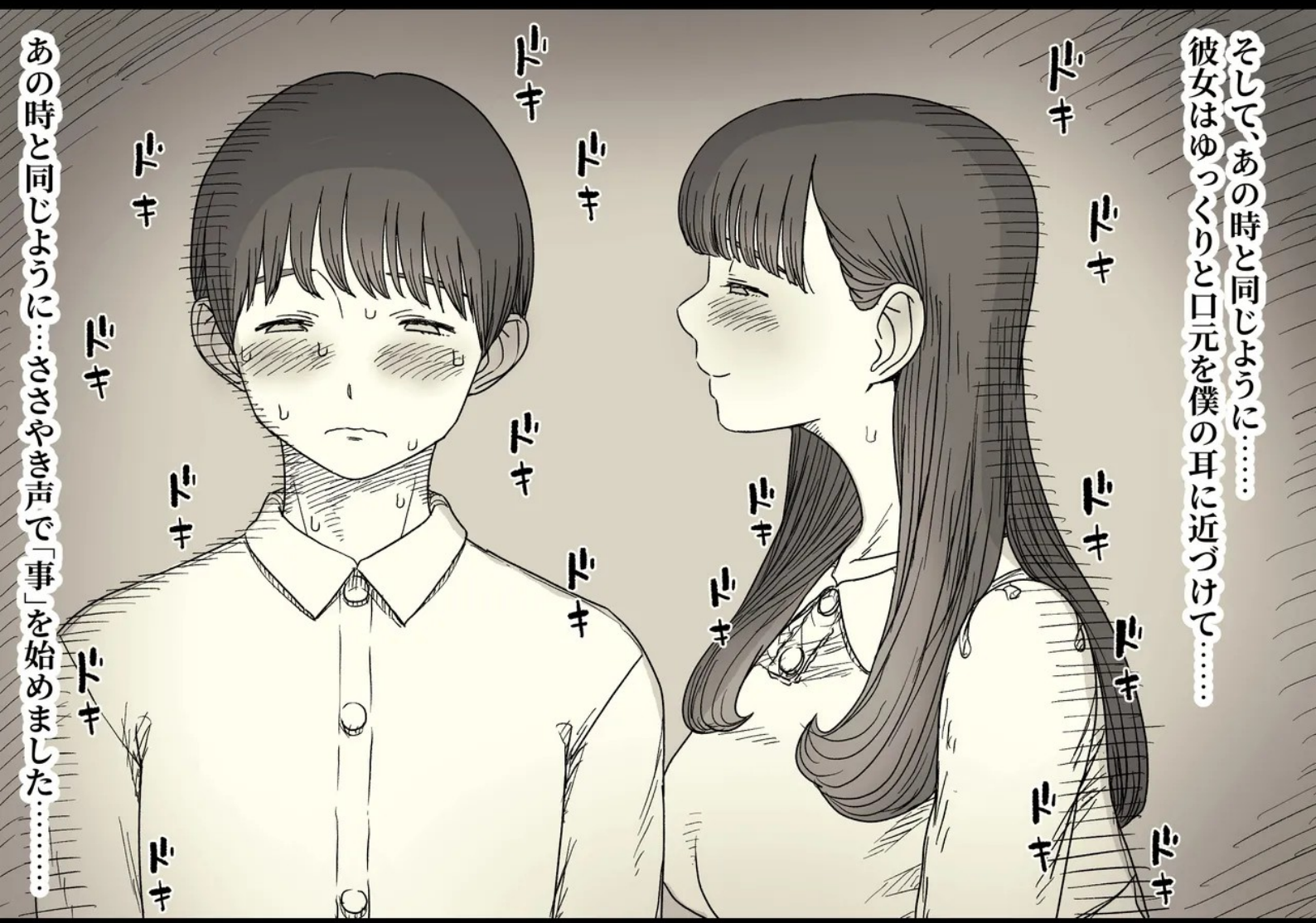
夜の街の奥へと歩いて行きました……

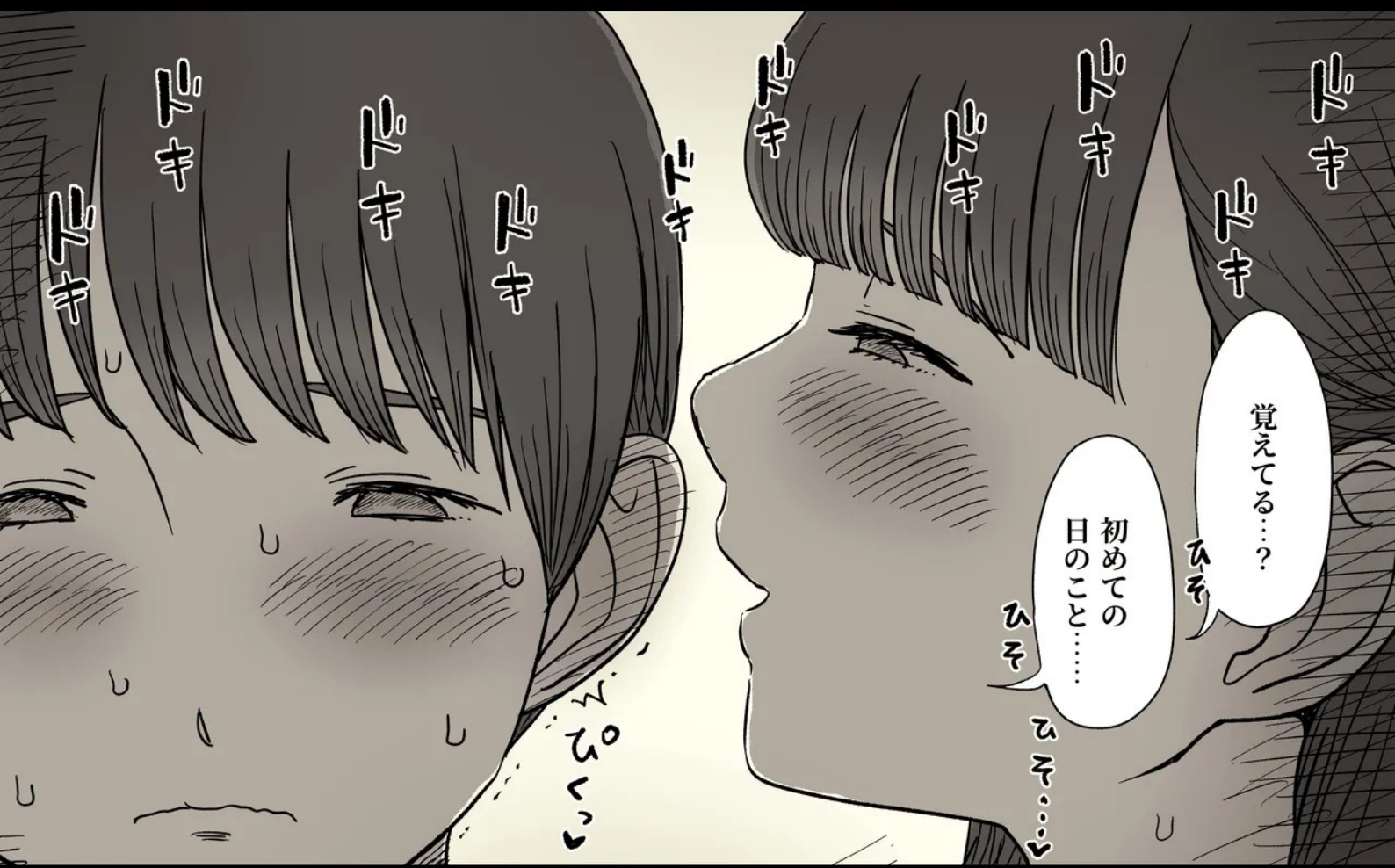

彼女に連れられて来た先は、ラブホテルでした…
僕はラブホテルに初めて入りました…
あの最初に彼女に童貞を食べられた日から、
ずっと彼女の自宅での関係だったので、
ラブホテルという場所に来るのは初めてだったのです…。
ドキ


セックスをするためだけの場所…
そんな場所に初めて連れられて来て
僕はドキドキしていました…
あの初めて彼女に食べられた時の事を
呼び起こすかのように…
彼女は淫靡な空気を出しながらよそよそしく
あの時と同じように…僕の横にそっと座り……
ドキ

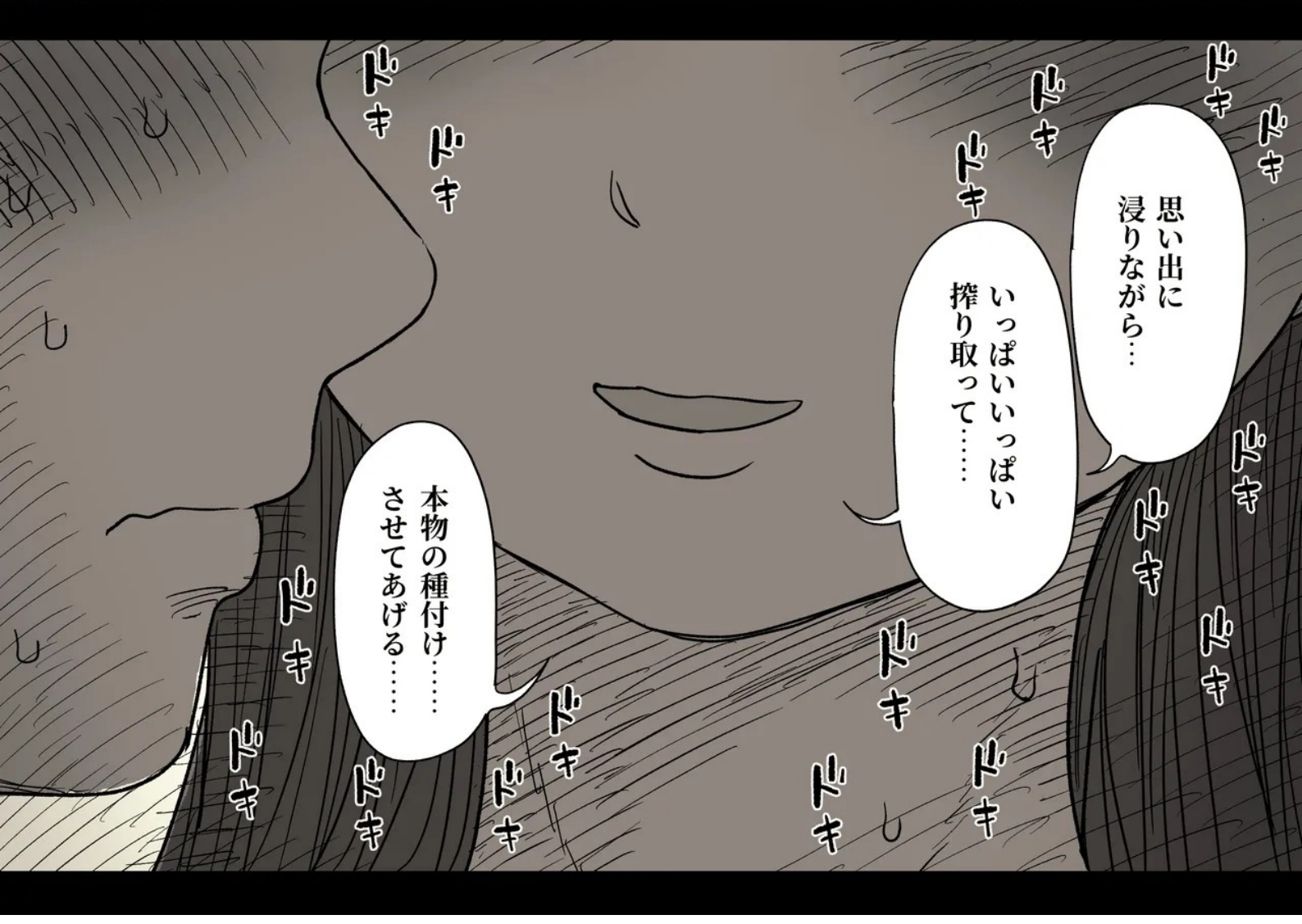

子供を欲しいと言われて、
同意してすぐにこんな所に連れて来るなんて……
もしかして、もう、
今日から……？
ドキ

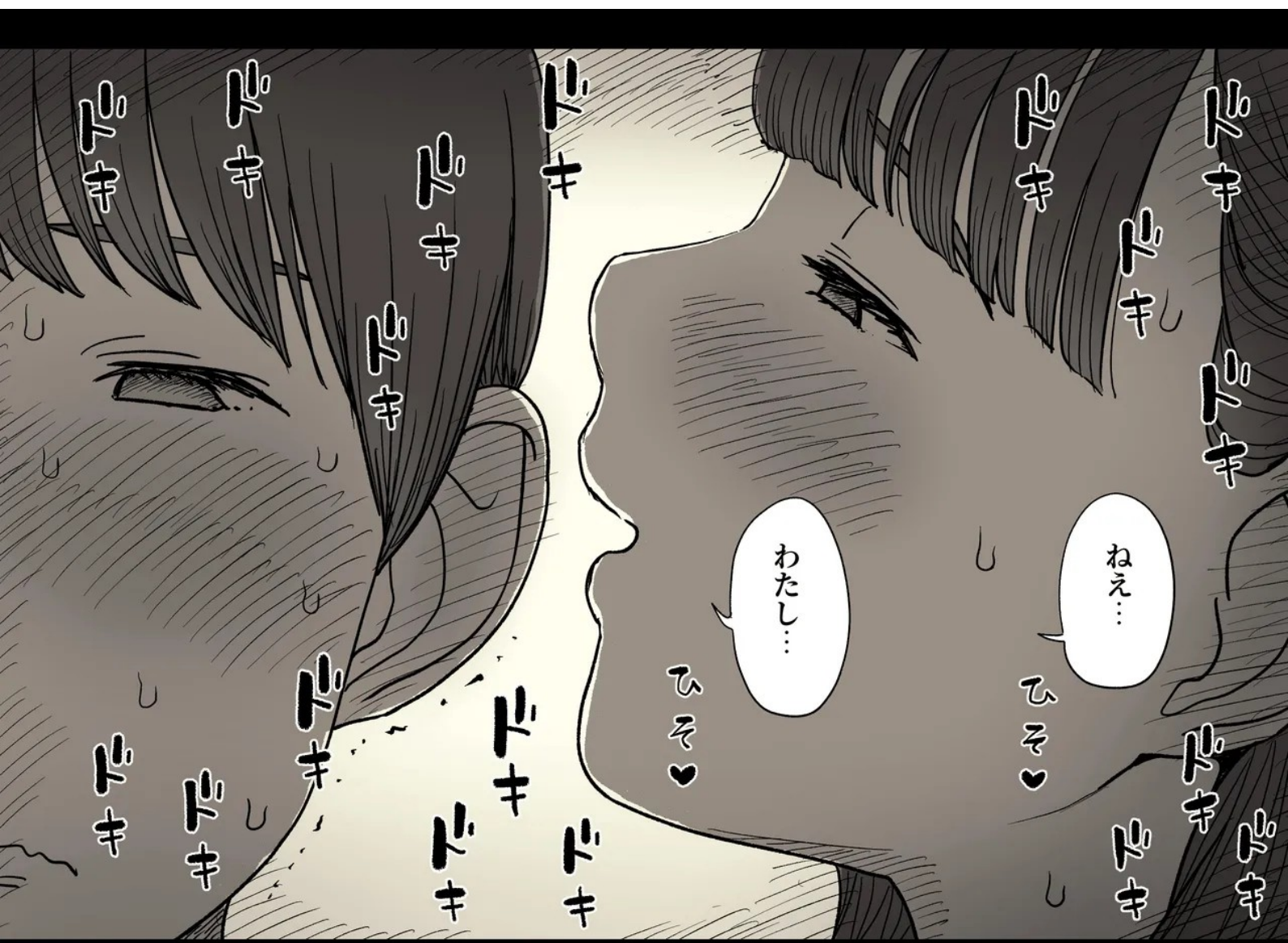

子供、欲しいって、
今日から…
今からすぐに…？
もう……？
初めてのラブホテルと、
もう本当に子供を
作ってしまうかもしれないという気持ちで
ドキドキが止まらなくなって……
ドキ

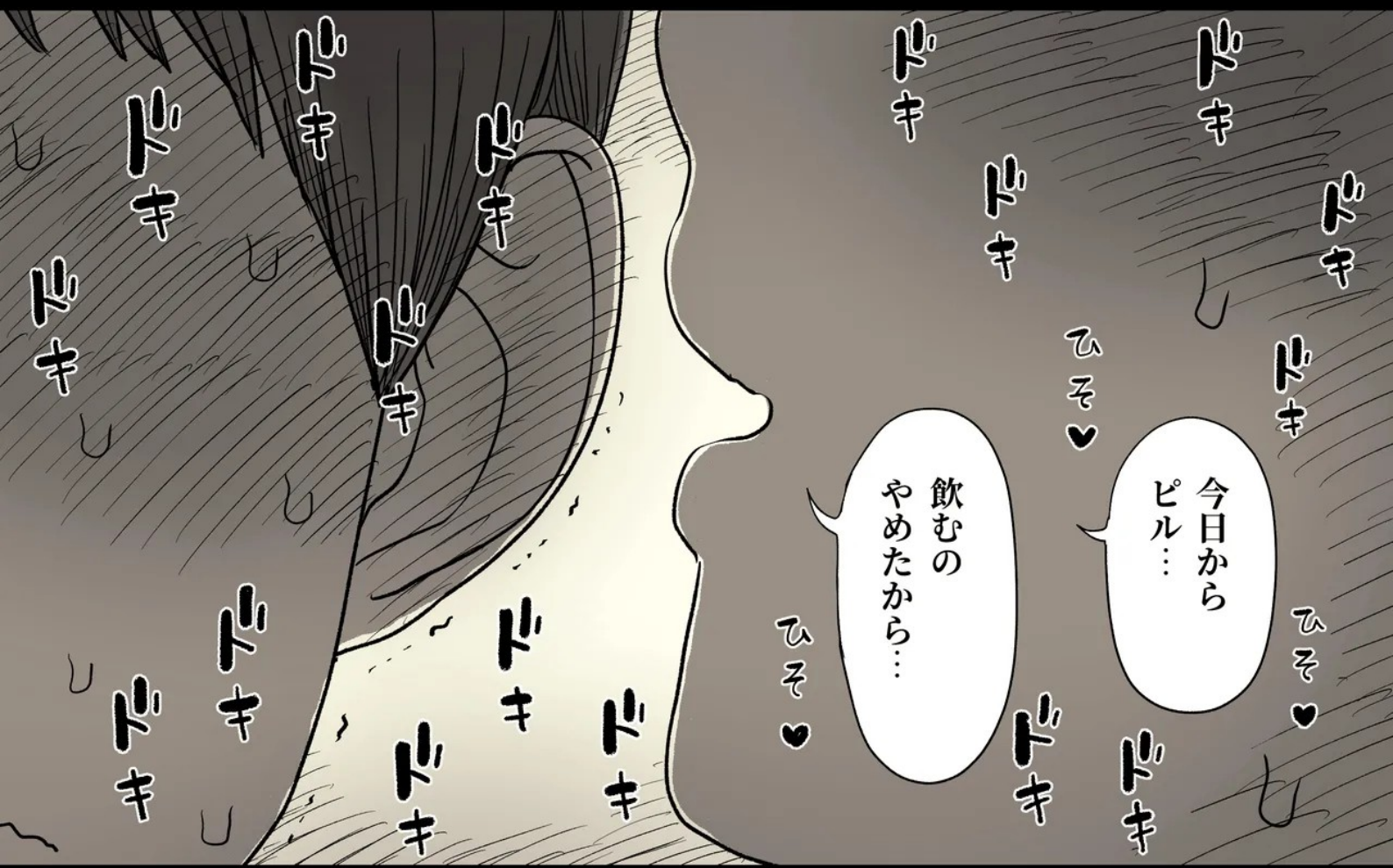

そして、あの時と同じように……
彼女はゆっくりと口元を僕の耳に近づけて……
あの時と同じように…ささやき声で「事」を始めました……
ドキ


覚えてる…？
初めての日のこと……
ひそ
ひそ
ひそ…
ぴくっ
ドキ


今まで
いっぱいいっぱい
積み重ねてきた…
私たち
二人だけの
愛のカタチ…
あの私達の
初めての
時からの事…
全部思い出
させてあげる…
ドキ


思い出に
浸りながら…
いっぱいいっぱい
搾り取って……
本物の種付け……
させてあげる……
ドキ


ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ねえ…
ひそ♥
わたし…
ひそ♥


ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
今日から
ピル…
ひそ♥
飲むの
やめたから…
ひそ♥

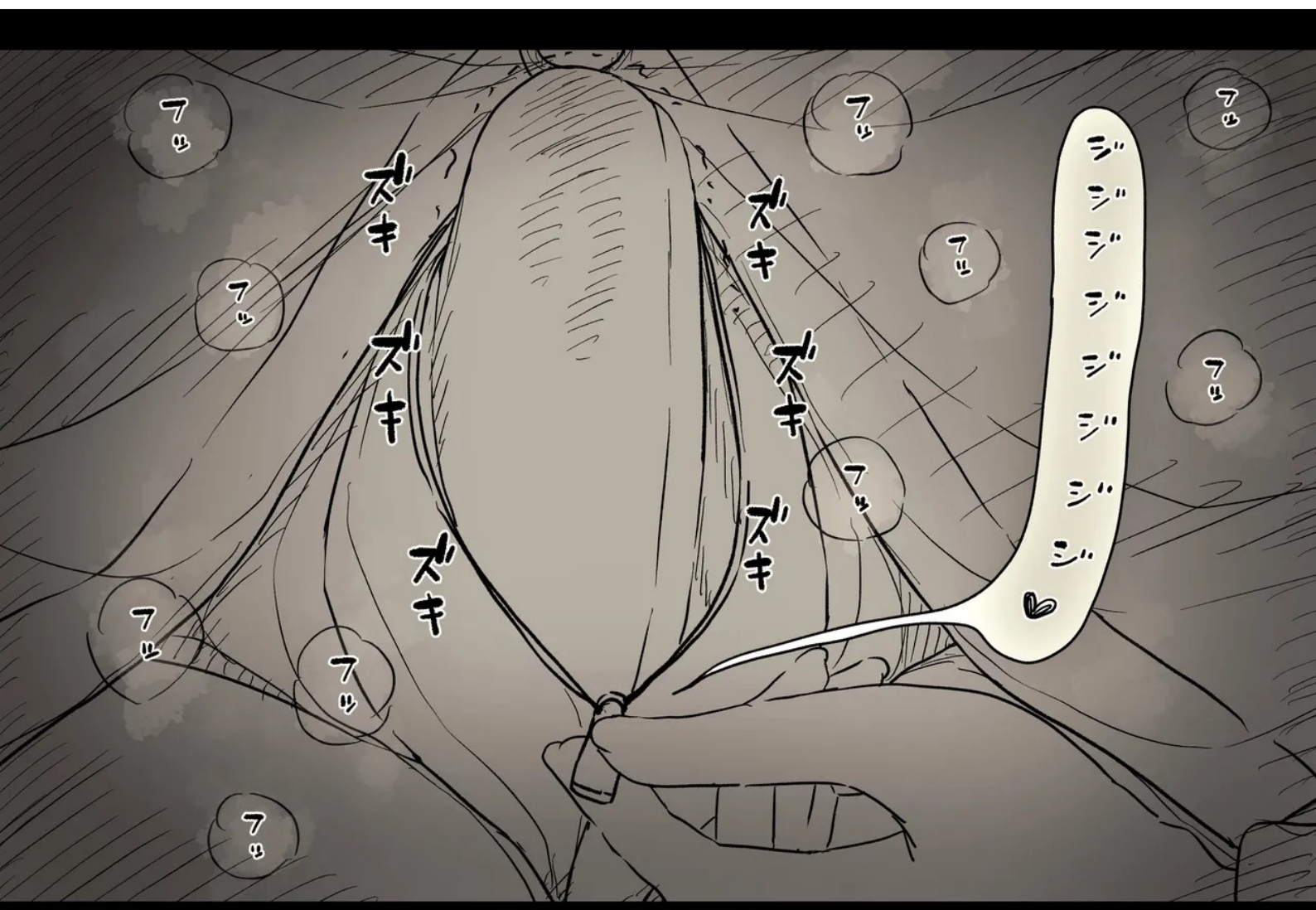

だから…
ひそ♥
作れるよ…
ひそ♥
ひそ♥
子供……
ひそ♥
れ…♥


できちゃうよ…
ひそ♥
子供…
ひそ♥
はあ♥
はあ♥

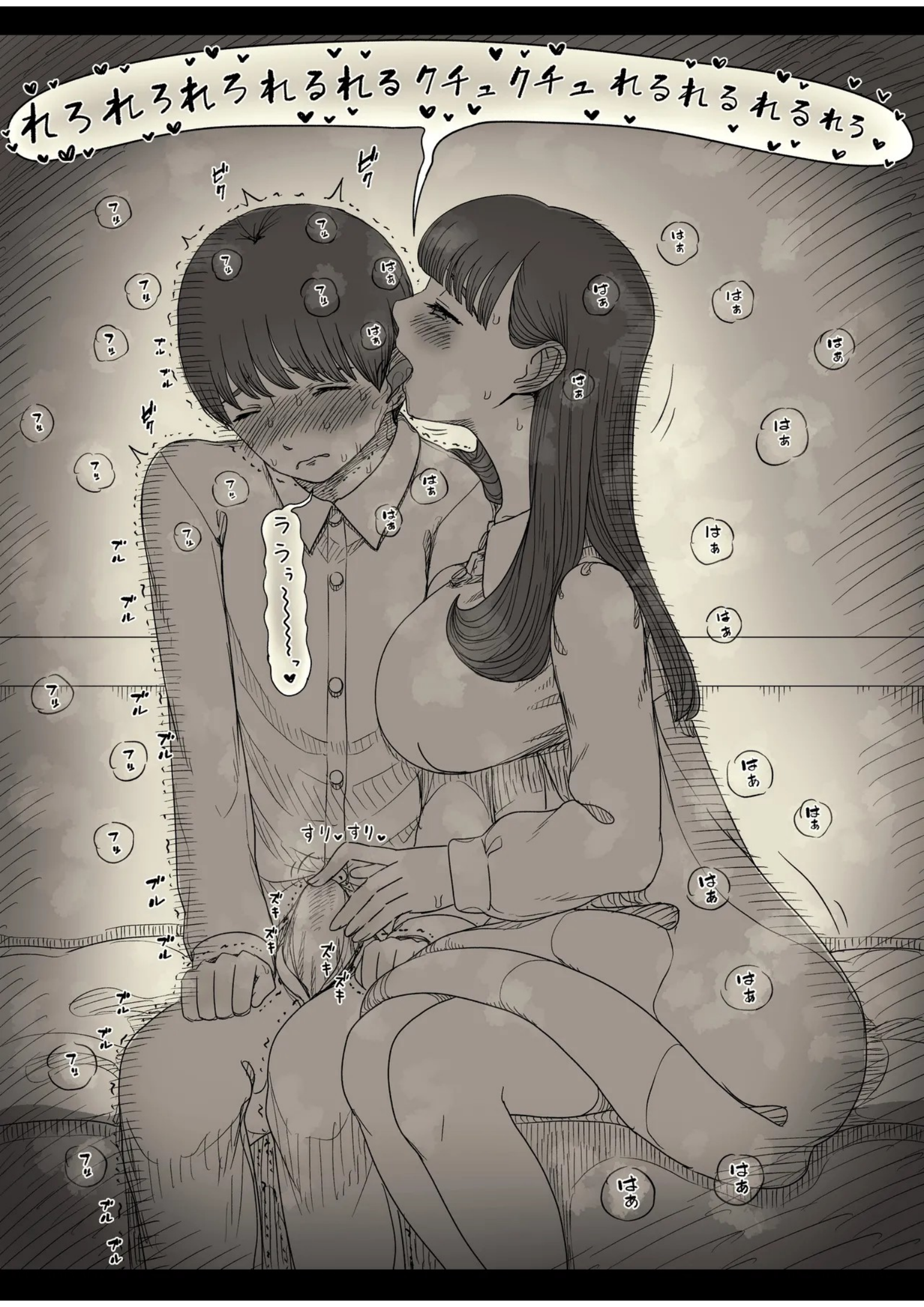

つぷ♥
ぷ♥
はあ♥
はあ♥
ビク
ビク
うぅ…♥

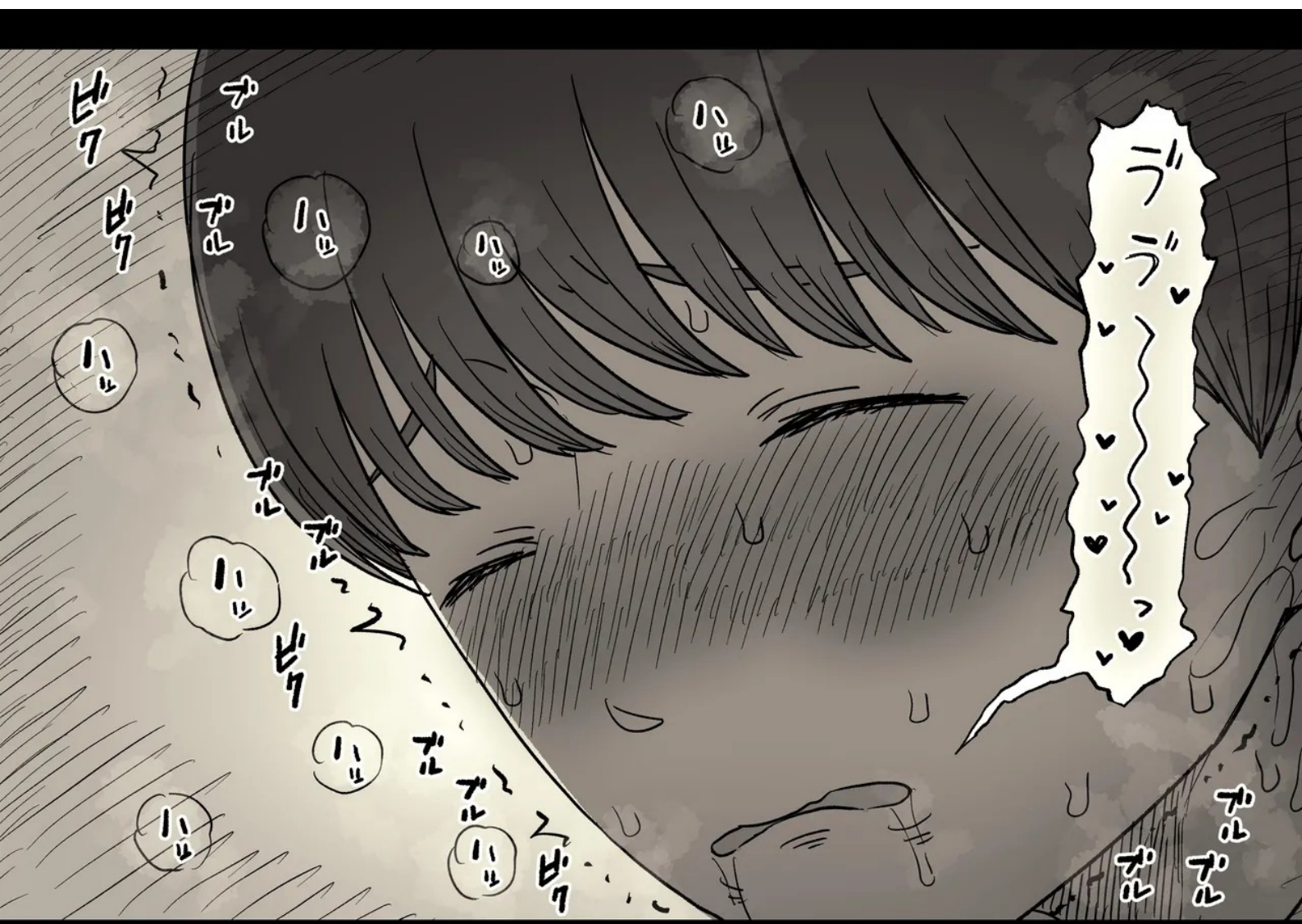

あの日のように……
あの初めての日と全く同じように……
れろれるれる
れるれるれる
彼女は僕の事を耳から責め始めて……

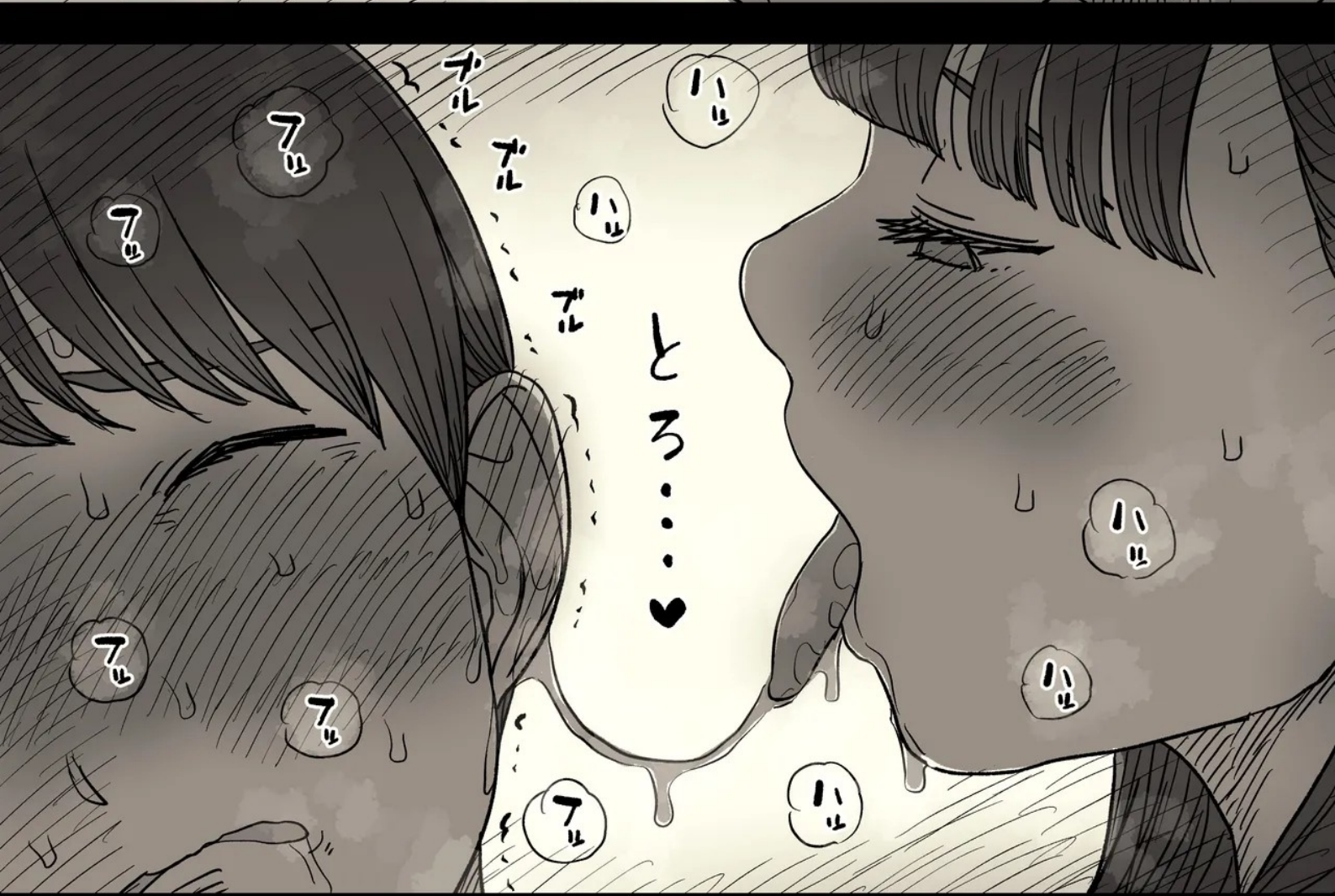

れるれるれるれるれる クチュ クチュ クチュ クチュ

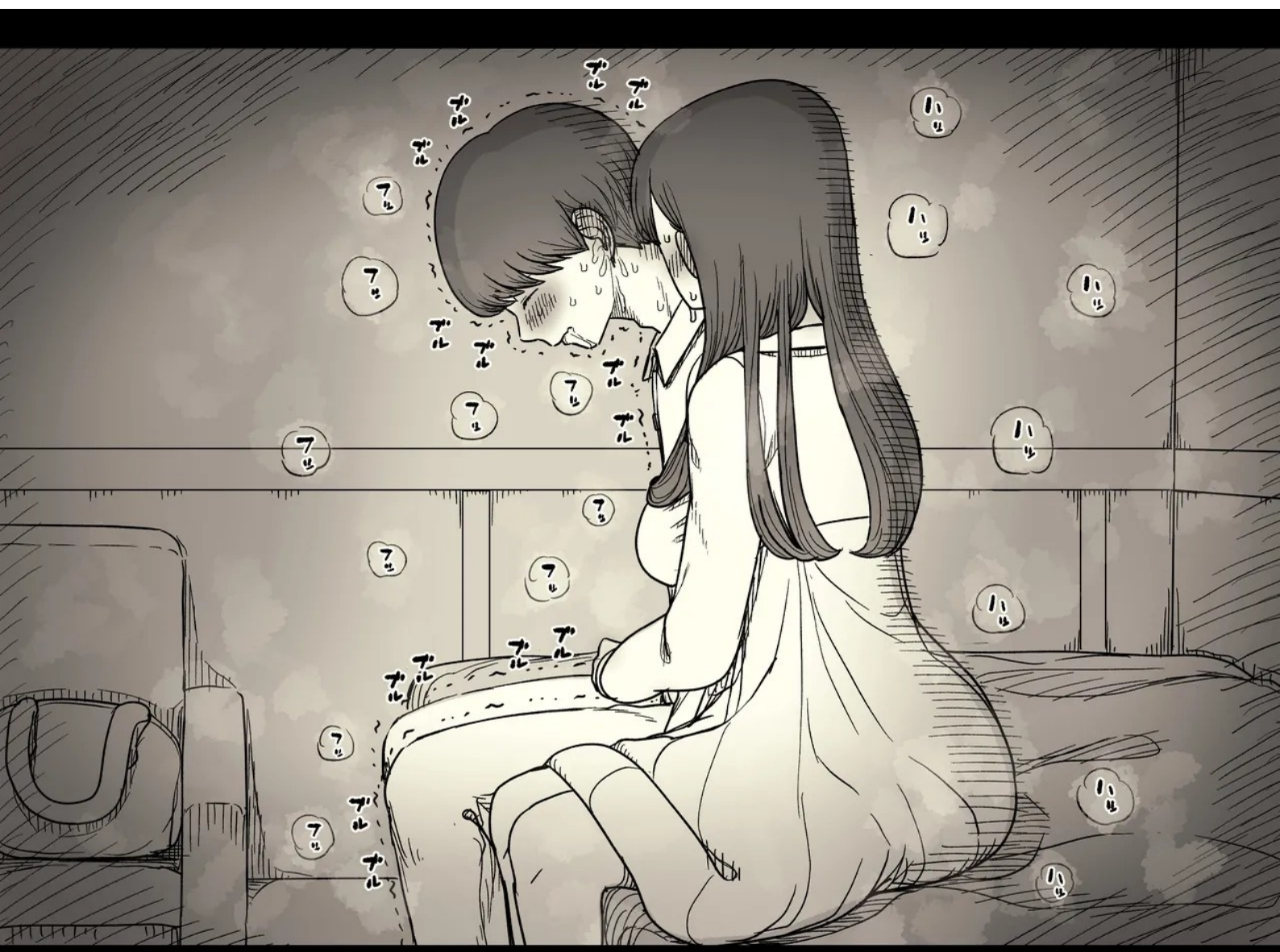

ジジジジジジジジジ
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
フッ


あの時のように耳を舐めながら…
僕の敏感に膨張しすぎた股間を
その白くて細くて柔らかい綺麗な手で
優しく優しく触って……
ビクビク♥
フッ


れろれろれろれるれるクチュクチュれるれるれるれろ
ビク
ビク
フッ
フッ
フッ

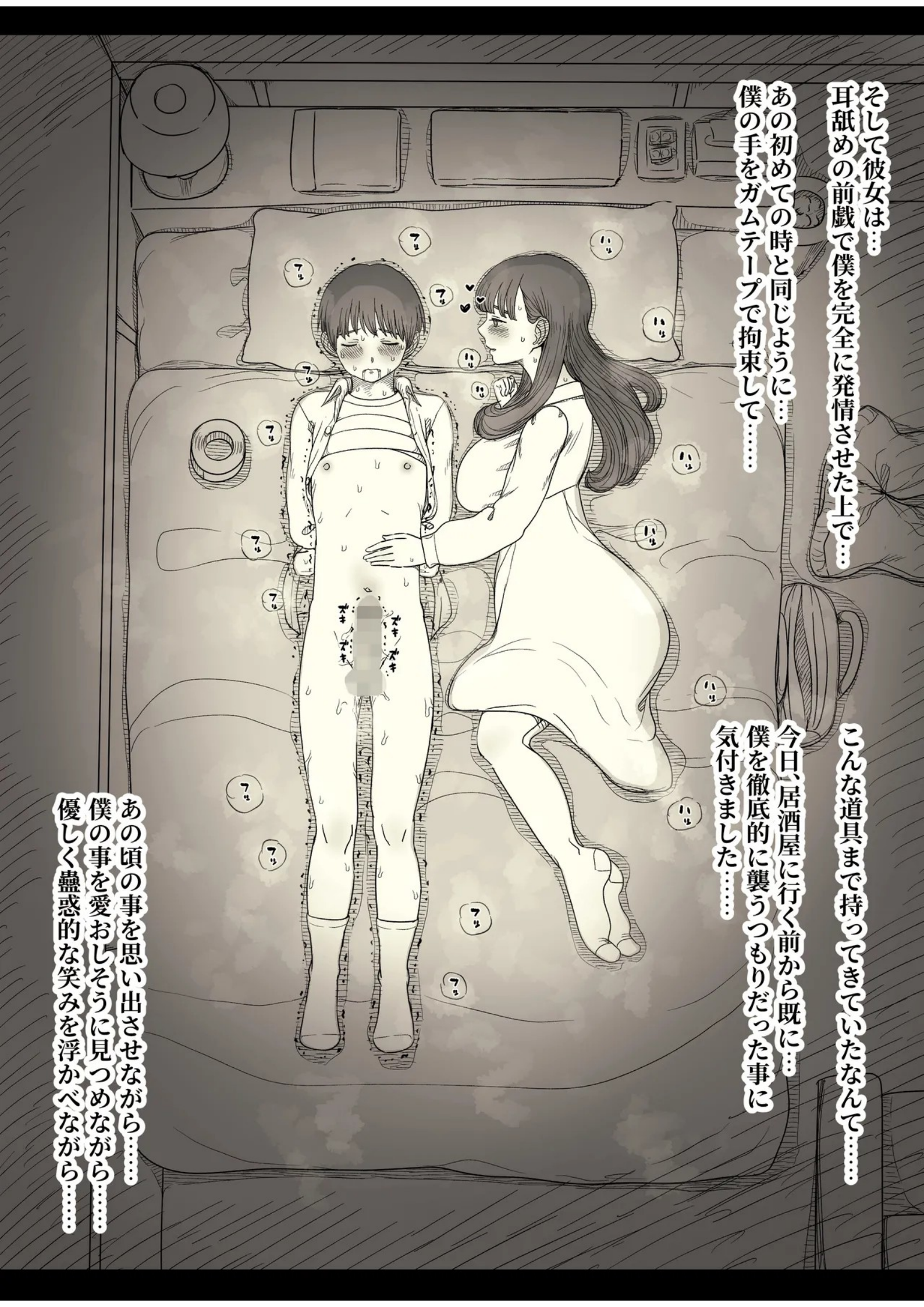

ブブ〜♥
ハッ
ブル
ビク

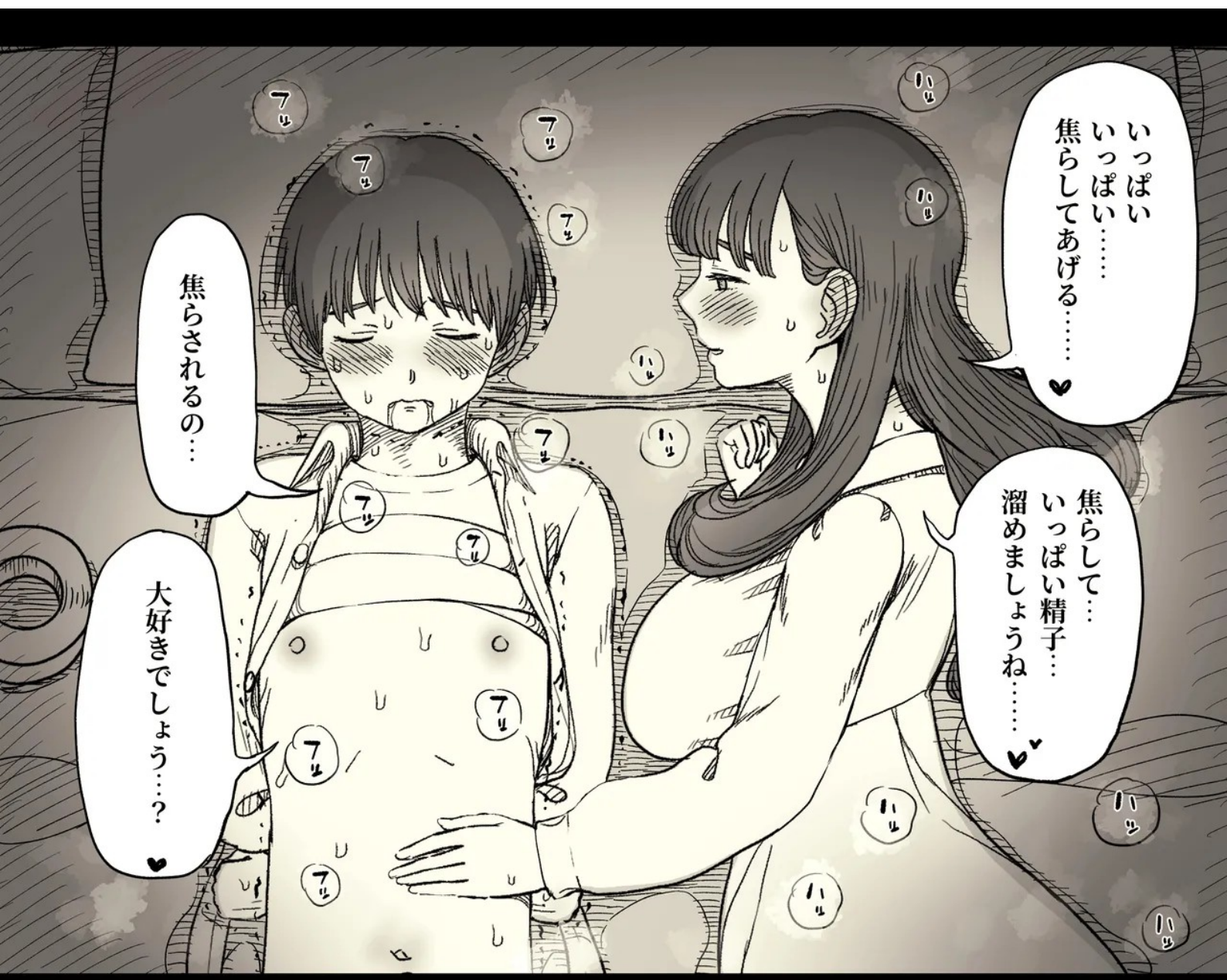

とろ…♥
ハッ
フッ
ブル

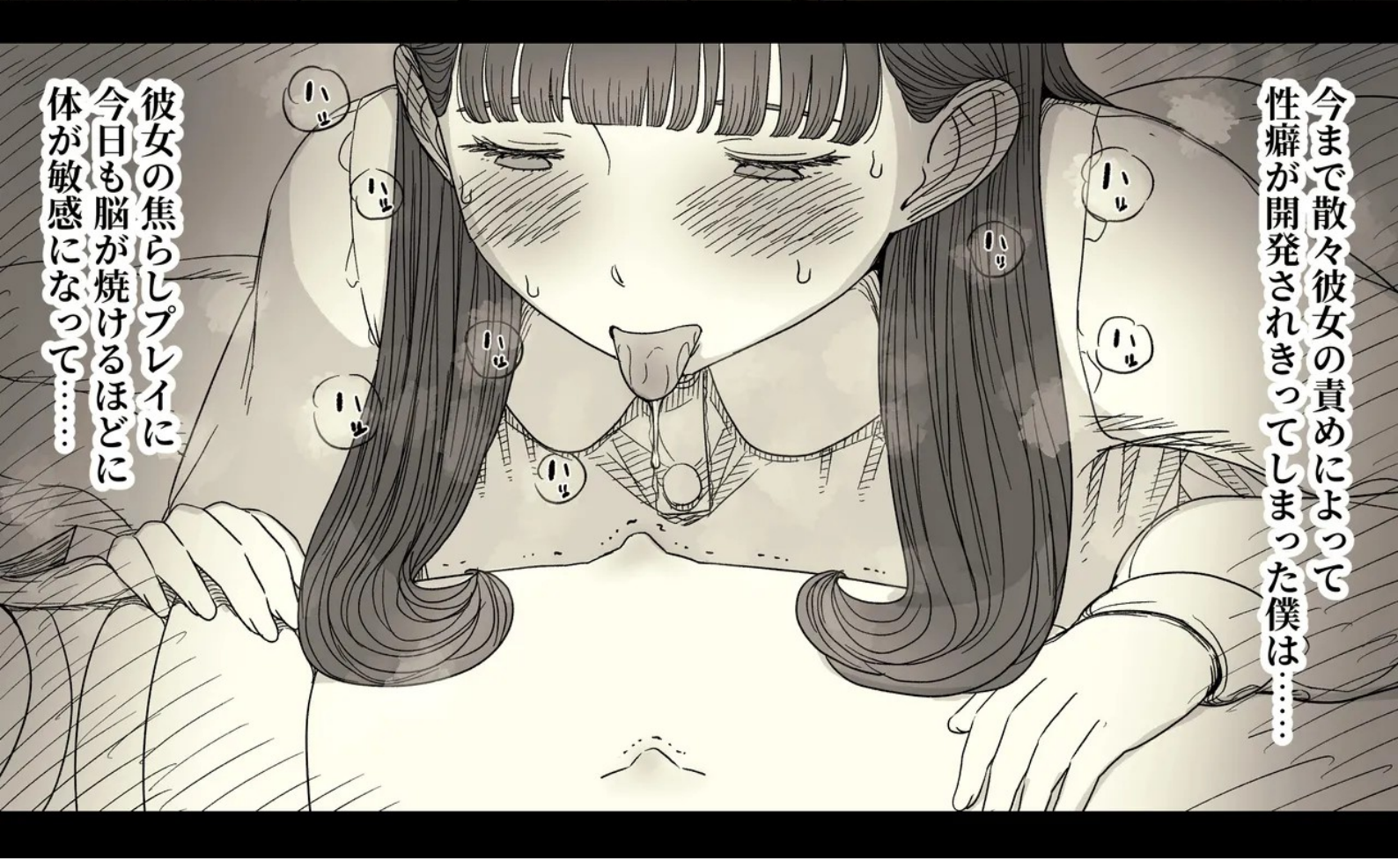


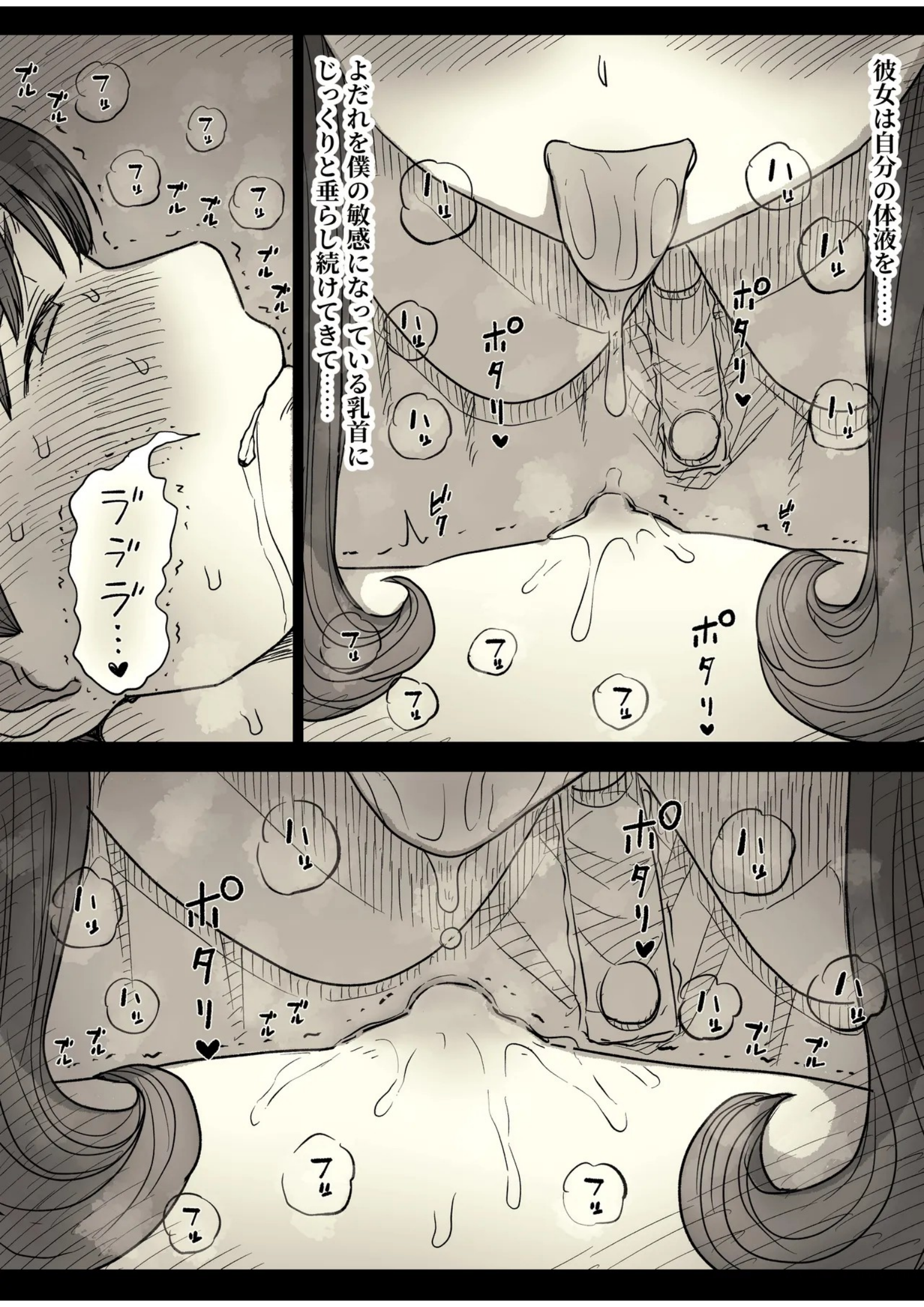

彼女の囁きと耳責めに…
あの童貞だった最初の時と
同じくらい股間が
はち切れそうになって……




そして彼女は…
耳舐めの前戯で僕を完全に発情させた上で…
あの初めての時と同じように…
僕の手をガムテープで拘束して……
こんな道具まで持ってきていたなんて……
今日、居酒屋に行く前から既に…
僕を徹底的に襲うつもりだった事に
気付きました……
あの頃の事を思い出させながら……
僕の事を愛おしそうに見つめながら……
優しく蠱惑的な笑みを浮かべながら……


いっぱい
いっぱい……
焦らしてあげる……♥
焦らして…
いっぱい精子…
溜めましょうね……♥
焦らされるの…
大好きでしょう…？♥


今まで散々彼女の責めによって
性癖が開発されきってしまった僕は……
彼女の焦らしプレイに
今日も脳が焼けるほどに
体が敏感になって……

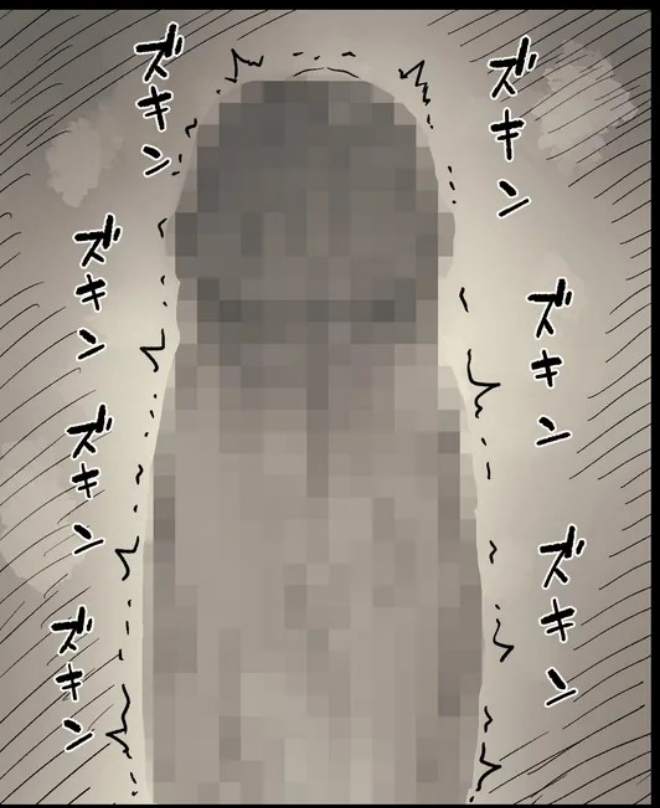

彼女は自分の体液を……
よだれを僕の敏感になっている乳首にじっくりと垂らし続けてきて……
ラブラブ…♥


くちゅり♥
くちゅり…♥
おぁっ♥
あっ♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ハッ
ブルブル
おぁぁっ♥
くちくちくちくちくち♥

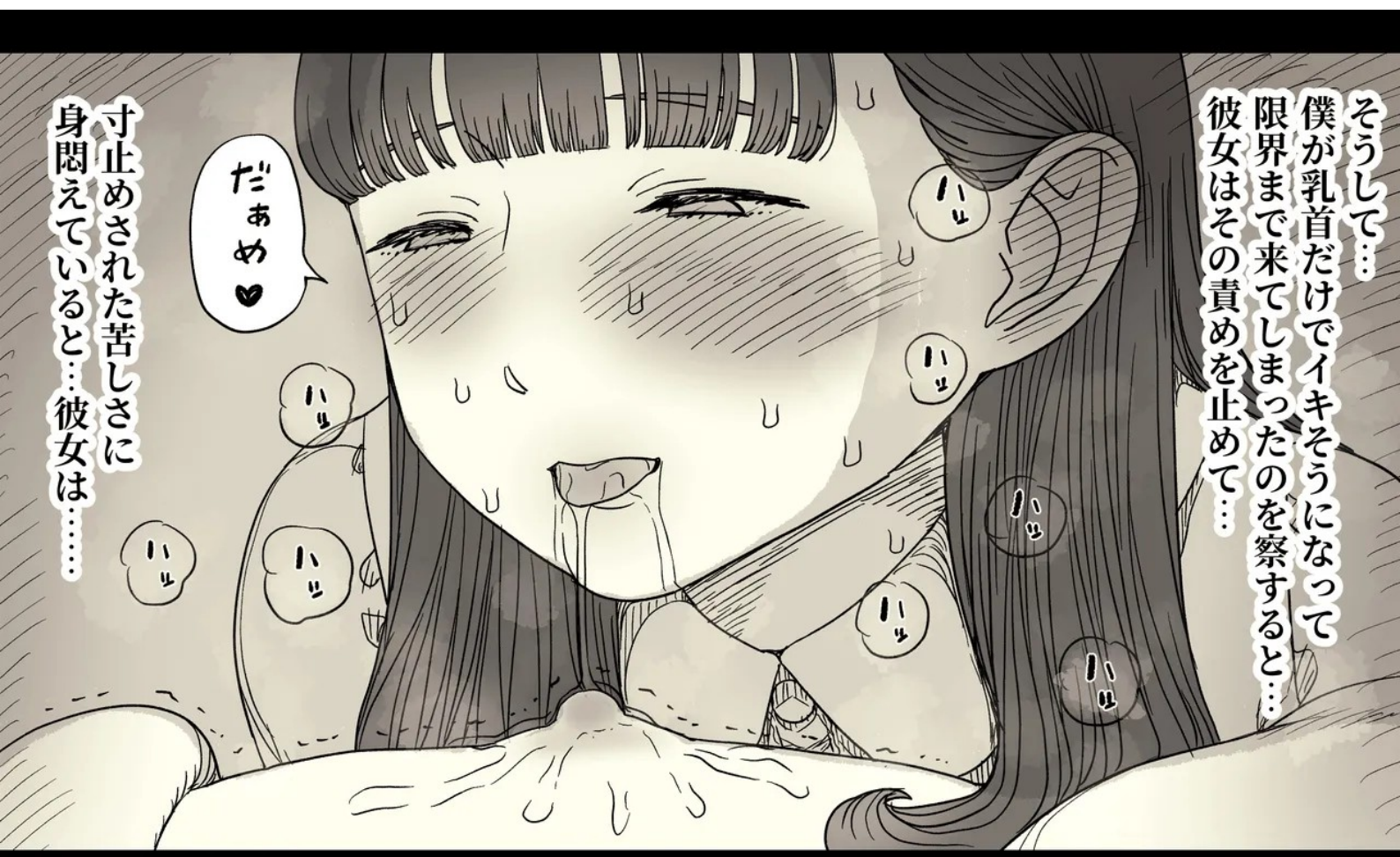

ハッ
ハッ
ハッ

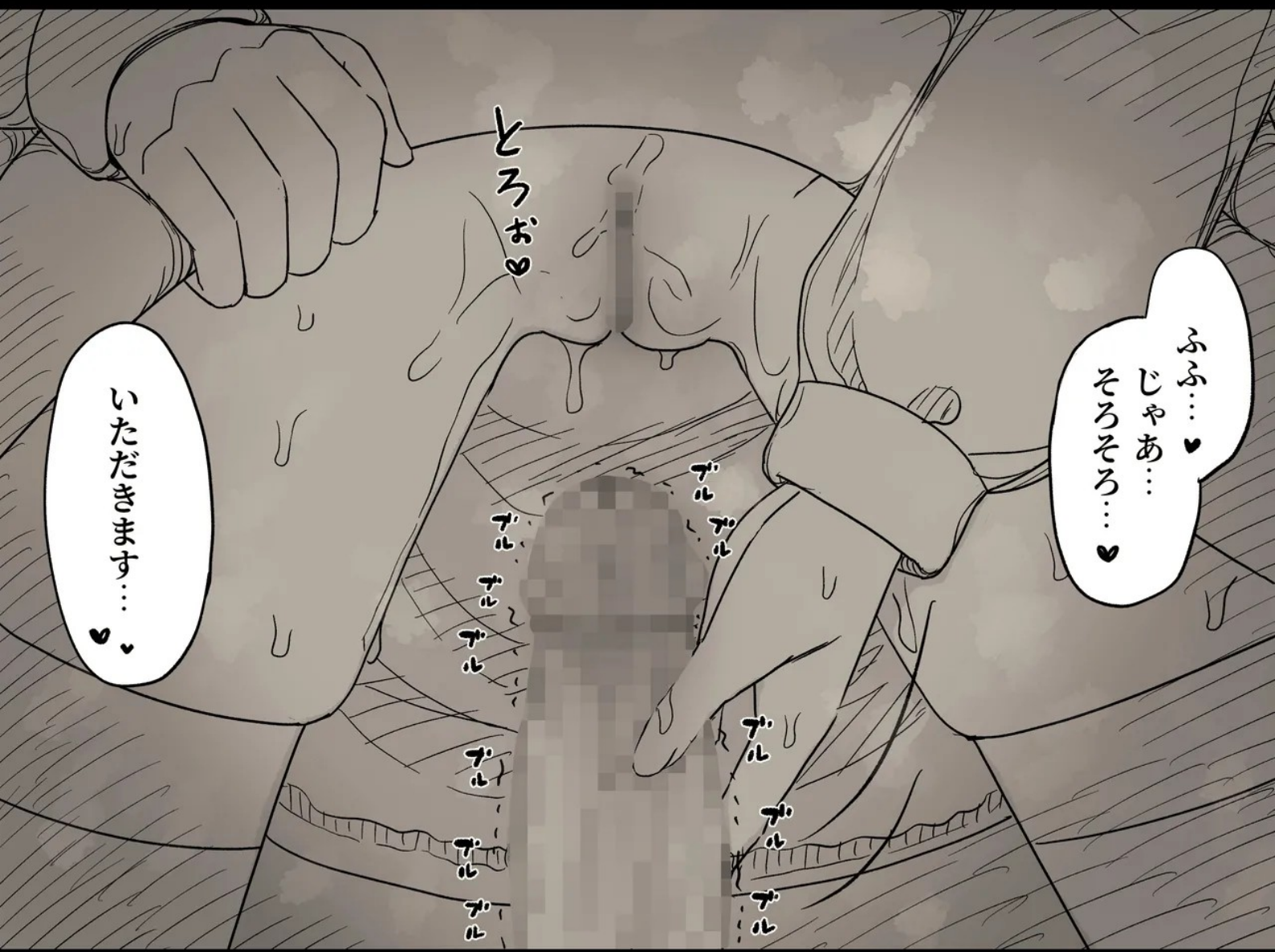

れ
ビクンッ
ブブブ～
ブル
フル
ハッ

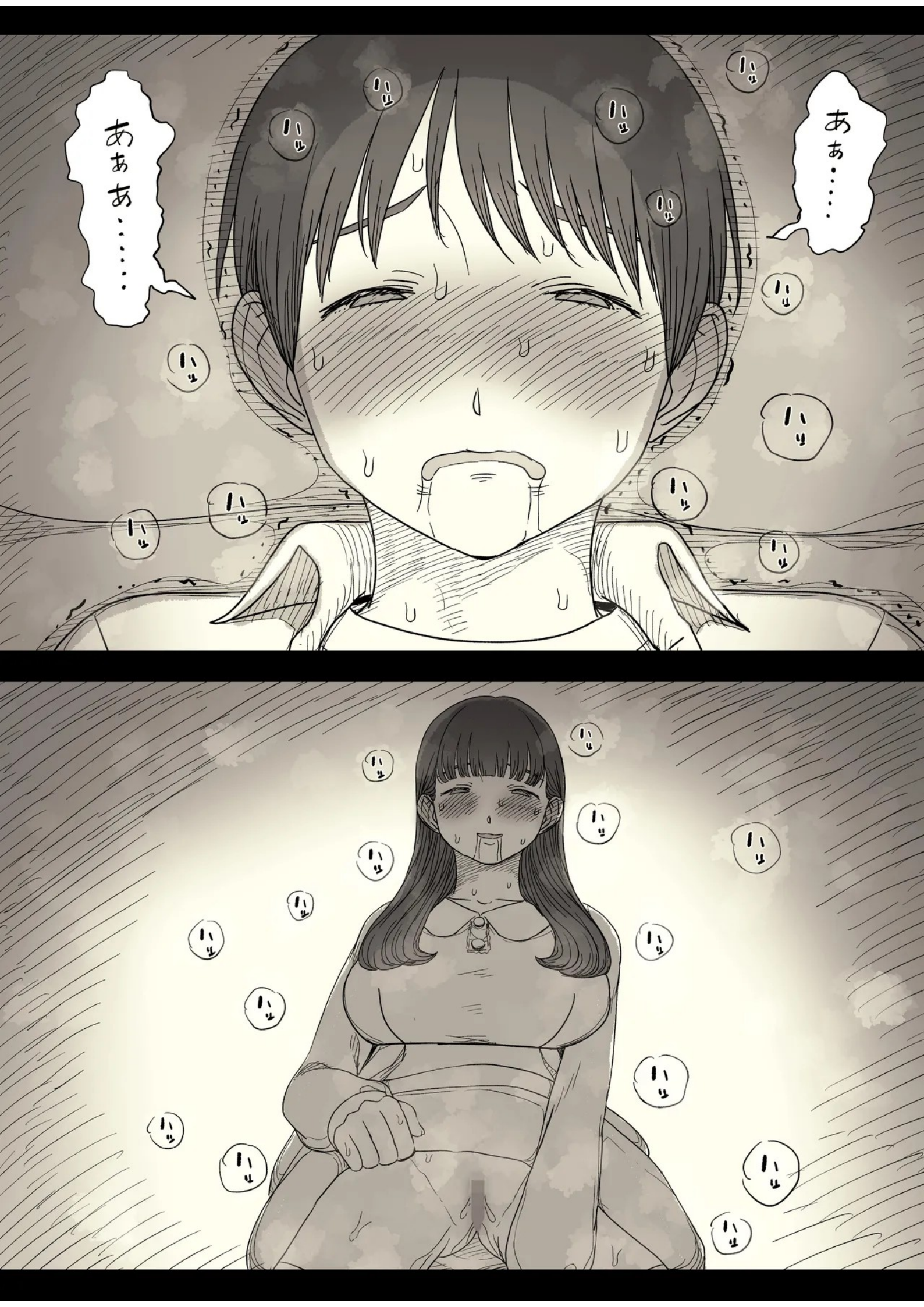

彼女は小一時間…僕を拘束したまま……
僕の乳首だけを責め続けて……
ちゅう♥
ちゅうううう♥
れるれるれる♥
ちゅうううう♥
れるれる♥
クニ
クニ
クニ
クニ
クニ
クニ
クニ
クリ♥
クリ♥
ズキ
ズキ
ズキ
フッ
フッ
フッ
フッ
フッ
フッ
フッ
フッ
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル


ズキン
ズキン
ズキン
ズキン
ズキン
ズキン


も、もうっ…
もう…っ
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル


そうして…
僕が乳首だけでイキそうになって
限界まで来てしまったのを察すると…
彼女はその責めを止めて…
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
だぁめ♥
寸止めされた苦しさに
身悶えていると…彼女は……

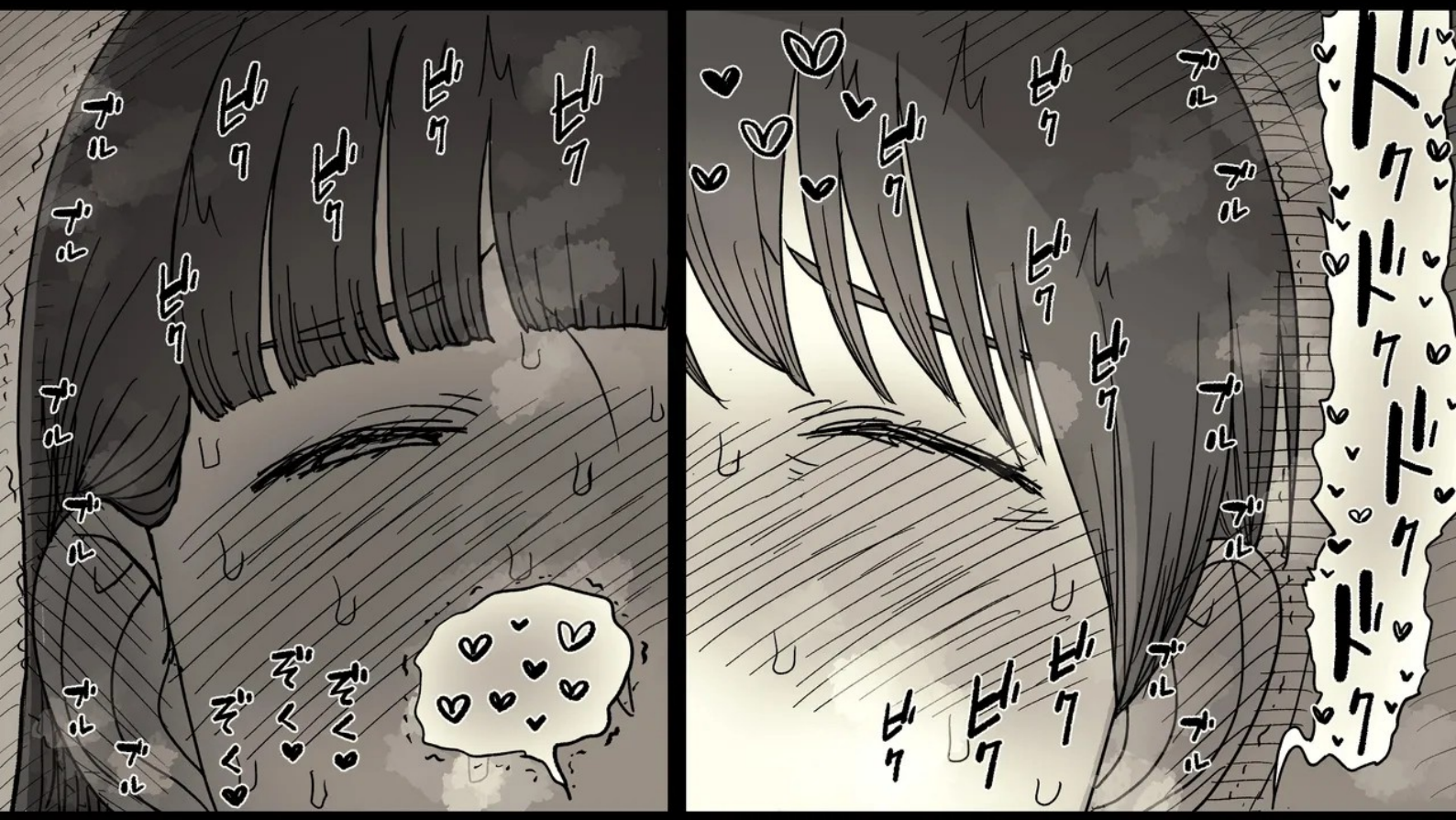

とろぉ♥
ふふ…♥
じゃあ…
そろそろ…♥
いただきます…♥
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル


あぁ……
あぁあ……

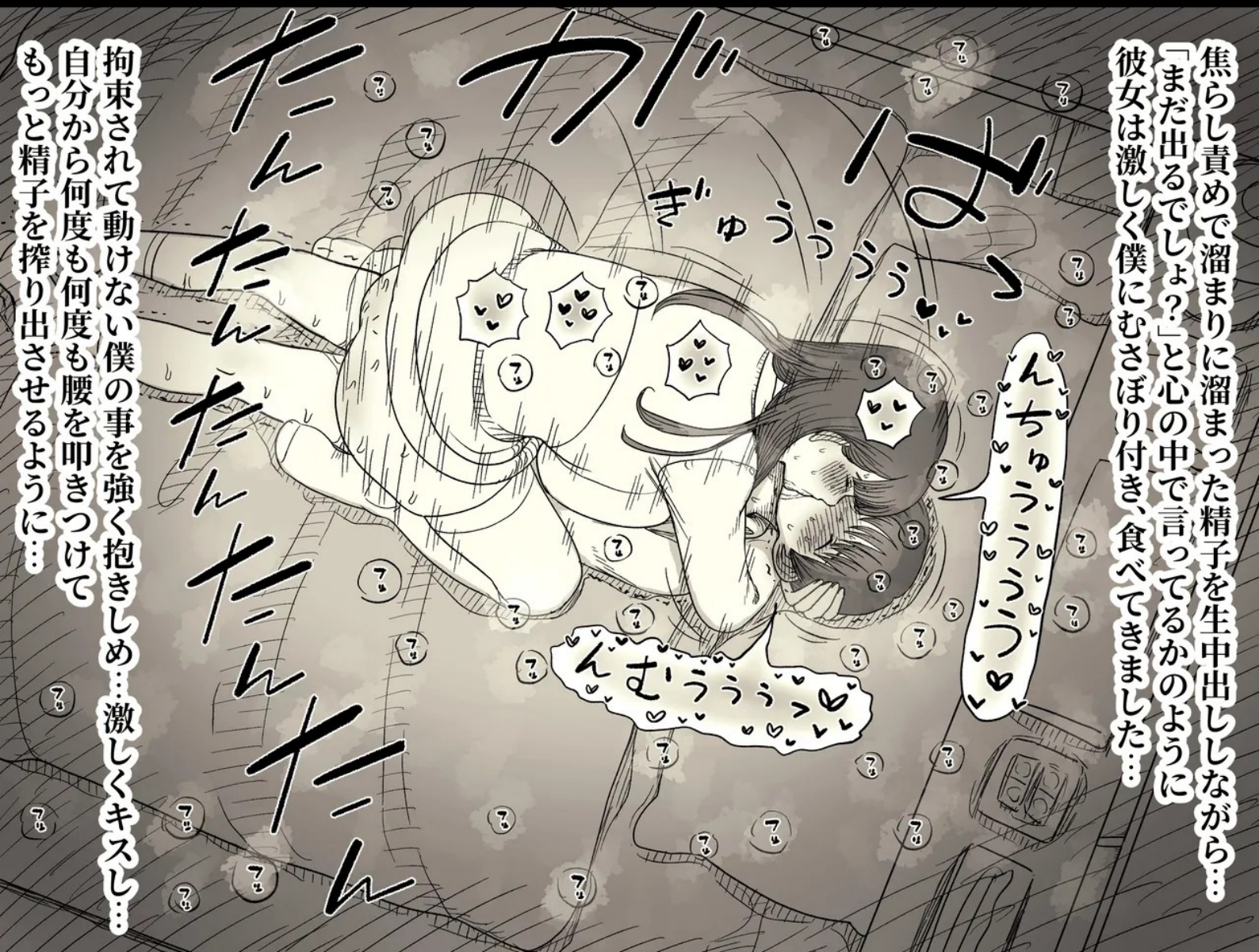

いっぱい
いっぱい…♥
私の中に
出してね…♥
ハッ
ぬ
ちゃ♥
ビクン♥


すごい
んあっ♥
ブルブルブルブルブルブルブルブルブルブルブルブル
おおおお

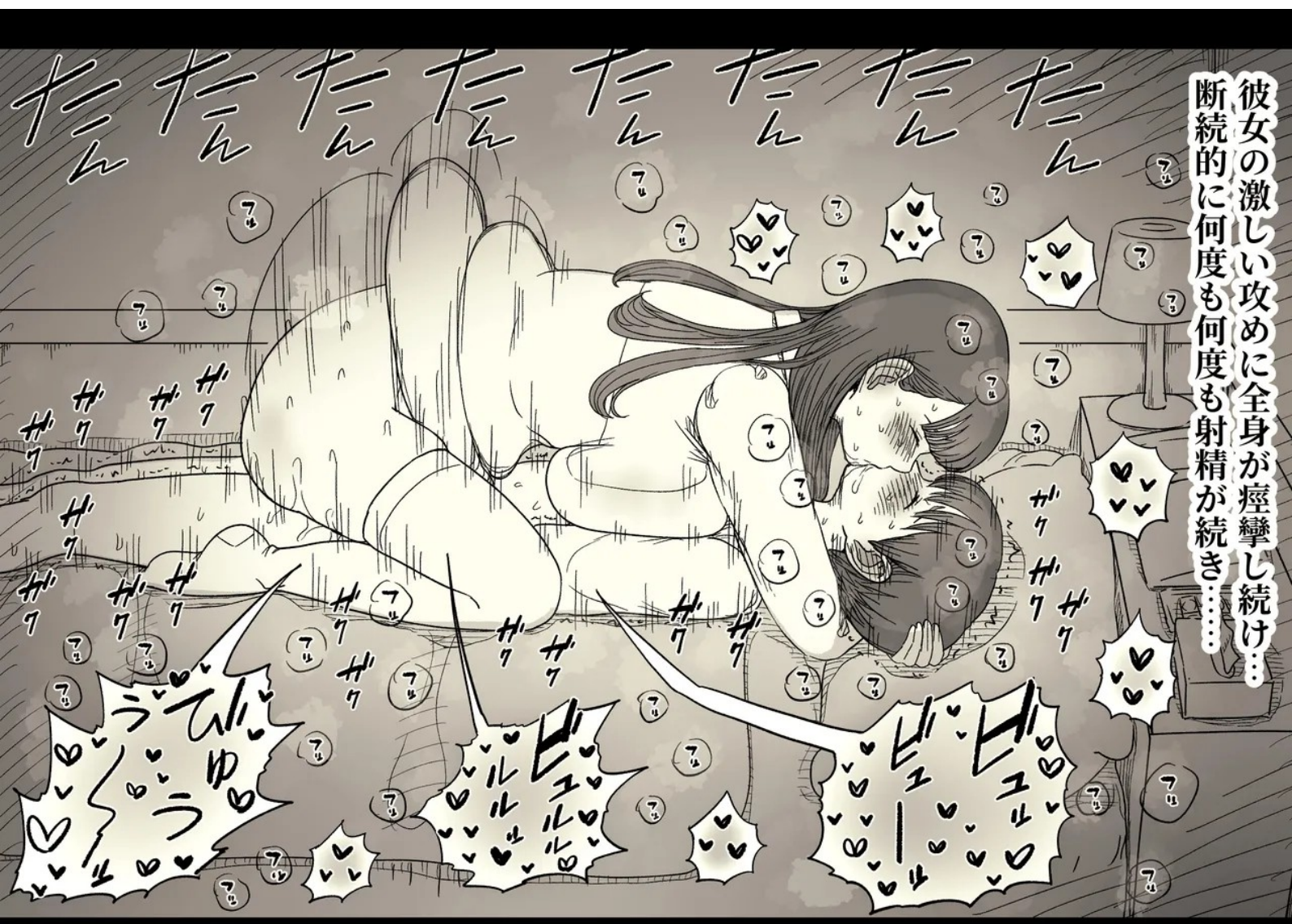

あ
ドク
ビュルルルルッ
ビクビクビク
ドクドクドクドクドク



焦らし責めで溜まりに溜まった精子を生中出ししながら…
「まだ出るでしょ？」と心の中で言ってるかのように
彼女は激しく僕にむさぼり付き、食べてきました…

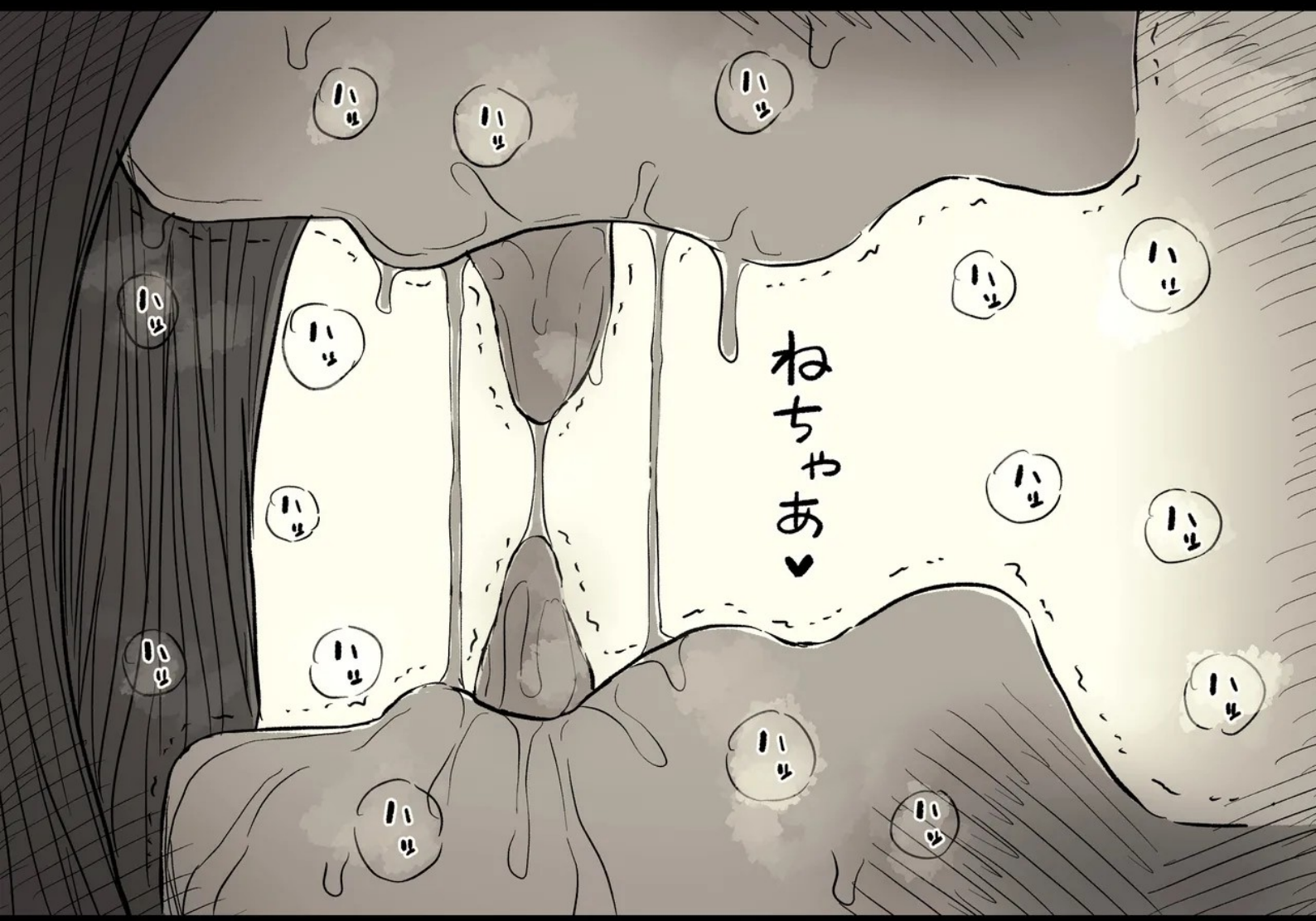


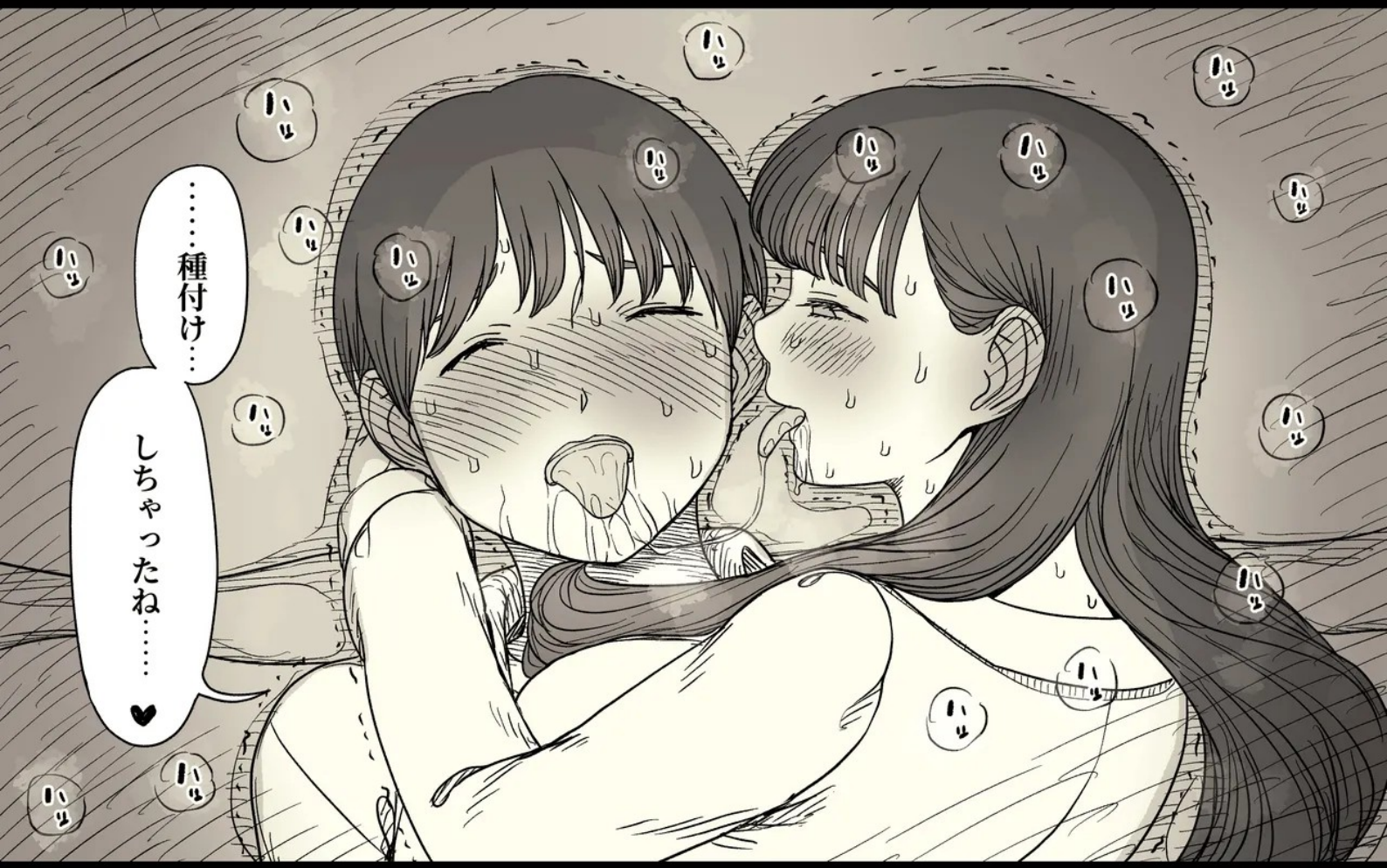
拘束されて動けない僕の事を強く抱きしめ…激しくキスし…
自分から何度も何度も腰を叩きつけて
もっと精子を搾り出させるように…


彼女の激しい攻めに全身が痙攣し続け…
断続的に何度も何度も射精が続き……

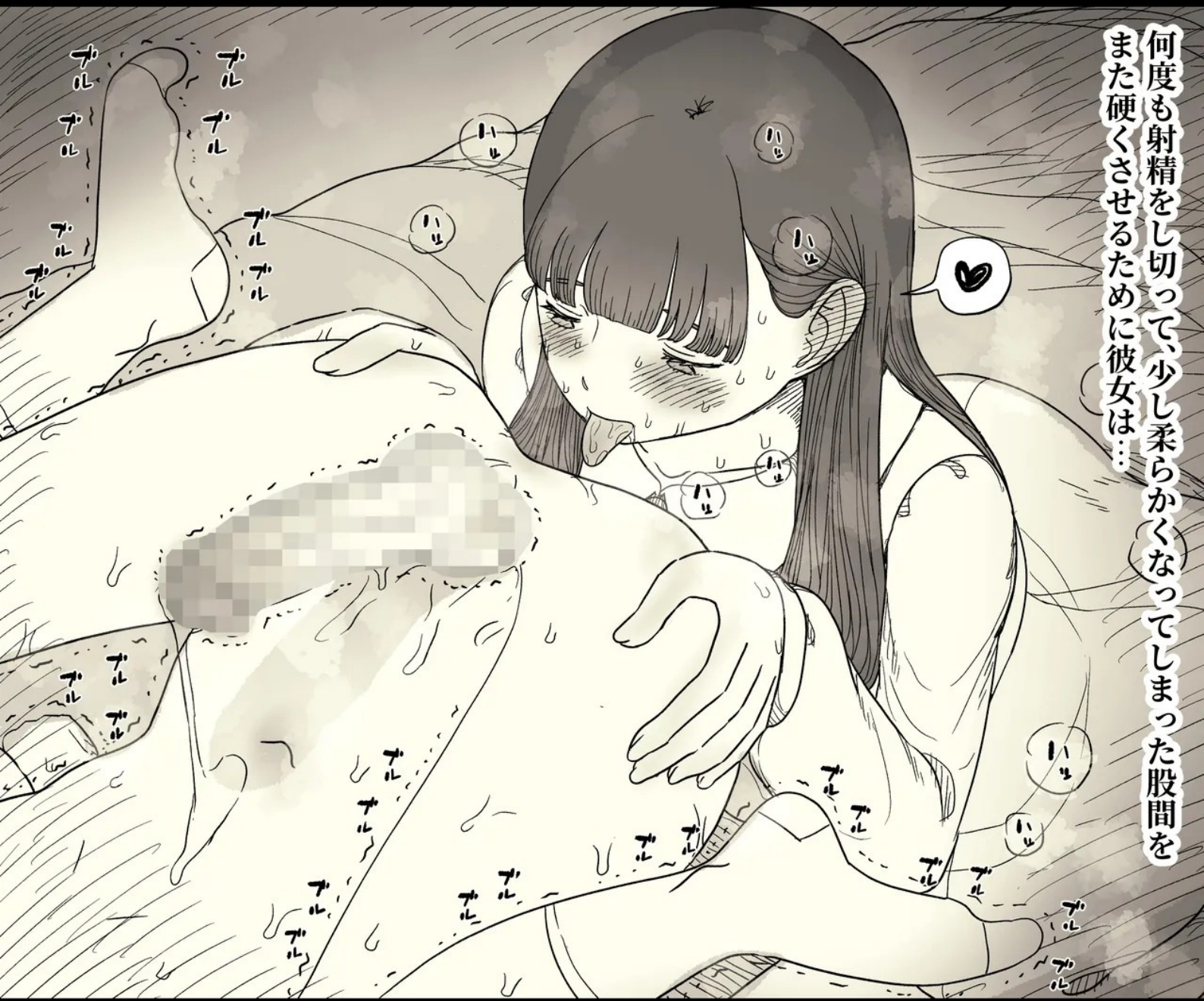

彼女も初めての本物の子作り種付けセックスに
いつも以上に凄く興奮しているようでした…


彼女も自分の体内に精子が満たされるのを感じて、興奮の絶頂に達し…
ヒィルルルルルドックドックドックドック
ビクビクビク


ねちゃあ♥


……種付け…
しちゃったね……♥


ふふ…♥
でも…
まだまだ
これからですよ～♥♥♥
ブルブル
ハッ

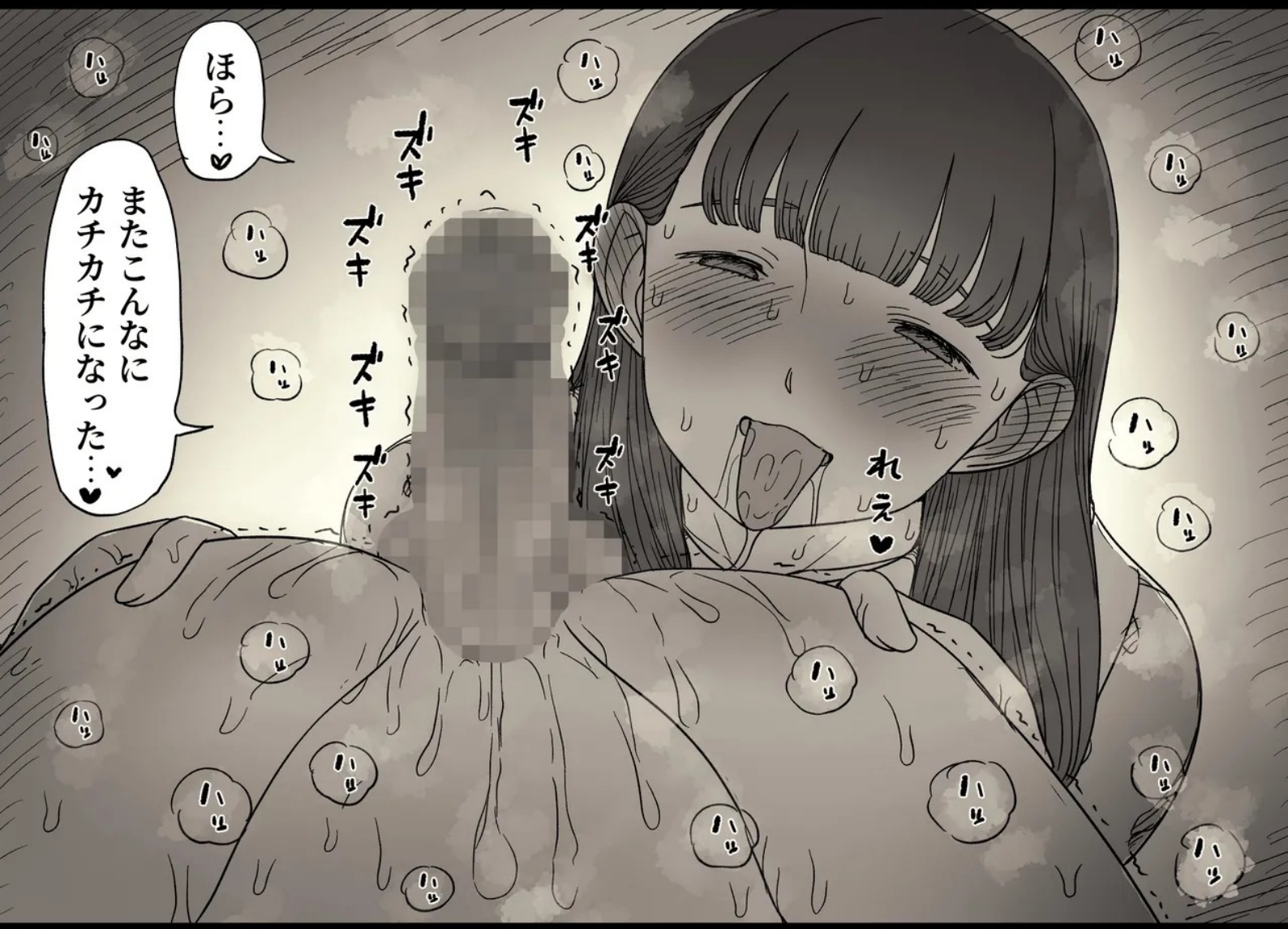

何度も射精をし切って、少し柔らかくなってしまった股間を
また硬くさせるために彼女は…
♥
ブルブル
ハッ


あぁ…
なで♥ なで♥

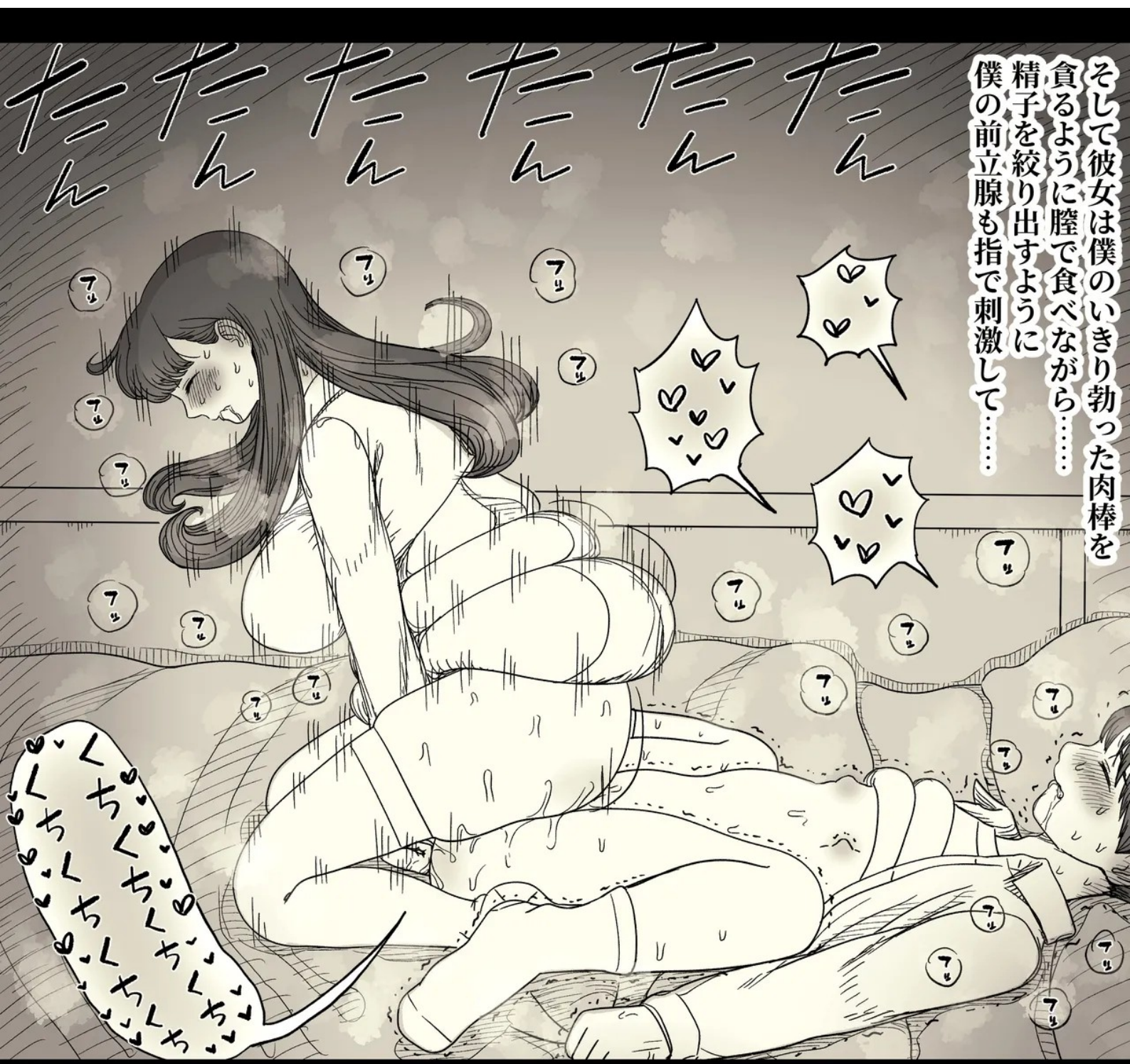


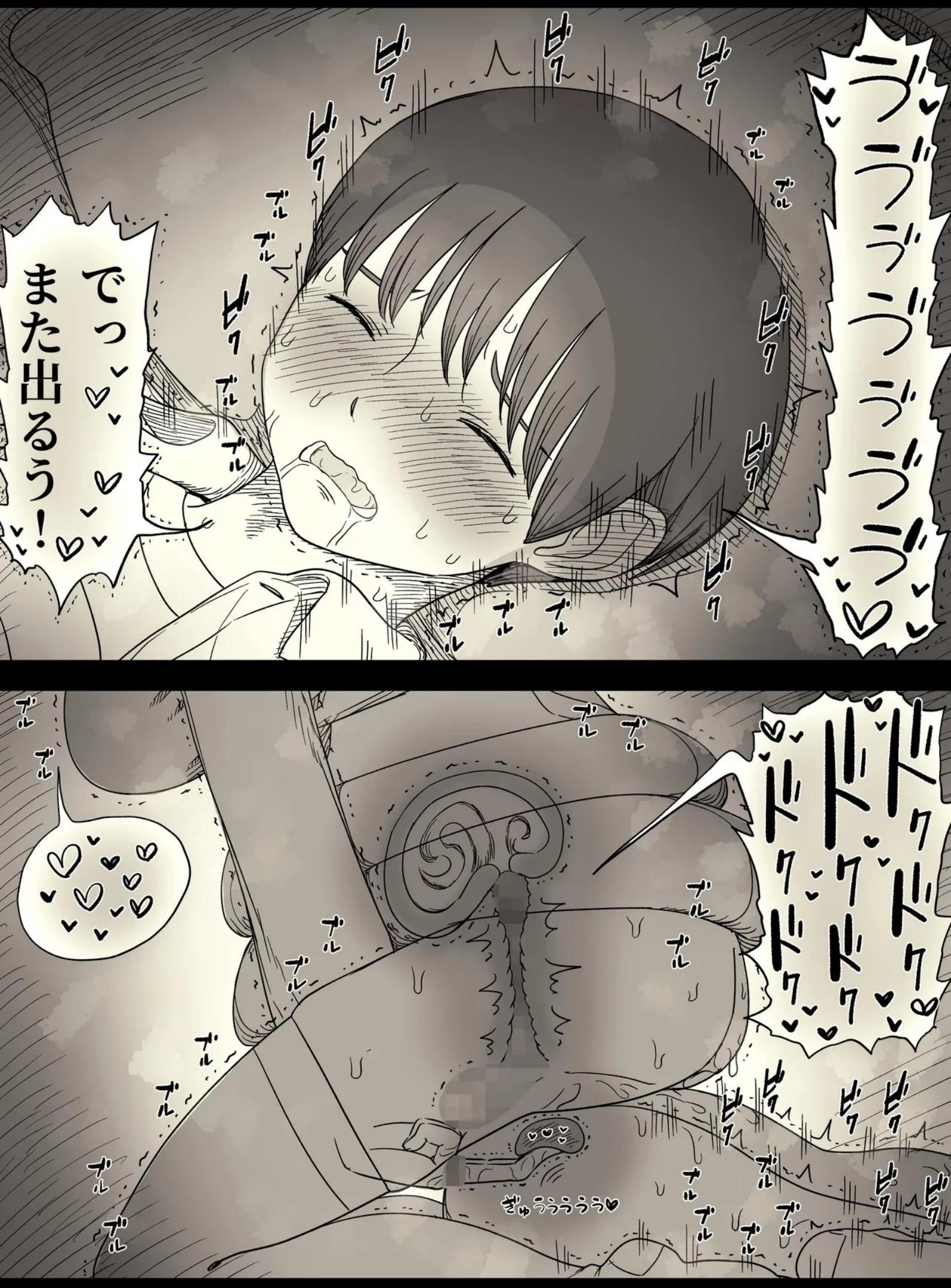

じゅるるる
るるるるる
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
クニ
クニ
クニ
クニ
ブル
ブル
ブル


散々乳首を責められながらお尻を舐められて僕は……
ぢゅるるる

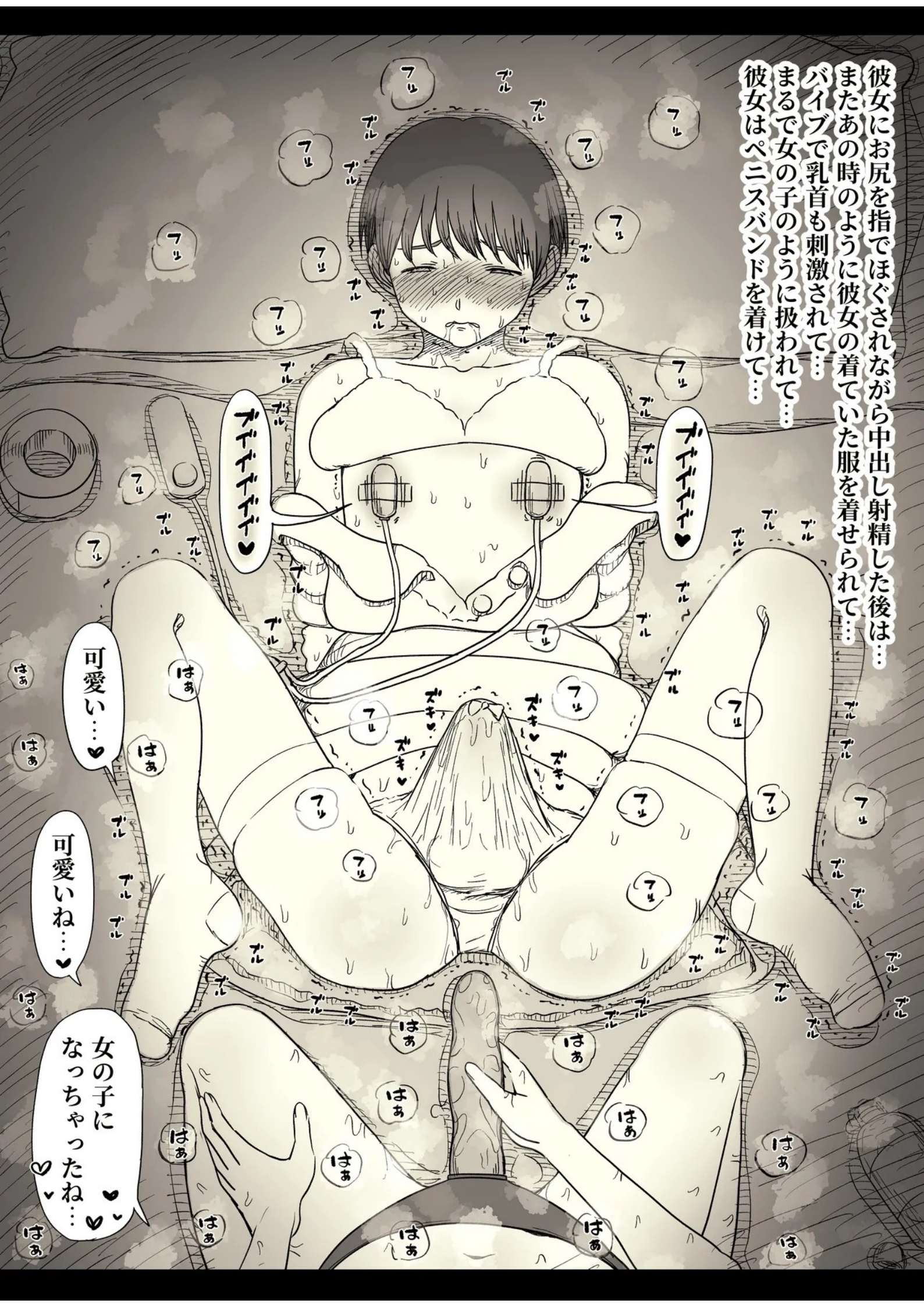

ほら…♡
またこんなにカチカチになった…♡
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
れえ♥
ハッ

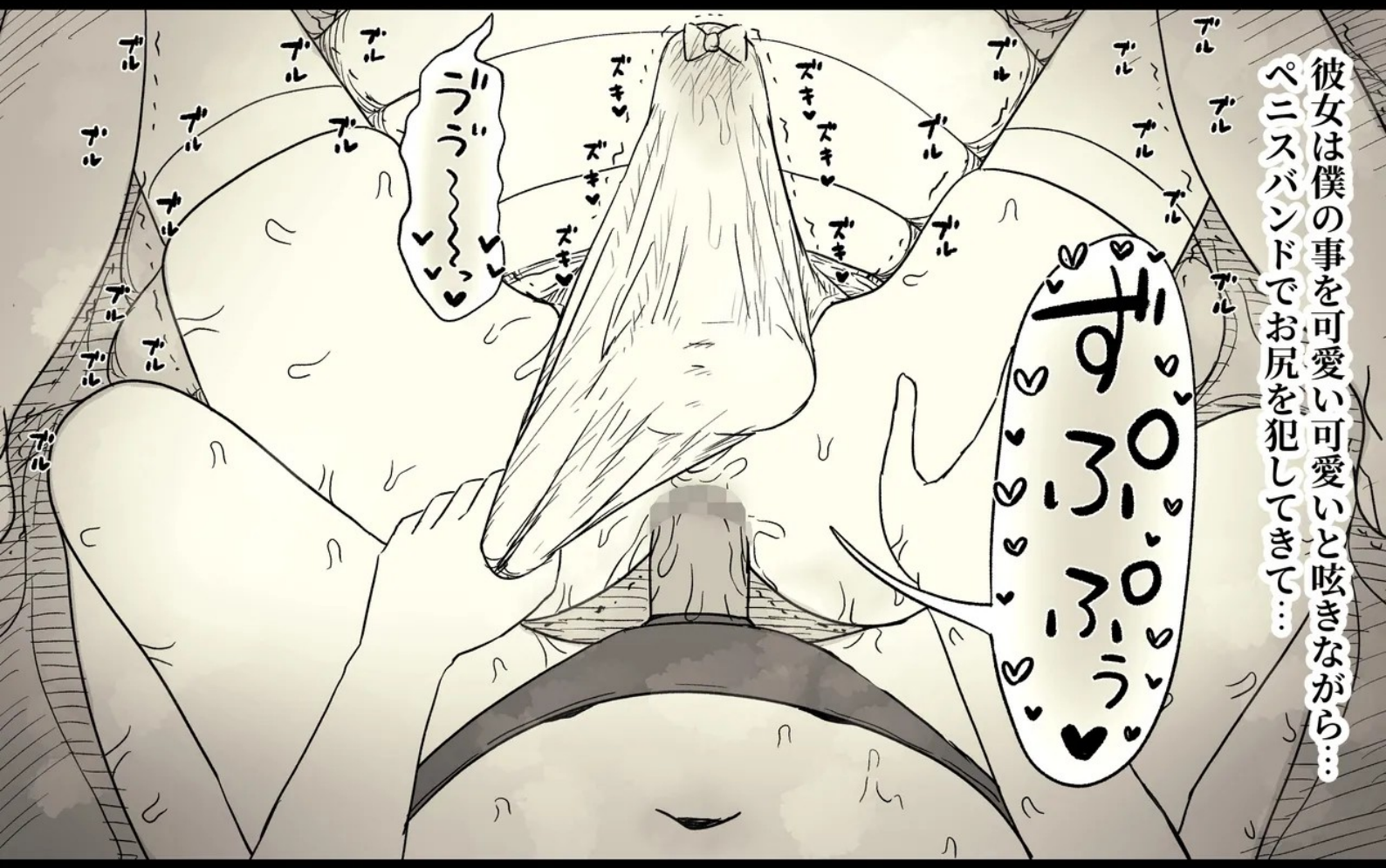

ラブ～～～…♥
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
しくしくしくしくしくしく
ハッ


そして彼女は僕のいきり勃った肉棒を
貪るように膣で食べながら……
精子を絞り出すように
僕の前立腺も指で刺激して……
たーん
たーん
たーん
たーん
たーん
たーん
フル
フル
フル

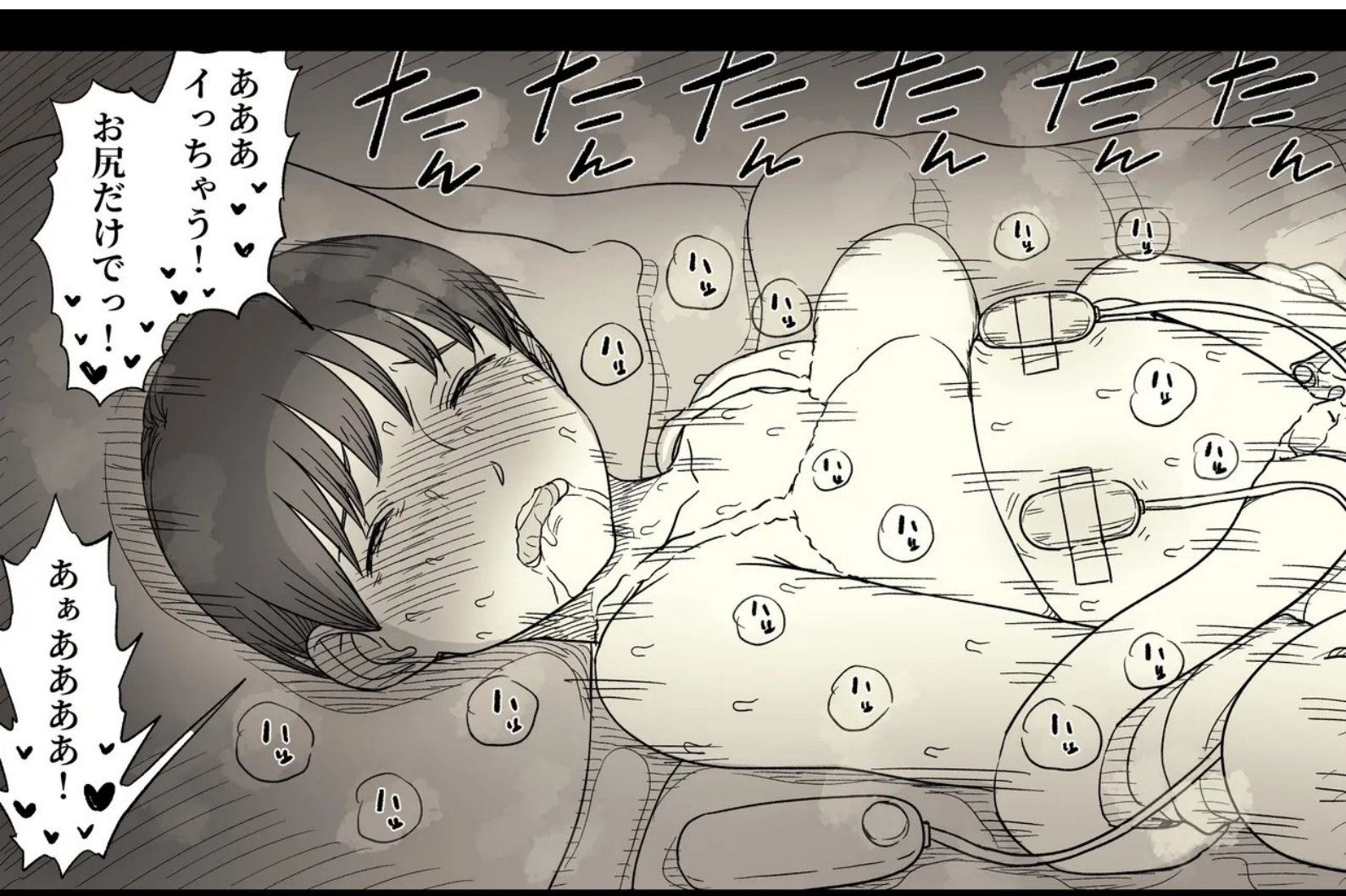

ブブブブブブ♡
でっ♡
また出るう！
ビク
ブル
ドクドクドク♡
ぎゅうううう♡

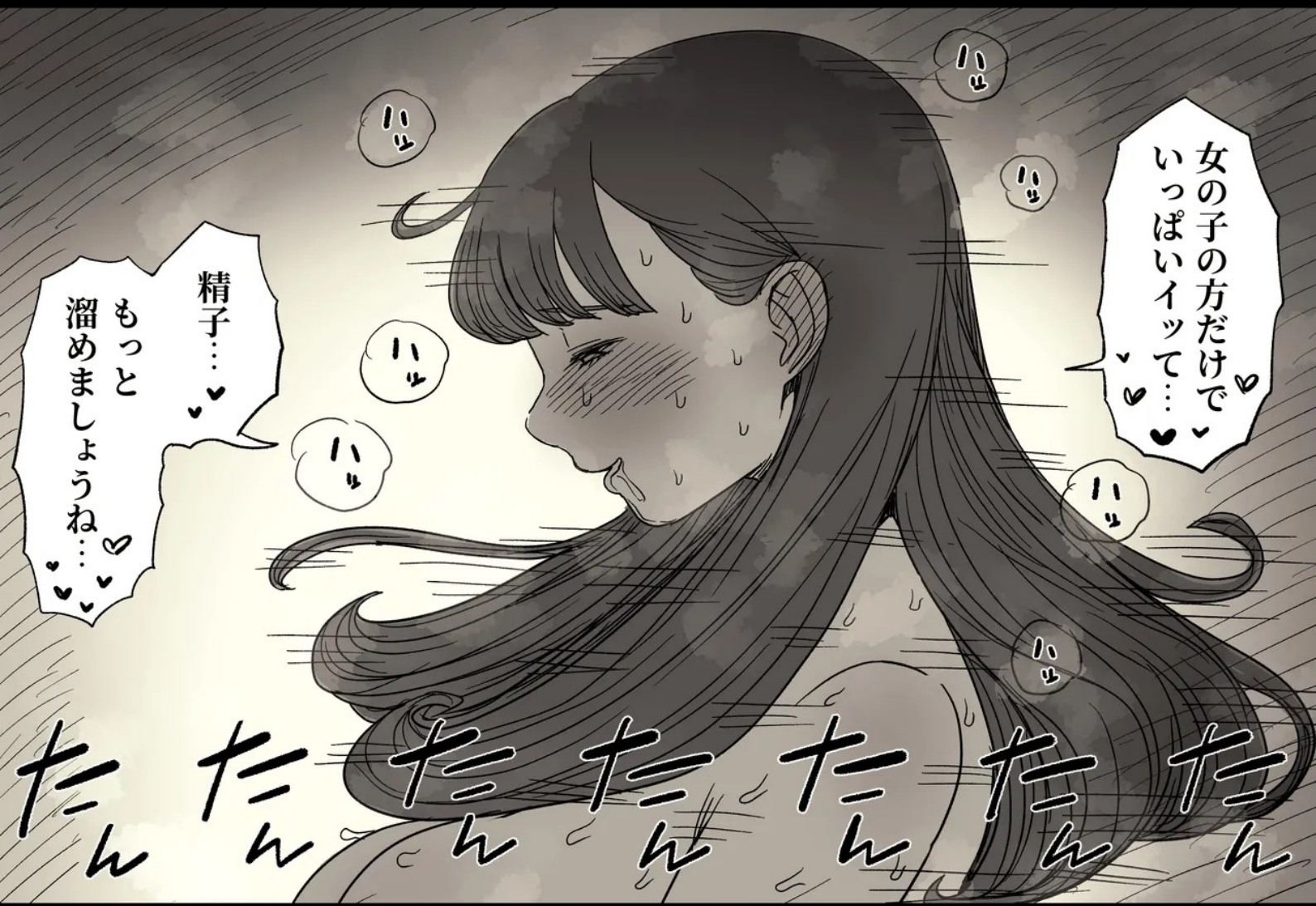

ビク
ビク
ぞく♥
ぞく♥
ぞく♥
ぞく♥
ぞく♥
キュンキュン
キュンキュン
キュンキュン
フッ
ブル
ハッ


彼女にお尻を指でほぐされながら中出し射精した後は…
またあの時のように彼女の着ていた服を着せられて…
バイブで乳首も刺激されて…
まるで女の子のように扱われて…
彼女はペニスバンドを着けて…
ブイブイブイ♥
ブイブイブイ♥
可愛い…♥
可愛いね…♥
女の子になっちゃったね…♥♥♥

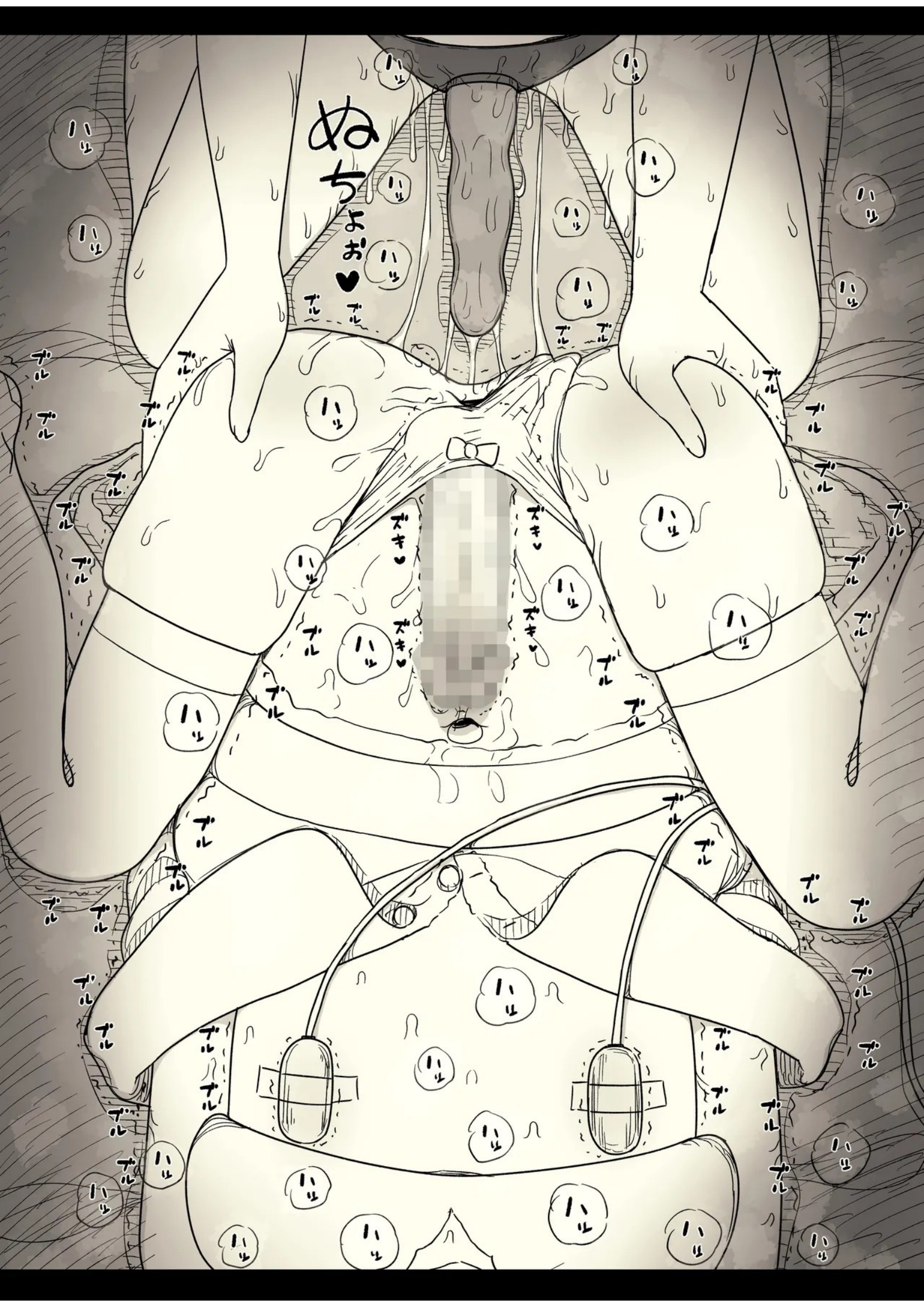

彼女は僕の事を可愛い可愛いと呟きながら…
ペニスバンドでお尻を犯してきて…
ずぉふぉふぅ♥
ぅぅ～っ♥


たんたんたんたんたんたん
可愛いっ♥
可愛いっ♥
ああ可愛いね♥

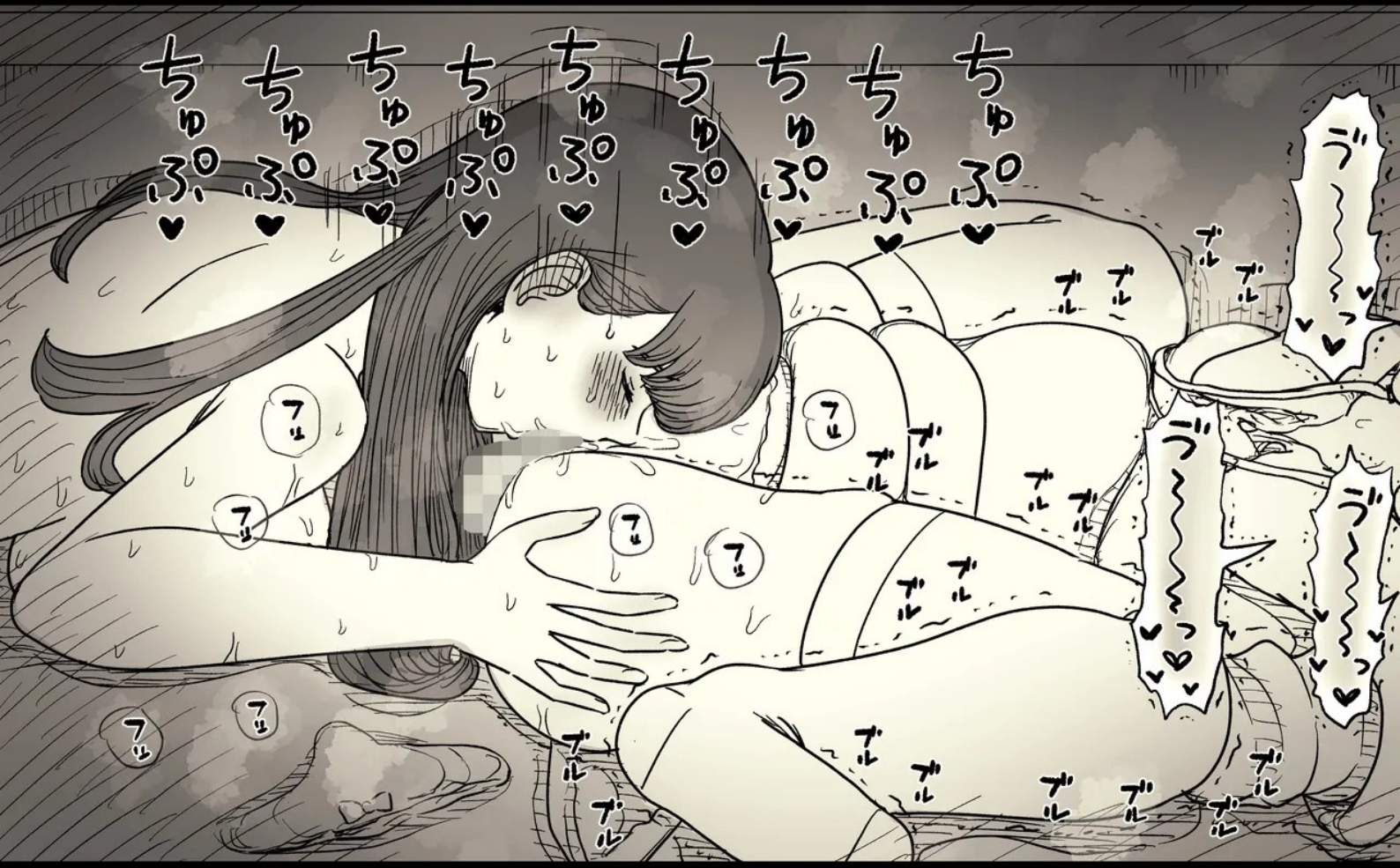

ああ♥
イっちゃう！♥
お尻だけでっ！♥
あぁあああ！♥

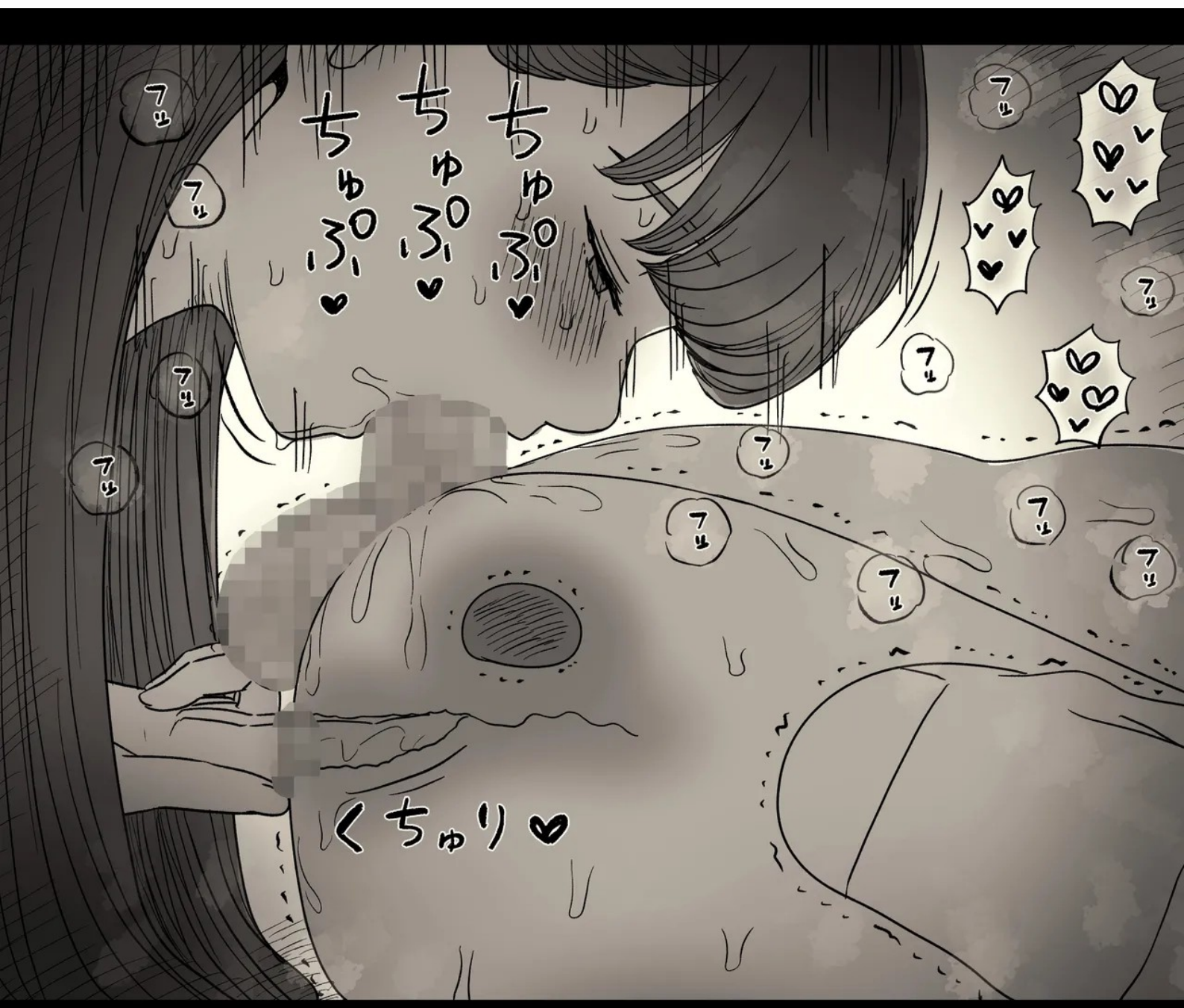

女の子の方だけで
いっぱいイッて…♥
精子…♥
もっと
溜めましょうね…♥

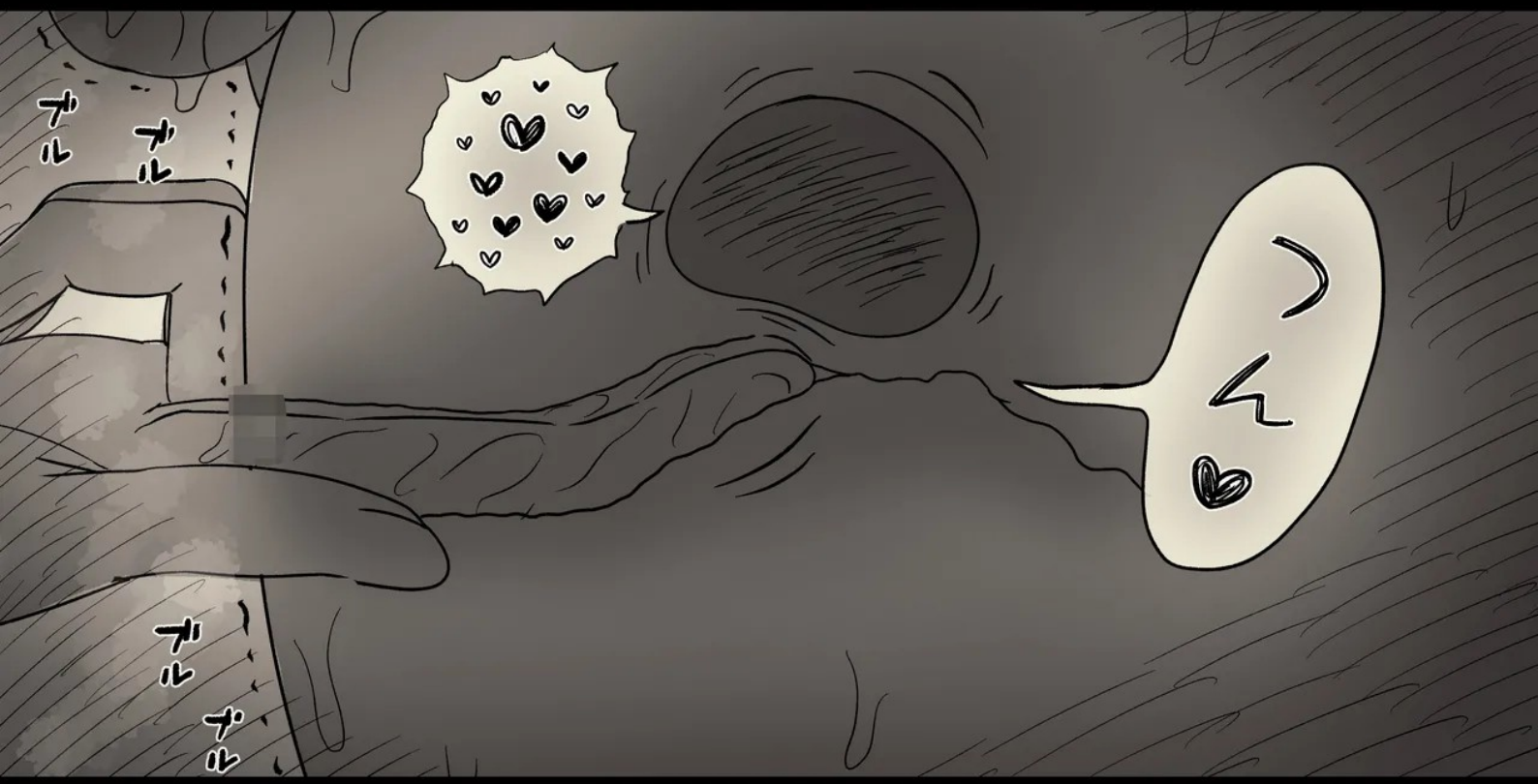

彼女の着ていたまだ体温が残っている服を着させられ…
ペニスバンドでお尻を責められ続け…
僕は何度も何度もメスイキしてしまいました…
今まで彼女に何度もされて開発され尽くした僕のメスの体…
射精無しのドライオーガズムで何度も達して……
そしてまた睾丸に精子が溜まっていく感覚…
ブル
ビク
フッ
ハッ
たん

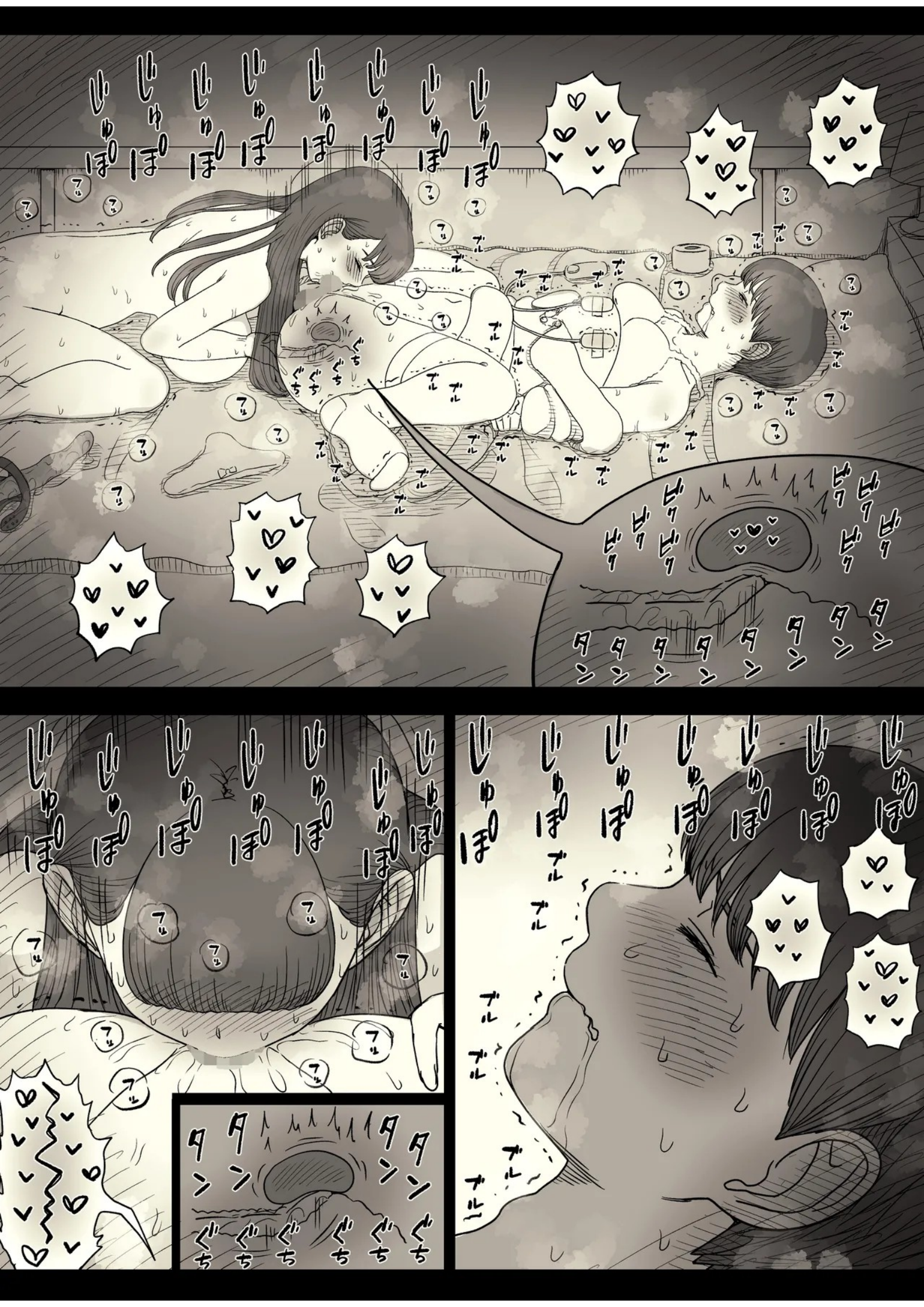

ぬちょお♥
ズキ♥
ズキ♥
ズキ♥

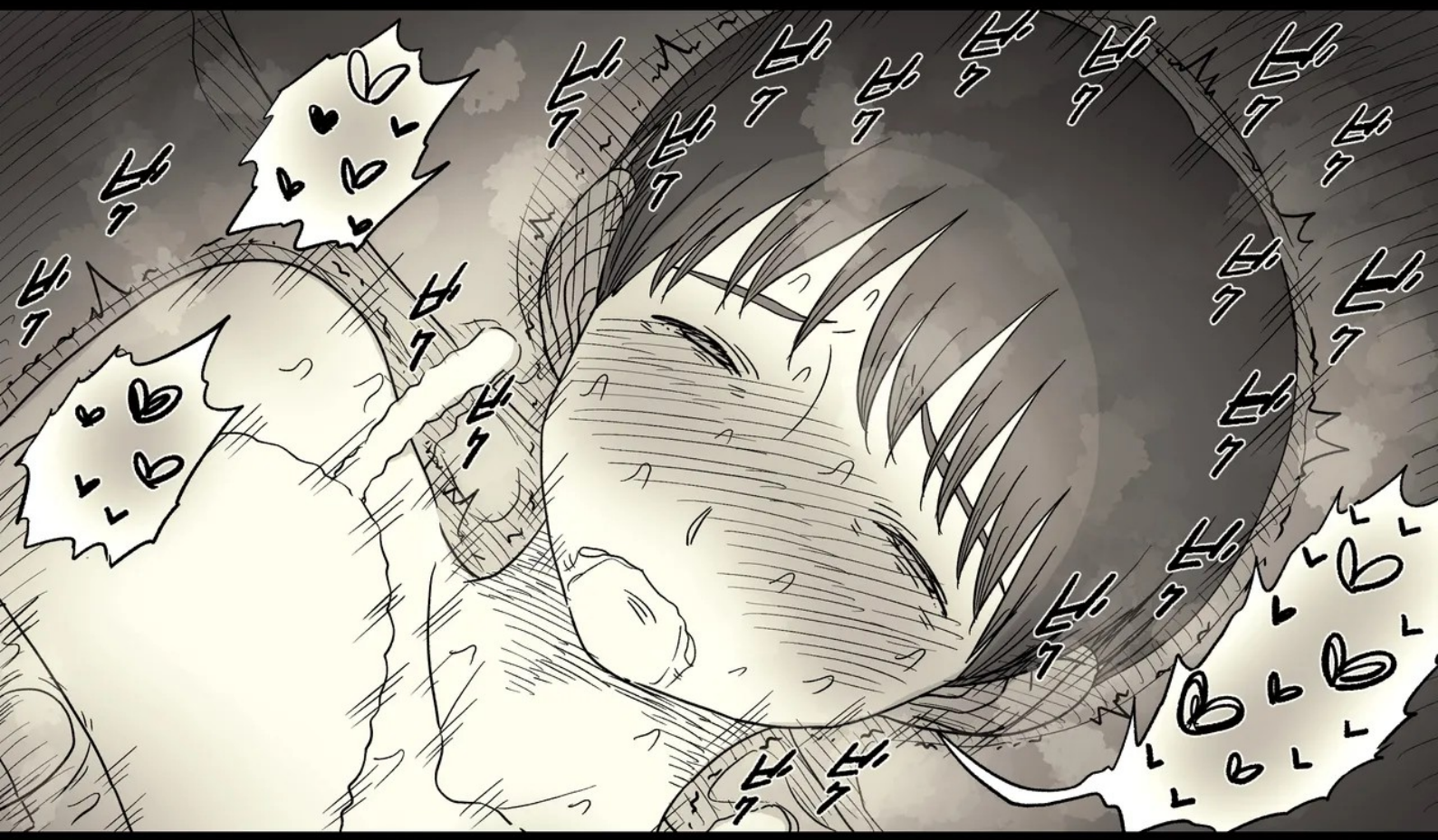

メスイキしすぎた後…
おちんちんよりもお尻の奥に感覚が強く
移ってしまっているのを知っている彼女は…
またおちんちんに感覚を戻すために口で含み…
ぱく♥
ぺろ♥
ぺろ♥
ぺろ♥
ちゅー♥
ちゅー♥
ちゅー♥
ちゅる♥
フル

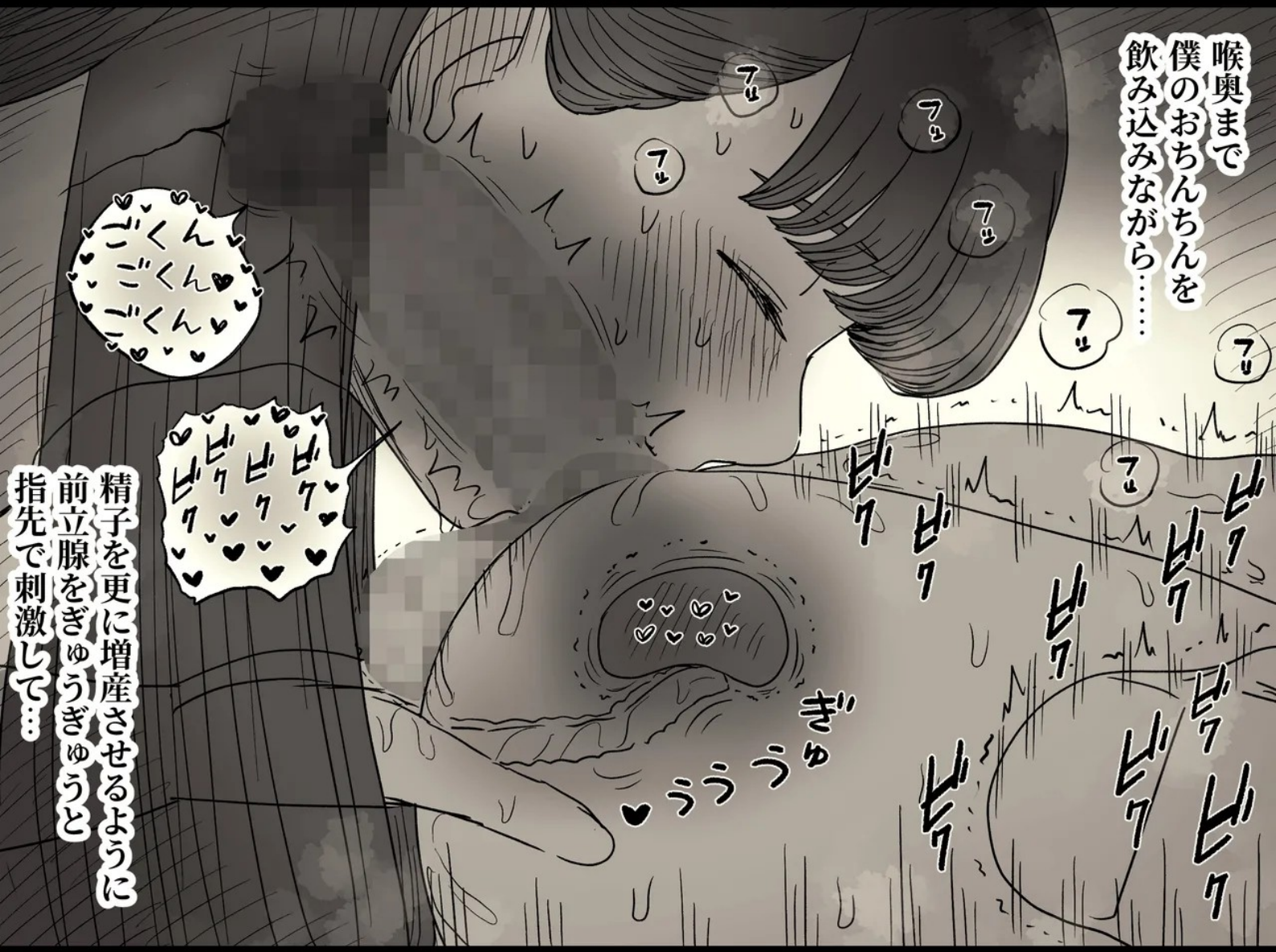

ちゅぷ♥
ちゅぷ♥
ちゅぷ♥
ちゅぷ♥
ちゅぷ♥
ちゅぷ♥
ちゅぷ♥
ちゅぷ♥
づ～～～っ♥
づ～～～っ♥
づ～～～っ♥
ブル
フル


ちゅ
ちゅ
ちゅ
フル
くちゅり


ブル
ブル
ブル
ブル
ン


じゅぽ
ぐちぐちぐち
ブル
ビクビクビク
タンタンタンタンタンタンタン
じゅぽ
ブルブルブル


ビク


喉奥まで
僕のおちんちんを
飲み込みながら……
フッ
ビク
ごくん
ごくん
ごくん
ぎゅうううう
精子を更に増産させるように
前立腺をぎゅうぎゅうと
指先で刺激して…


はぁ♥
ズキ♥
ズキ♥
ズキ♥
ズキ♥
ズキ♥


トロ
トロ…♥
ぴと♥
ハッ
ブル♥
キュンキュン
ぬぬぬぬ♥
フッ
ブルブル

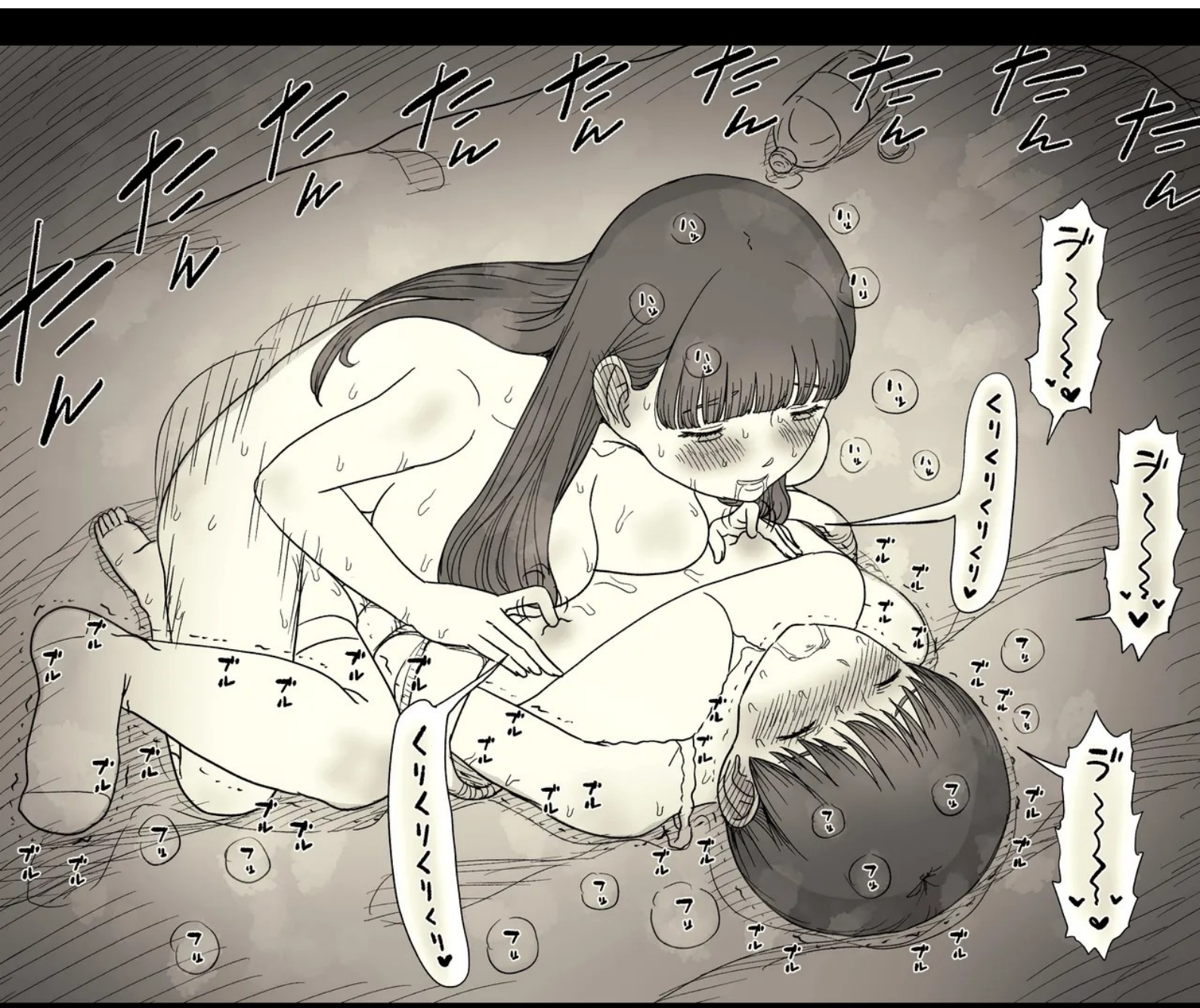
じゃあ…

今日は
これで最後…

残りの精子…

いっぱい全部…
私の中に出してね…♥


ずぬぬぬぬぬぬ♥
お♥
おおおおおおおお♥♥
ハッ
ハッ
ハッ
ビク
ビク
ビク
ブル
ブル
ブル


たん
ブル
フッ
ハッ
ブ〜〜〜♥
くりくりくりくり♥
ブ〜〜〜♥
くりくりくりくり♥
ブ〜〜〜♥


たん
ブル
フッ
ハッ
ブ〜〜〜♥
ブブ〜〜〜♥
ブブ〜〜〜♥
くりくりくりくりくり♥


たんたんたんたんたんたん
ねえっ
ねえっ
二人の子供
欲しいの…っ
ハッ
フッ
カリ
カリ
カリ
カリ

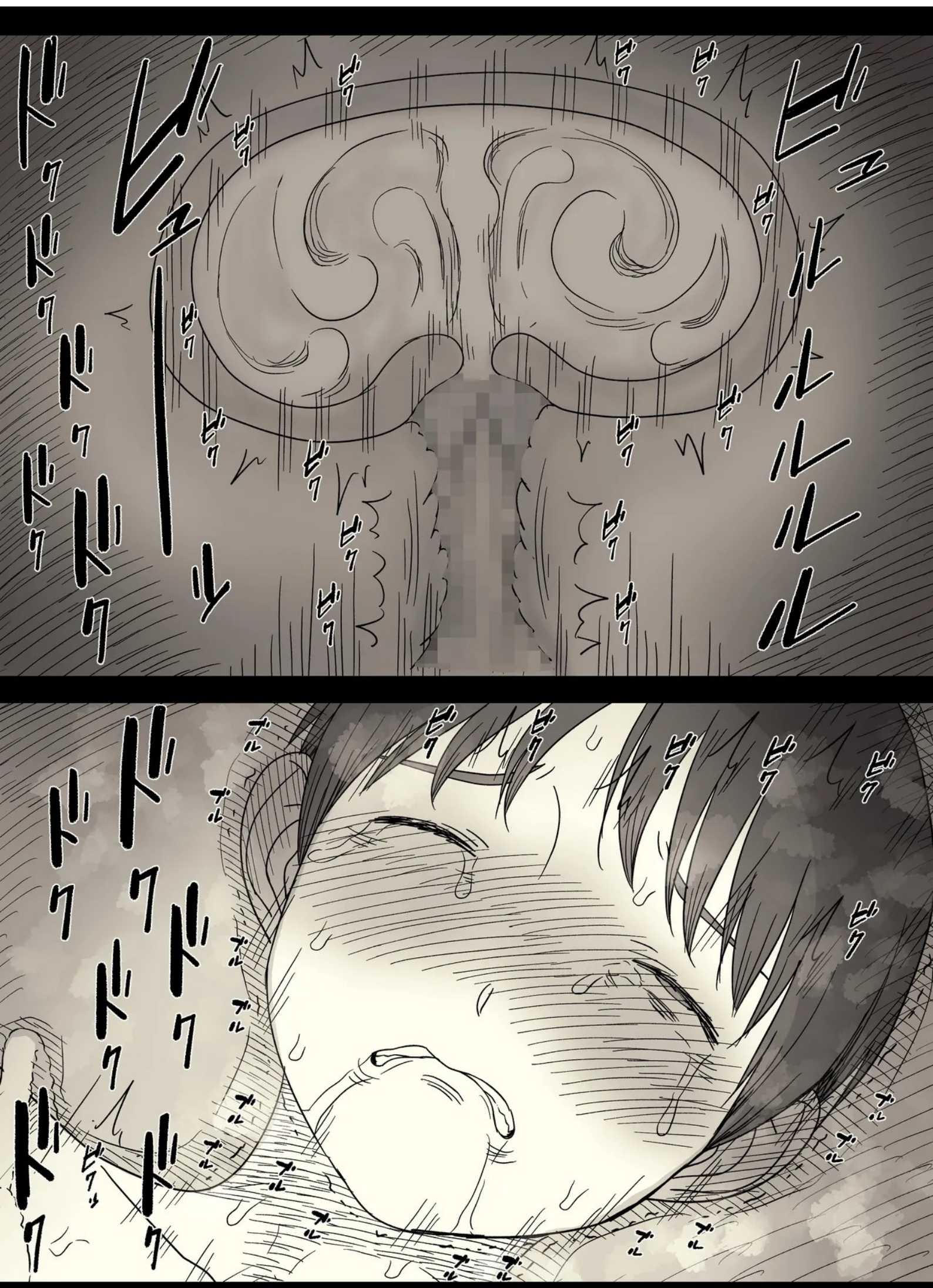

たんたんたんたんたんたん
一生一緒に…
全部全部…
一つになろう？
ハッ
フッ


たんたんたんたんたんたん
ブルブルブルブルブルブル
子供も作って…
一つになろう？
たんたんたんたんたんたんたんたんたんたんたんたん
ねえ…っ♥
私のことっ
孕ませて…っ♥
うあああっ
ああ…っ！♥♥

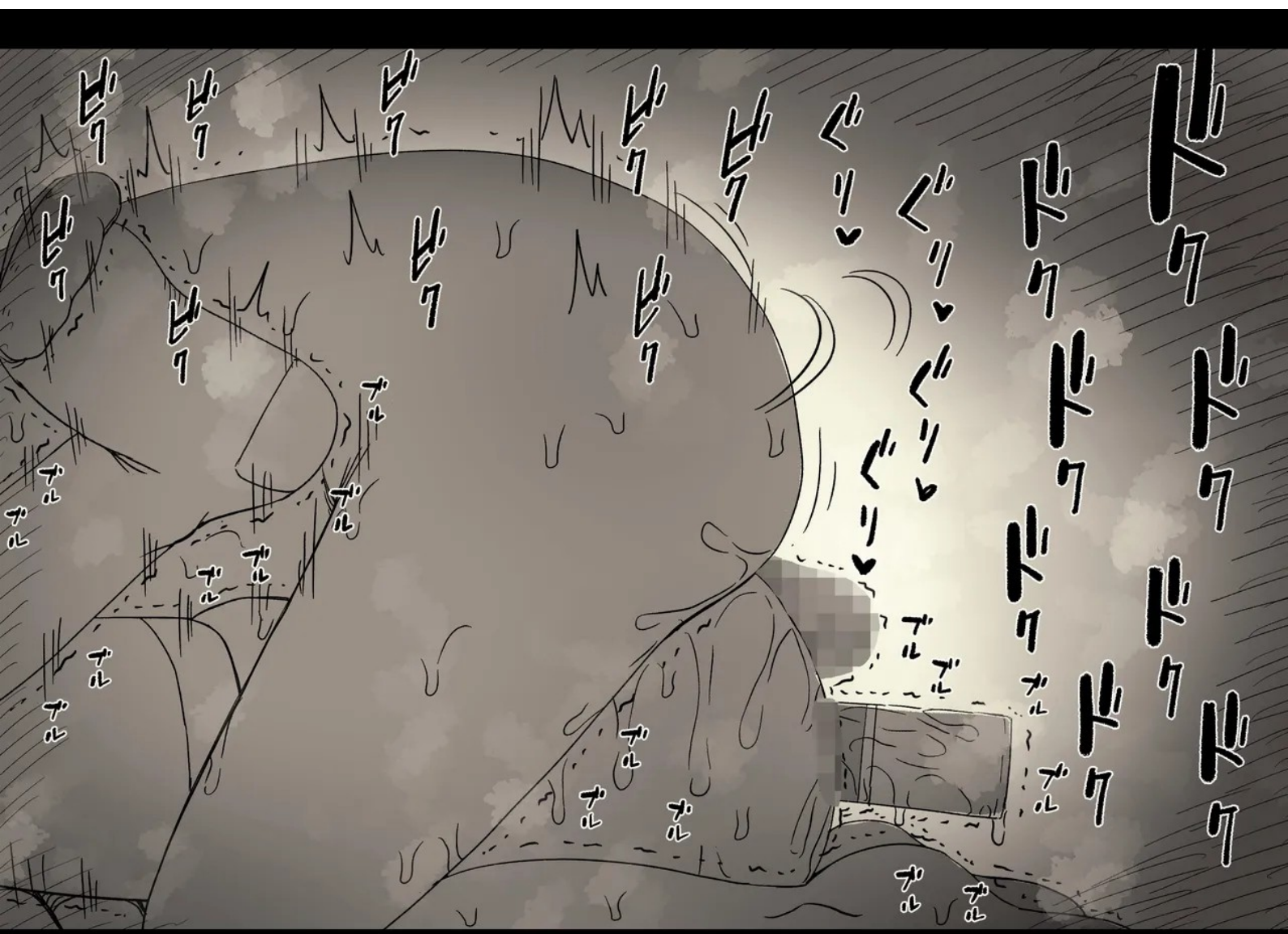

孕ませて…っ♥
孕ませて…っ♥
孕ませて…っ♥
孕ませて…っ♥
うぁあぁあああ！♥
中にいっぱい…っ♥
子種で孕ませて…っ♥
ハッ
ブル


ねえ好き…♥
大好き…♥
ずっと好き…♥
いっぱい好き…♥
同じ気持ちでしょう?♥
わかるよ…♥
だから出して…♥
全部出して…♥
私の中に子種全部出して
子供孕ませて…♥♥
ハッ
ビク

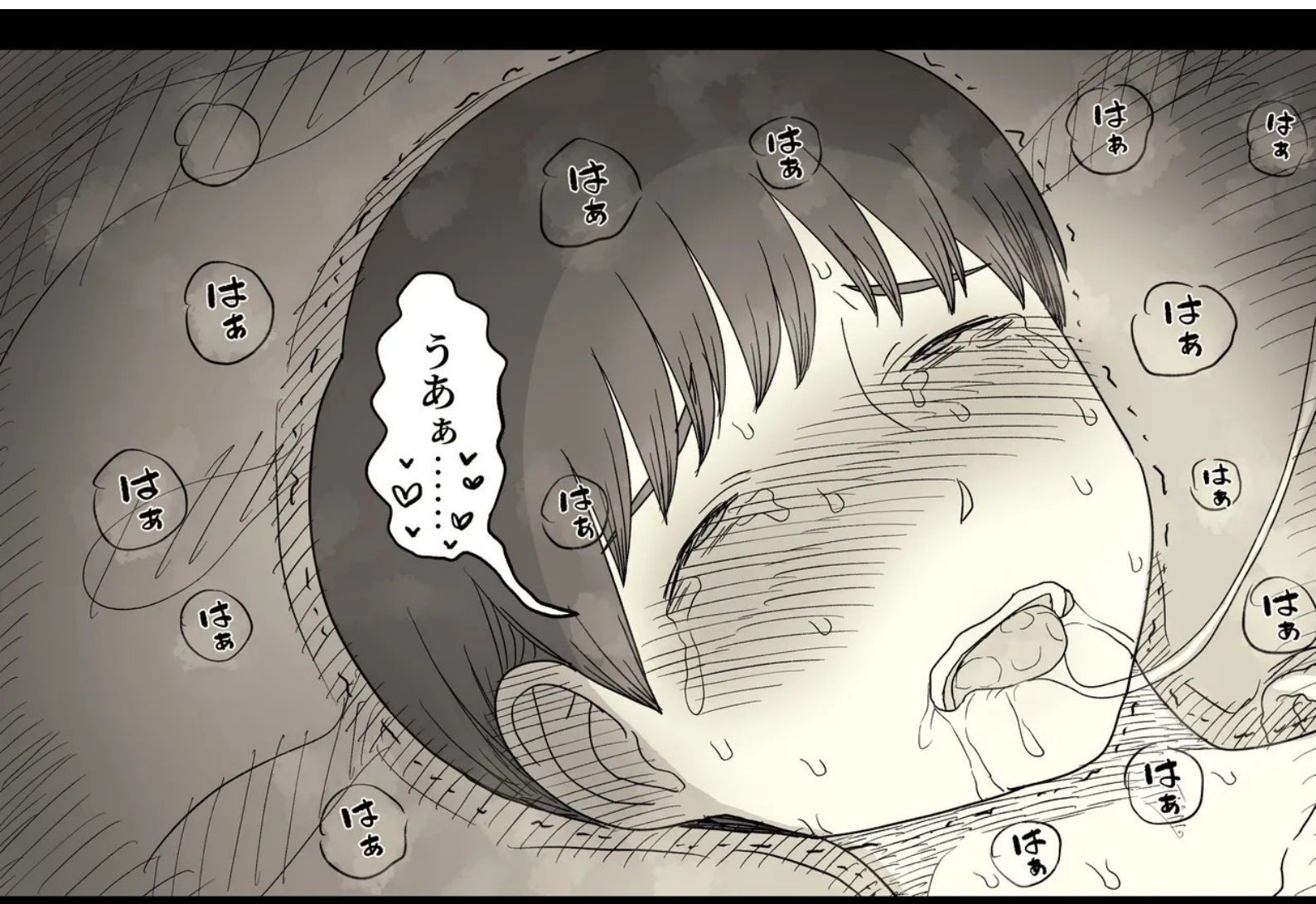

孕ませてっ！
出るぉぉぉぉ

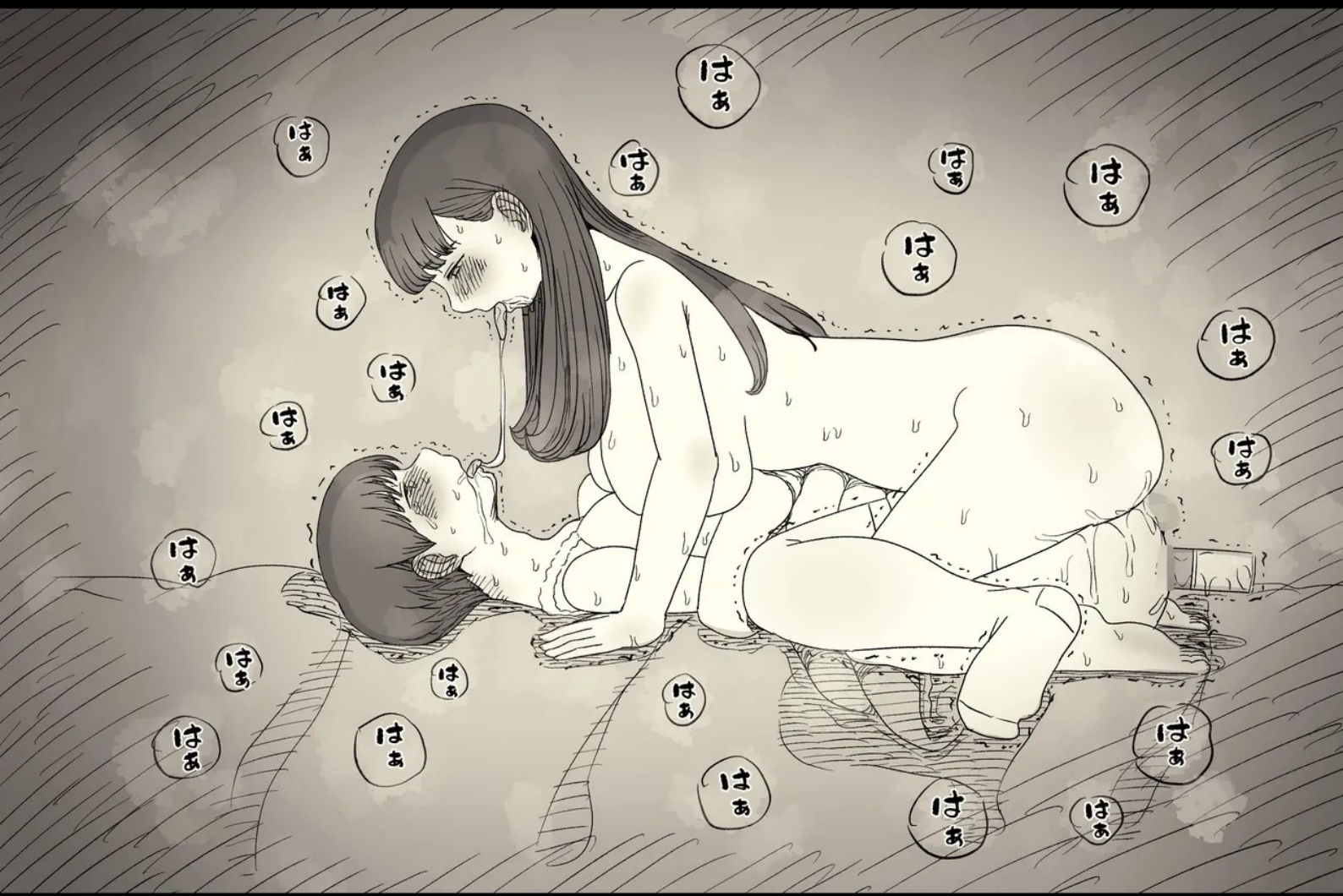

ビクビクビク


ちゅううううう♥

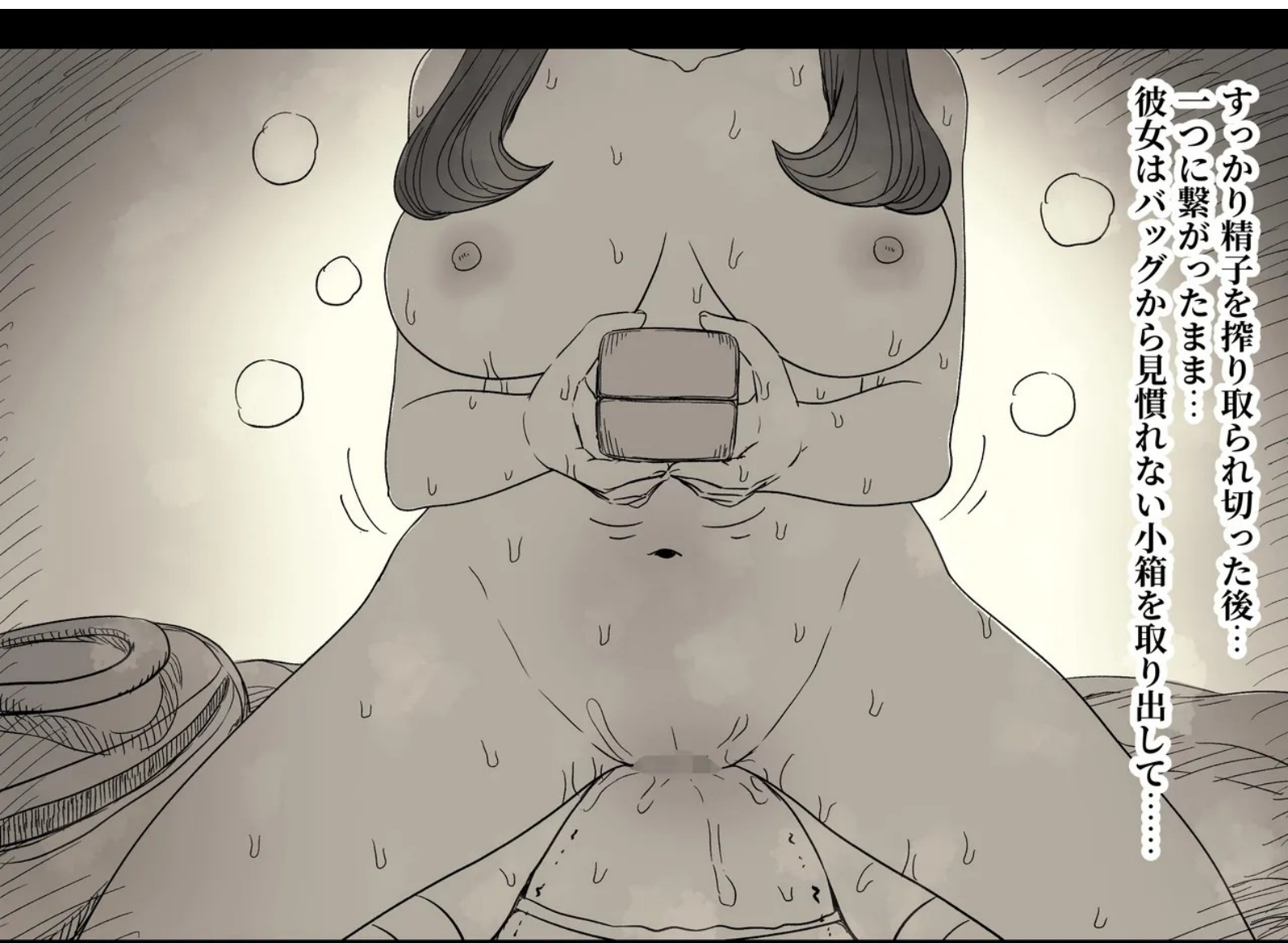

ビク
ビク
ビク

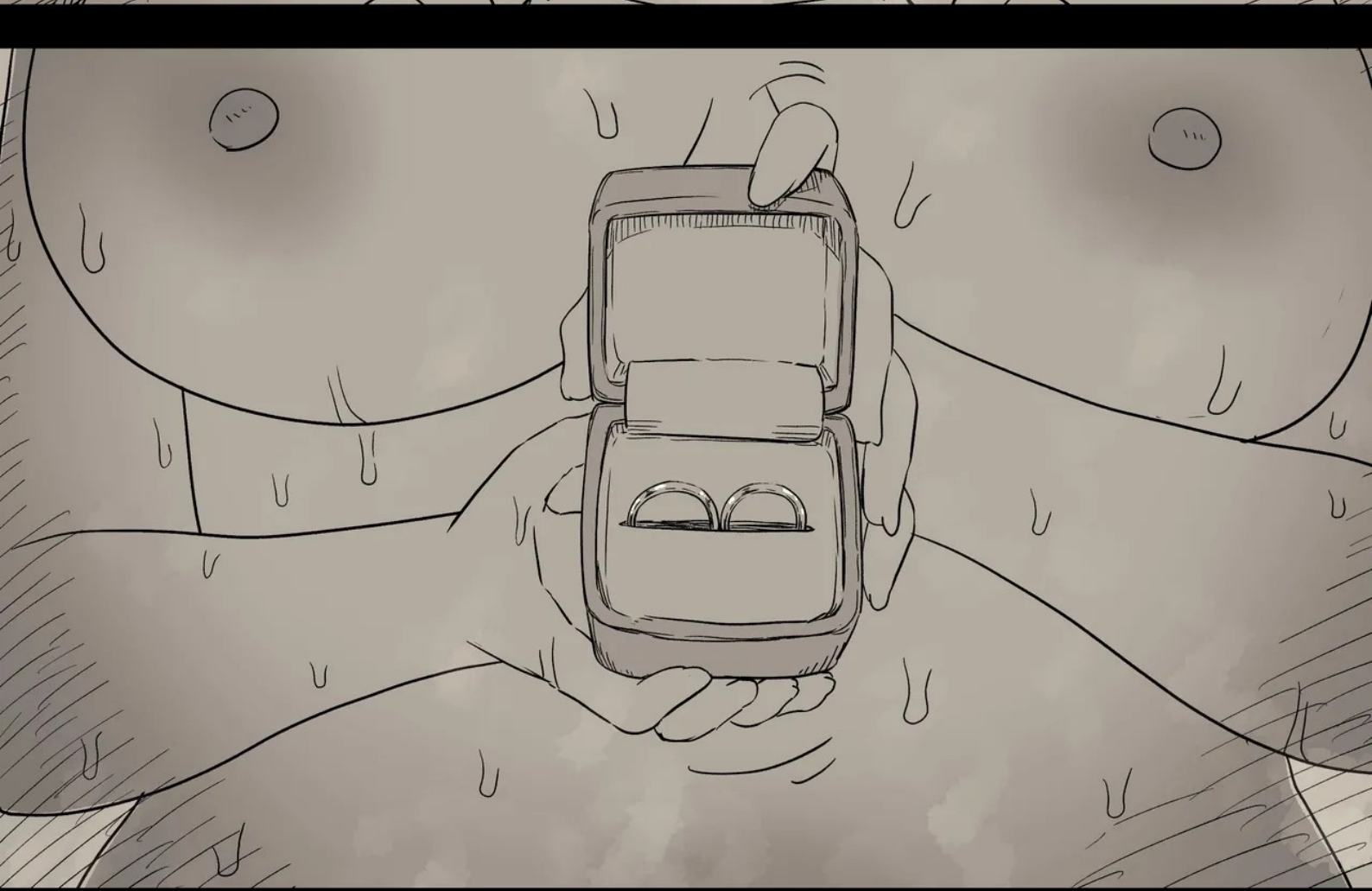

はあ
ここ……


はぁ
うあぁ……♡


はぁ

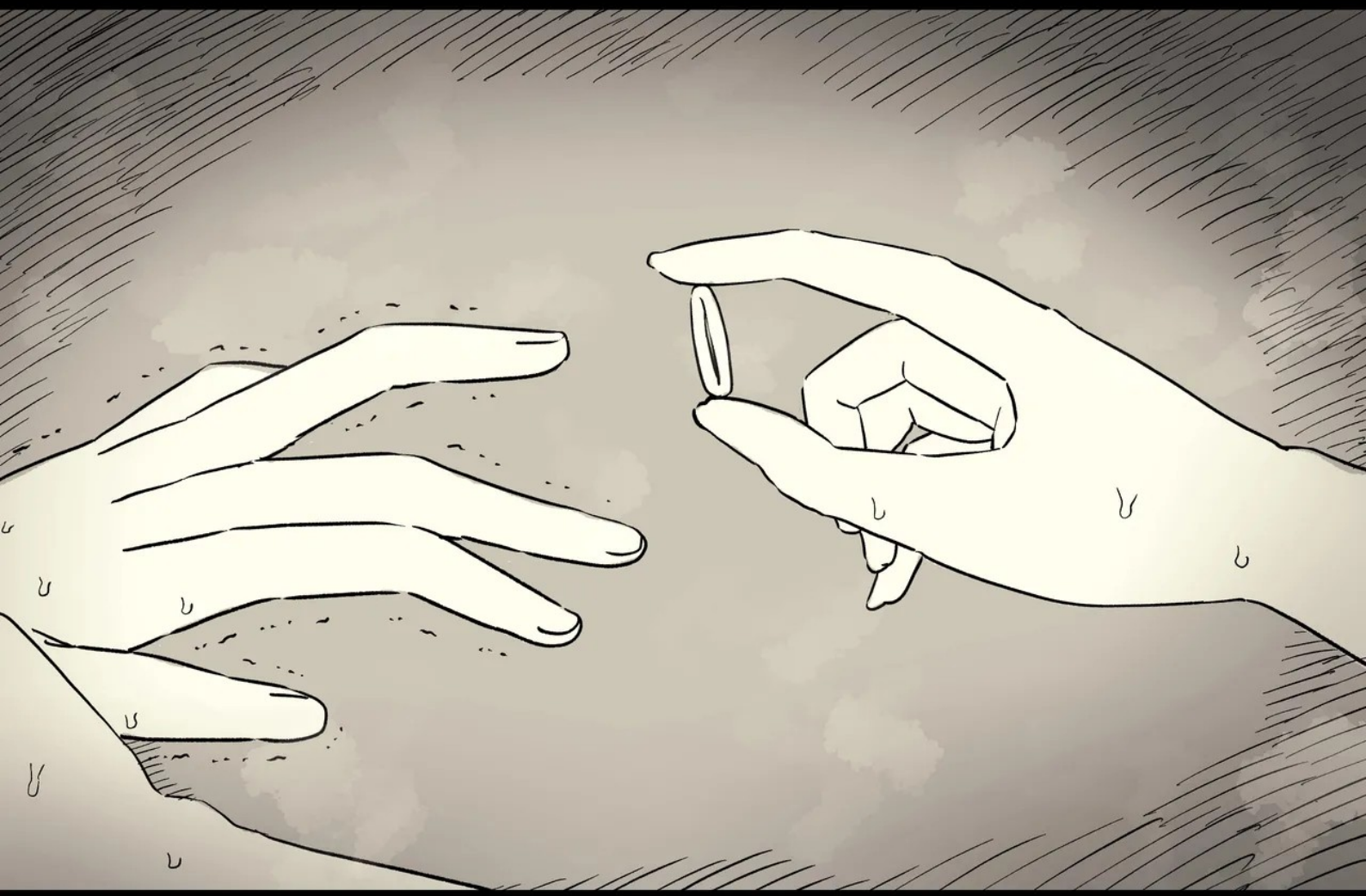

種付け…
しちゃったね…♥
すっごく…
気持ち良かった…♥
すっごく…
気持ち…
良かったでしょう…？♥

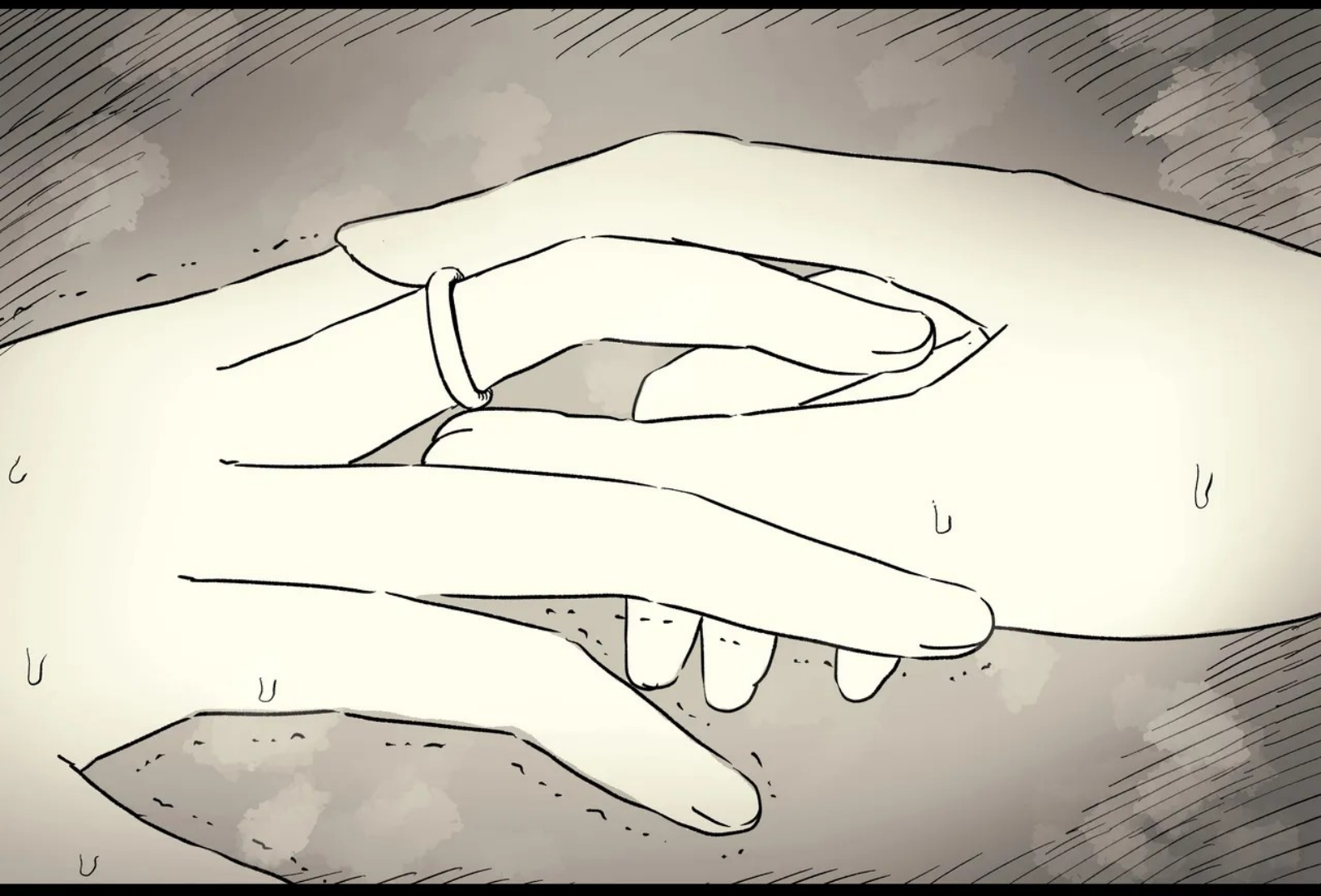

すっかり精子を搾り取られ切った後…
一つに繋がったまま…
彼女はバッグから見慣れない小箱を取り出して……




結婚してください…









これから
毎晩…

子供が
できるまで…

種付けして
貰いますからね…♥

彼女からのプロポーズ……
彼女は結婚指輪まで用意していて……
今まで二人で紡いできた性と愛の記憶を
今日の一日で辿るように体験させてくれた上で……
僕を女の子にして…まさか彼女からの告白……
こんな……こんな事って……
こんなにも彼女らしく深い愛を表現してくれて僕の心は彼女に……
彼女との二人だけの世界にトロトロに浸り切って……溶け切って……

それからは毎日…

彼女に本物の種付け生中出し子作りセックスをしまくる日々が始まりました……


今日も彼女に襲われて……
グチグチグチグチ
グチグチグチグチ
グチグチグチグチ
グチグチグチグチ
たんたんたんたんたんたんたん


むぢゅぢゅ
ヒルルルルル
ドクドクドクドク


次の日も……
くりくりくり
くりくりくり
くりくりくり
くりくりくり
グチグチグチグチグチグチグチグチ
グチグチグチグチグチグチグチグチ
グチグチグチグチグチグチグチグチ
あぁぁっ
乳首だめっ
うあぁっ
グチグチグチグチグチグチグチグチグチ


ヒュルルルル
きゅうううう
おおお
ぎゅうううう
ドドド


また次の日も……
グチ
フル
ハル

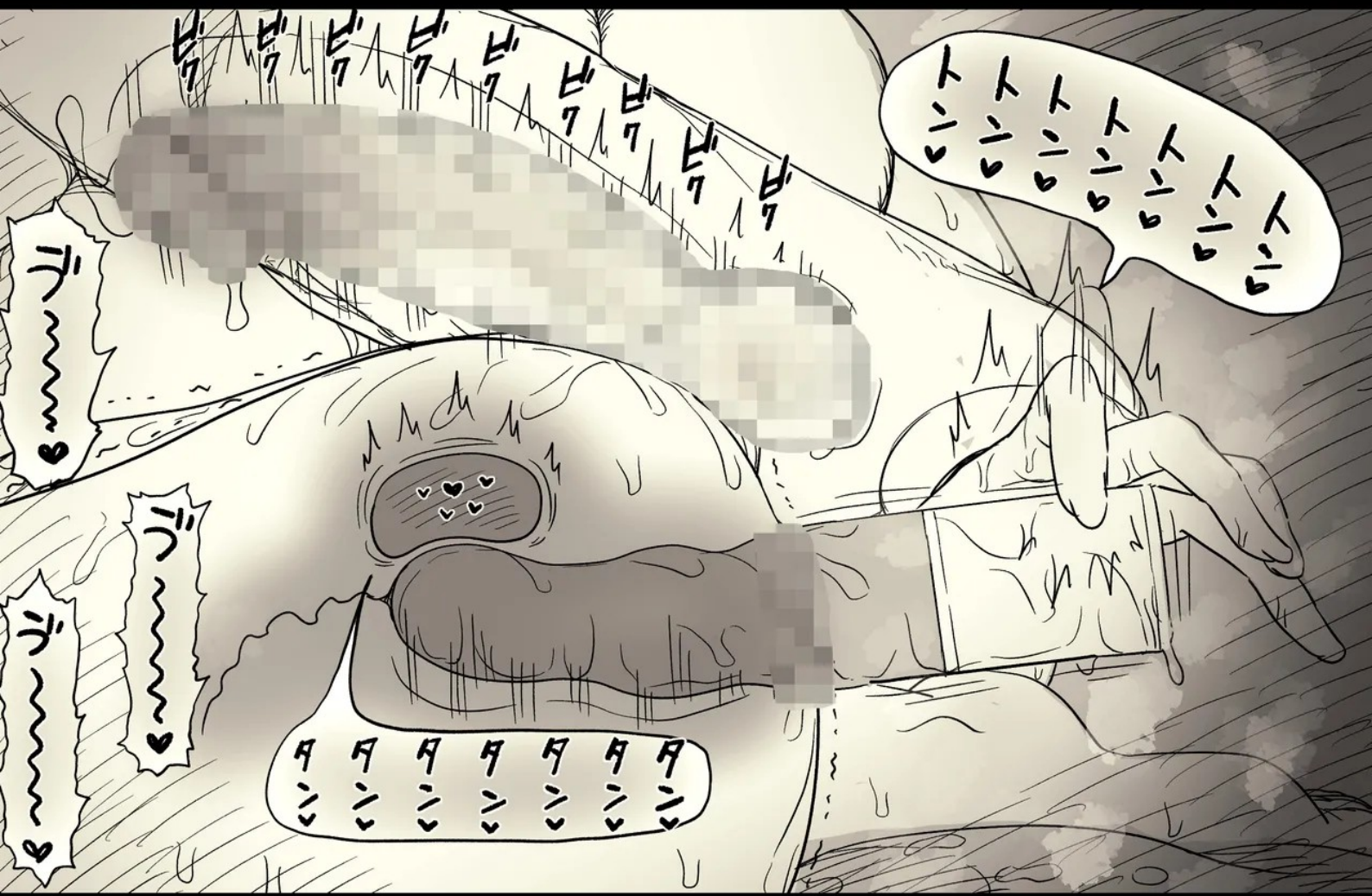

ひゃうううう
ぅぅ
ビク
ブル
ぎゅうううう
ドドド


そのまた次の日も……
今日も中出しし過ぎて
脳が熱く焼き切れるかのように
興奮しきっていると……


彼女はまた追い撃ちをかけて搾り出すように
僕の開発されきった後ろの性感帯も刺激して
僕を天国へと連れて行ってくれました…
れる れる れる
ちゅうぅぅ
ちゅるるるる
れるれるれる
れるれるれる
ちゅぅ、ぅ、ぅ、ふ、
ちゅるるる
れるれろれろ
れろれろれろ
ちゅぅ、ぅ、ふ、ちゅぅ、ふ、
ちゅぅ、ぅ、ふ、ちゅぅ、ふ、
ちゅるるるれるれるれるれるれる
おおお
おおおお
おおおお
おおおお
おおおお
おおおお
おおおお


はむ♡ ちゅうううう
れるれろ♡れろれろ♡
つぷ♡
ずぬぬぬ♡


はみ♥はみ♥
はみ♥はみ♥
ちゅうううう♥
れる♥れる♥れる♥
ちゅうううう♥
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ


ビクビクビクビクビクビクビク
トン♥トン♥トン♥トン♥トン♥トン♥
ズ～～～♥
ズ～～～♥
ズ～～～♥
タン♥タン♥タン♥タン♥タン♥タン♥タン♥


ちゅう ちゅう
ちゅうううう
ちゅう
づ〜〜〜〜っ
づ〜〜〜〜っ
づ〜〜〜〜っ
ブル
フッ
クチ クチ クチ クチ クチ クチ クチ クチ クチ クチ クチ クチ クチ


ちゅうううううううう
あ あああ
グチグチグチ
グチグチグチ
グチグチグチ
ビク
ブル
ハッ


天国へと連れて行かれた僕は…
またどくどくと睾丸に生産された子種を
たっぷり搾り取られて……
今日もまた女装させられながらディルドでお尻を犯されながら
耳を責められながら彼女に抱きしめられて…
彼女に何度も何度も種付けして……
れるれるれるれるれるれるれるれるれるれる
孕ませて孕ませて孕ませて孕ませて
あぁあ
ぎゅうう
ヒュルルルル
ヒュルルルル
ナーん
ナーん
ナーん
ナーん
ナーん


んふぅ～～～
ちゅうううううう
ちゅるる
ちゅうううう
ぎゅうううううう
ヒュルルル


たーん
ん♡ん♡ん♡ん♡
ヒュルルルル
ヒュルルルル
ヒュルルルル
たーん

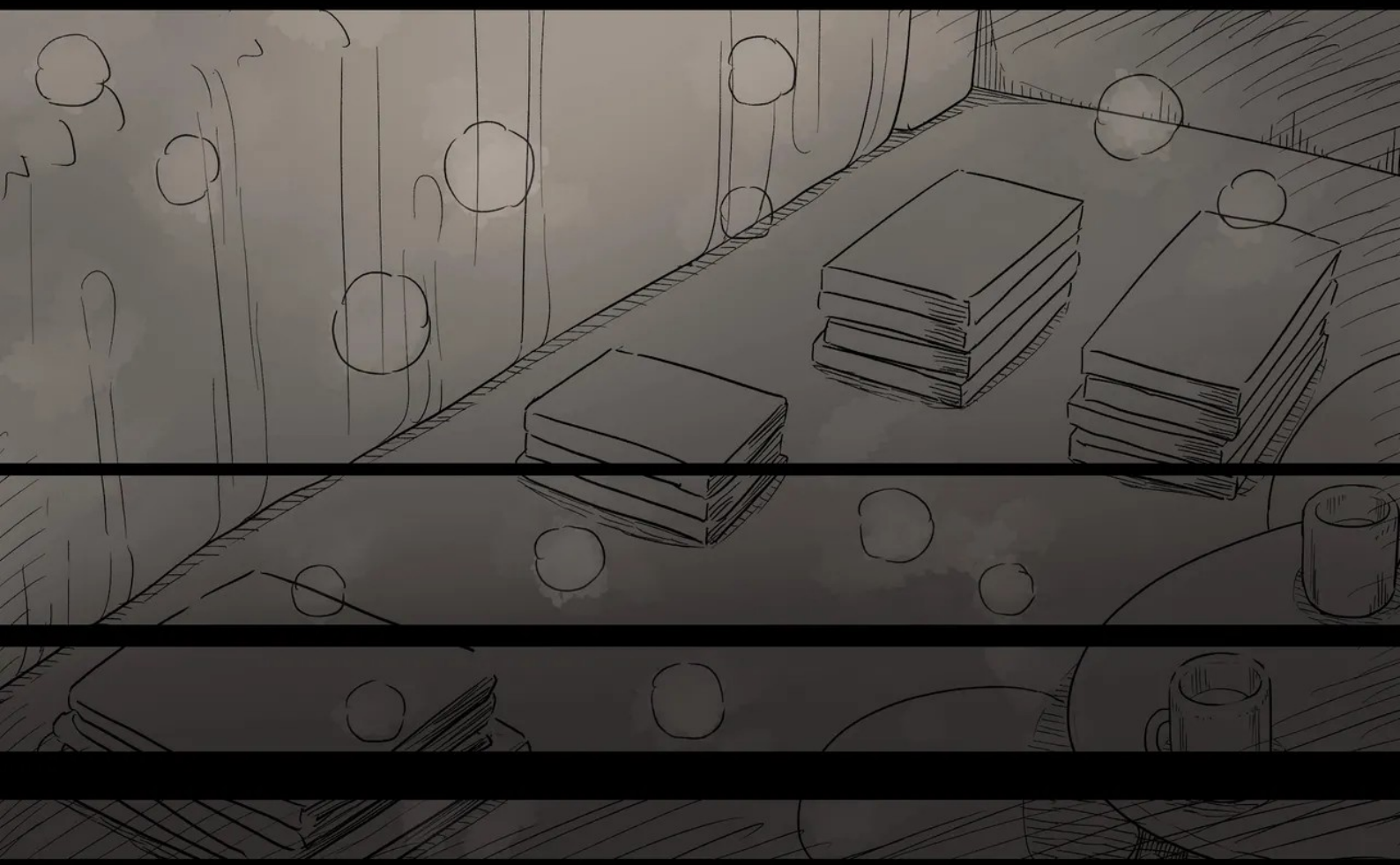

んむ
ビク
ビクビク
ビクビクビク
ビクビクビクビク
ビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク
ビク
ビク
ビク
ビク


フッ
ブル


はあ







毎日…毎晩……

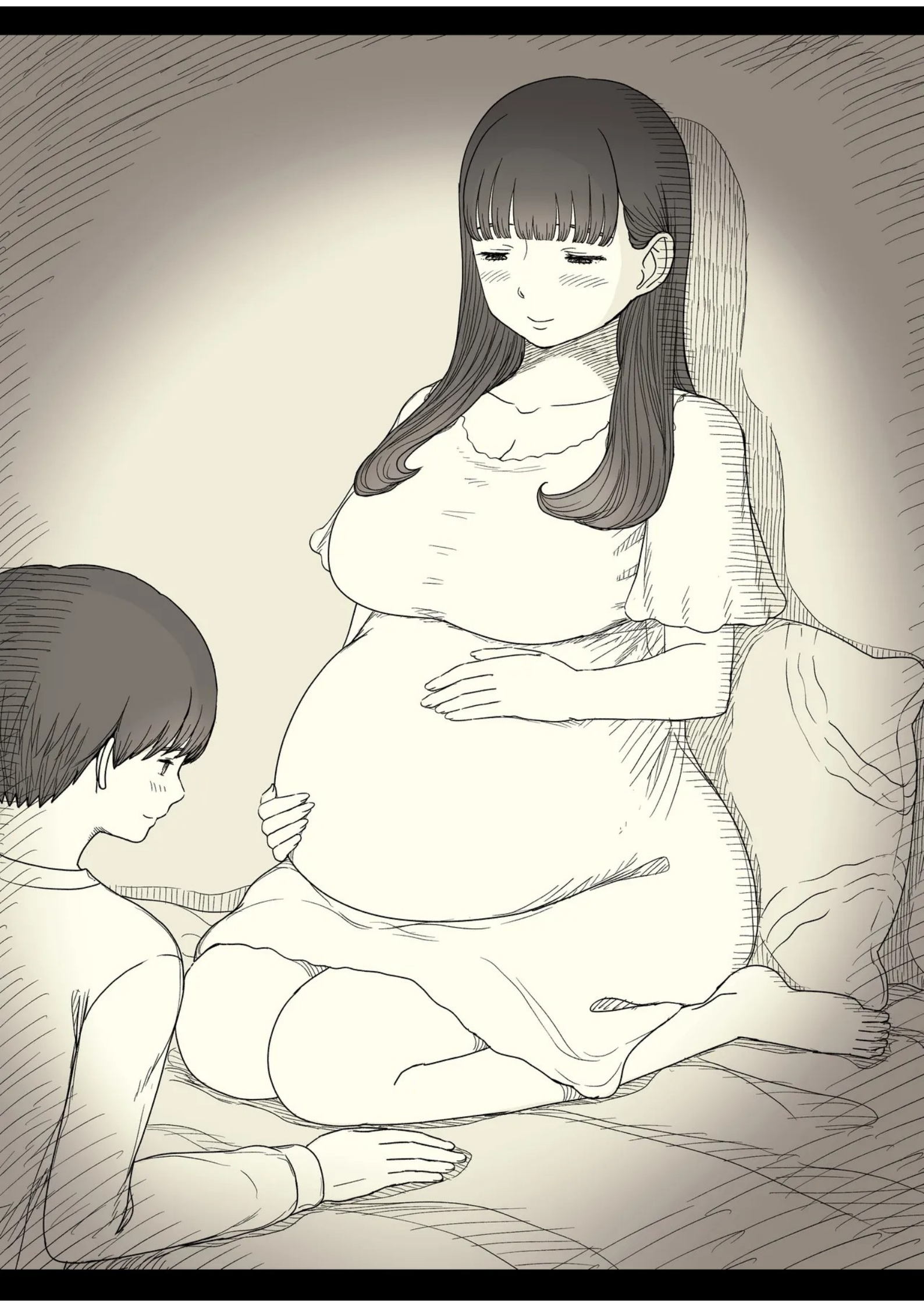
彼女にたっぷり搾り取られ……

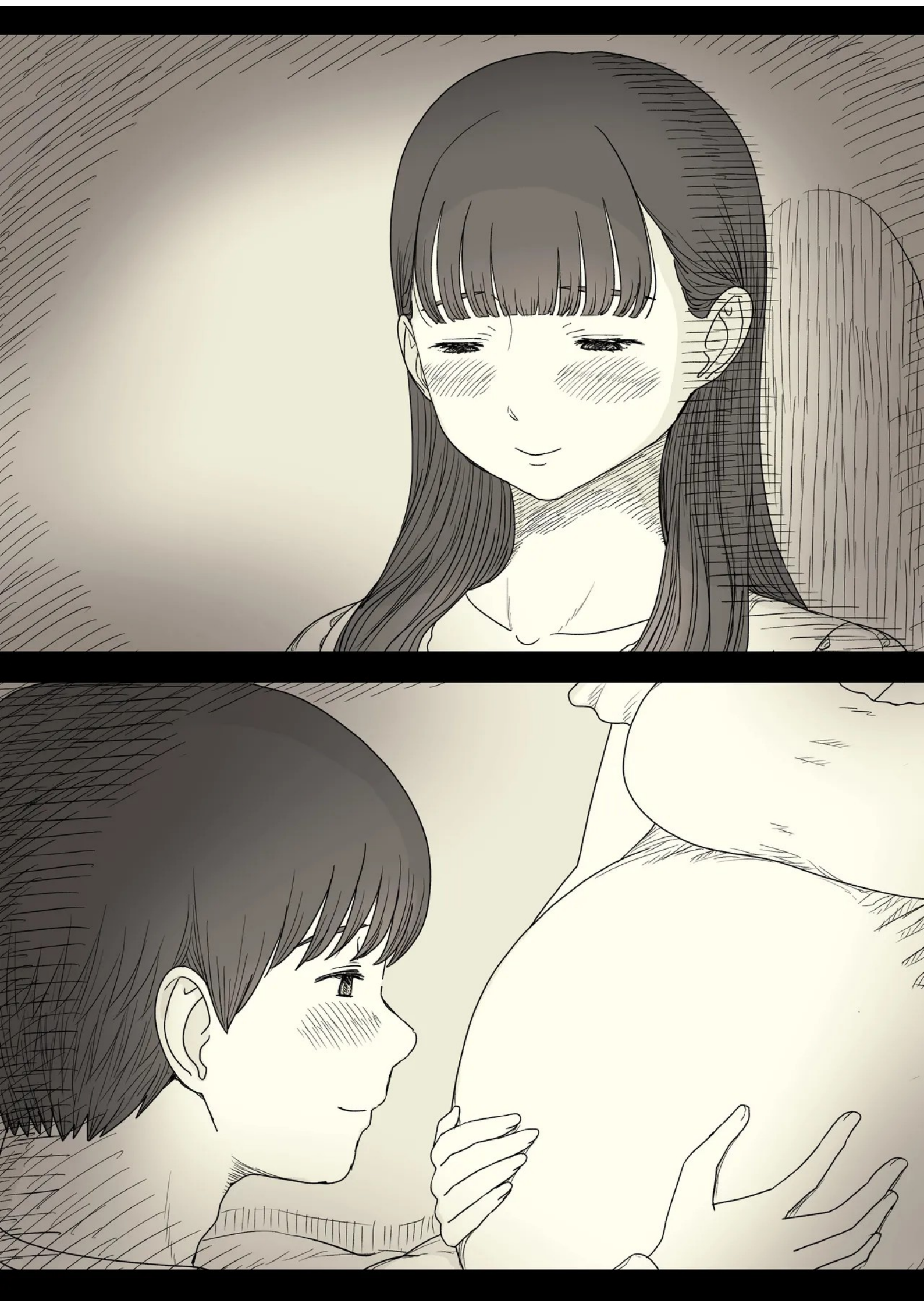
中出しをし続けて……

そうして……

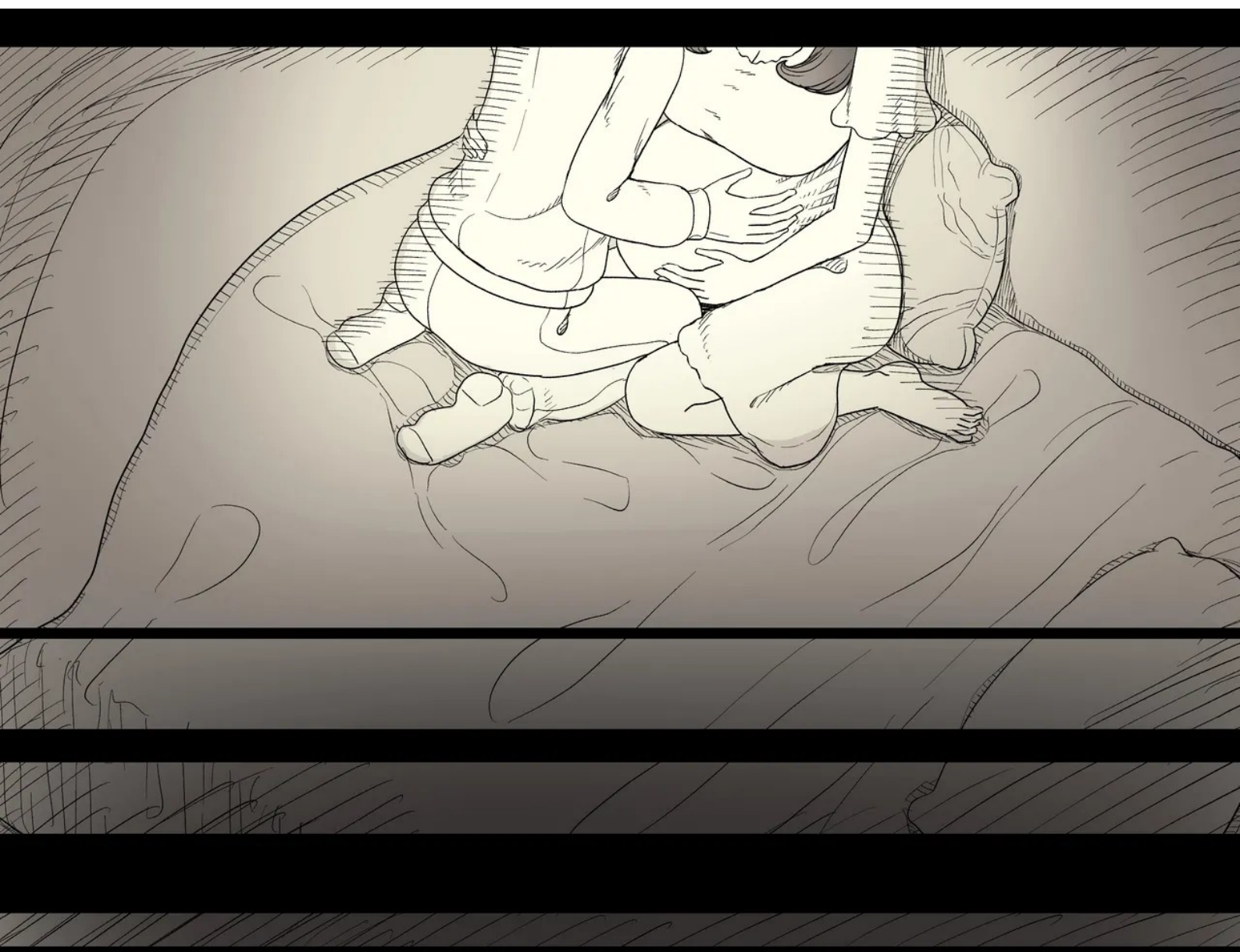
彼女が子供を欲しいと言ったあの日からしばらく経った頃……

彼女はついに子を孕んで……









僕達は……

僕達なりの愛の形を……

彼女と僕の愛の結晶と共に……

これからもずっとずっと一緒に……

完

文学女子に食べられる6

サークル：　ひまわりのたね
作：　種乃なかみ

2026/01/18

X（旧Twitter）：https://twitter.com/3hsensei
pixiv　：　https://www.pixiv.net/users/12823252